ニコンデジタルカメラ

COOLPIX 8800

クールピクス8800

使用説明書

商標説明

- CompactFlash™（コンパクトフラッシュ）は米国 SanDisk 社の商標です。
- Microsoft® および Windows® は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime は米国およびその他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- Adobe および Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- PictBridge ロゴは商標です。
- Microdrive ® は Hitachi Global Storage Technologies の登録商標です。
- D- ライティングは apical アピカル社の技術によるものです。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

ニコンデジタルカメラCOOLPIX8800をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この使用説明書はデジタルカメラCOOLPIX8800で撮影をお楽しみいただくために必要な情報を記載しています。ご使用の前に、この使用説明書をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくご使用ください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

本文中のマークについて

カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

カメラを使用する場合に、便利な情報を記載しています。

関連情報を記載した参照ページを記載しています。

コンパクトフラッシュカードの表記について

この使用説明書では、コンパクトフラッシュカードをCFカードと表記しています。

「初期設定」について

この使用説明書では、カメラご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

この「安全上のご注意」は製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⊘ 記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告（カメラについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

すぐに修理依頼を

電池、電源を抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

電池を取る

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

すぐに修理依頼を

電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。電池を抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。

見ないこと

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

発光禁止

車の運転者等にむけてスピードライトを発光しないこと

事故の原因となります。

発光禁止

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。

特に乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。

保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

保管注意

ストラップが首に巻き付かないようにすること

特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

警告

指定の電池または専用 AC アダプタを使用すること

指定以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

使用禁止

AC アダプタご使用時に雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠ 注意（カメラについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

保管注意

製品は、幼児の手の届かない所に置くこと

ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは、レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動注意

三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。

注意

カメラのレンズ可動部に注意すること

指がはさまれてケガの原因となることがあります。

使用注意

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと

本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。

病院で使う際も、病院の指示に従ってください。

禁止

プラグを抜く

長期間使用しないときは電源（電池や AC アダプタ）を外すこと

電池の液漏れにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

AC アダプタでご使用されている場合には、AC アダプタを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

禁止

本機器やACアダプタは布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと

内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

禁止

本機器に付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと

機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼす場合があります。

⚠ 危険（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池をショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管したりしないこと

ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。

持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。

使用禁止

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL7は、ニコンデジタルカメラ専用の充電式電池で、COOLPIX8800に対応しています。EN-EL7に対応していない機器には使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

危険

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

保管注意

電池は幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。

使用禁止

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること

液もれ、発熱の原因となります。

警告

電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービスセンターやリサイクル協力店へご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

警告

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠ 注意（専用 Li-ion リチャージャブルバッテリーについて）

危険

電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。

⚠ 警告（バッテリーチャージャーについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

すぐに修理依頼を

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

プラグを抜く

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

すぐに修理依頼を

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

電源プラグを抜く際、やけどに充分注意してください。販売店またはニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。

警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること

そのまま使用すると火災の原因になります。

使用禁止

雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

禁止

電源コードを傷つけたり加工したりしないこと

また、重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、むりに曲げたりしないこと

電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。

感電注意

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと

感電の原因になることがあります。

⚠ 注意（バッテリーチャージャーについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

放置注意

製品は、幼児の手の届かない所に置くこと

ケガの原因になることがあります。

⚠ 危険（リモコン用リチウム電池について）

危険

電池からもれた液が目に入った時はすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告（リモコン用リチウム電池について）

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池をショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池に表示された警告・注意を守ること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

使用説明書に表示された電池を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。

保管注意

電池は幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

電池の「+」と「−」の向きをまちがえないようにすること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

禁止

充電式電池以外は充電しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

電池を廃棄する時はテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

禁止

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

目　次

ご確認ください

●保証書とカスタマ登録カードについて

この製品には保証書とカスタマ登録カードが付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。「ご愛用者氏名」および「住所」「ご購入年月日」「ご購入店」がすべて記入された保証書を必ずお受け取りください。「保証書」をお受け取りになりませんと、ご購入 1 年以内の保証修理が受けられないことになります。もし、お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

- カスタマ登録は下記のホームページからも登録できます。

http://reg.nikon-image.com

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書が破損などによって内容が判読できなくなったときは、ニコンサービスセンターにて新しい使用説明書をお求めください（有料）。

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）を行う前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能するかを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビ受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

◆本製品を安心してご使用いただくために

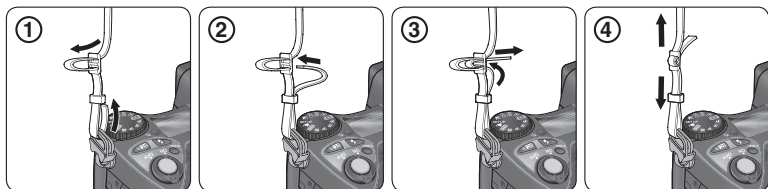
本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、AC アダプタ、外付けスピードライトなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合せでご使用ください。

- 模倣品の Li-ion リチャージャブルバッテリーを使用されますと、カメラの充分な性能が出せないことやバッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品および模倣品と組み合わせて使用することにより、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

はじめに

ご使用の前に

ストラップについて

付属のストラップは、次のようにカメラのストラップ取り付け部（2 ヵ所）に取り付けます。

レンズキャップについて

レンズキャップの取り付け・取り外しは、レンズキャップ装着レバーを押し込んで行ってください（イラスト①）。レンズキャップの紛失を防止するため、付属のひもをレンズキャップの穴に通して、ストラップに結んでおくことをおすすめします（イラスト②）。

イラスト①

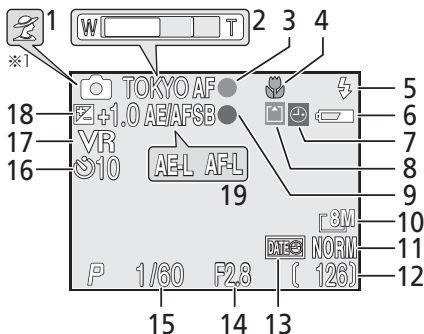
イラスト②

各部の名称

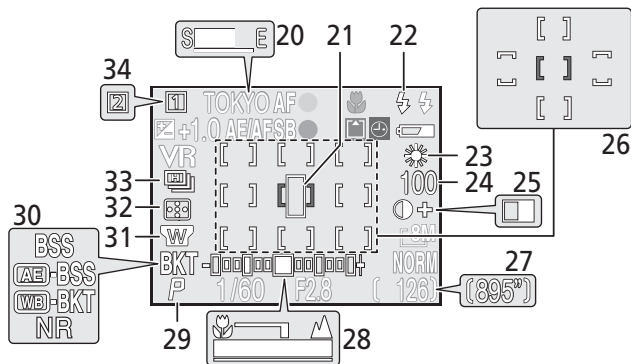
アクセサリーシューカバー (129)
表示パネル (16)
(イルミネーター) ボタン (16)
モードダイヤル (18)
(スピードライトモード) ボタン (53)
(露出補正／音声メモ録音・再生) ボタン (59、96)
シャッターボタン (19)
電源スイッチ (26)
リモコン受光部 (57)
FUNC ボタン (40、66、78、169)
AF 補助光 (LED) (35、177、187) ／
セルフタイマーランプ (56) ／
撮影確認 LED (170)
マイク (77、96)
レンズ (176、187)
レンズリング
アクセサリーシュー (129)
内蔵スピードライト (32、52)
Nikon
レンズリング
取り外し時
バッテリーカバー開閉ノブ (22)
バッテリーカバー (22、23)
三脚ねじ穴

AE/AF-L（AE/AF ロック）ボタン
（ 36、170）
ズーム（ ／ ）ボタン
（ 33、86、89）
（モニタ選択）ボタン
（ 15）
コマンドダイヤル
ストラップ取り付け部（2ヶ所）
CF カードスロット
（ 24）
電子ビューファインダー
（ 14、15）
液晶モニタ
（ 14、15、17）
CF カードカバー
（ 24、25）
（メニュー）ボタン
（ 40、108、138）
マルチセレクター
（ 18）
（クイックレビュー）ボタン
（ 37）
（決定）ボタン
／ （削除／セルフタイマー）ボタン
（ 37、76、84 ／ 56）
（表示切り換え）ボタン
（ 19、84）
手ブレ補正（VR）スイッチ
（ 60、127）
端子カバー
視度調節ダイヤル
（ 33）
DC 入力端子
（ 23）
デジタル端子（ 99、103）／
オーディオビデオ出力端子（ 97）
／ MF（フォーカスモード／マニュアルフォーカス）ボタン
（ 55、75）
スピーカー
（ 83、96）

撮影画面について（液晶モニタ／電子ビューファインダー）

撮影時には液晶モニタと電子ビューファインダーに同じ情報が表示されます。

図は説明のため、全表示を点灯させた状態を示しています。

1	オート撮影モード	30
	シーンモード	40
2	ズーム表示※2	33
	フォルダ名※3	39、141、161
3	AF 表示※4	34
4	フォーカスモード	55
5	スピードライトモード	53
6	バッテリーチェック※5	31
7	時計マーク※6	28
8	画像記録中表示	35
9	スピードライト表示	34
10	画像サイズ	50
11	画質	50
12	撮影可能コマ数	30
13	デート写し込み表示	173
14	絞り値	65、67
15	シャッタースピード	64、66
16	セルフタイマー／カウントダウン表示	56、57
17	手ブレ補正（VR）表示	60
18	露出補正アイコン／露出補正値	59
19	AE/AF、AE-L、AF-L アイコン	46、82、122

※1 選択されたシーンモードによって変更（40）
※2 ズーム操作時に表示
※3「**フォルダ設定**」（141）で新規作成または名称変更したフォルダの場合のみ表示
※4 シャッターボタンの半押し時に表示
※5 バッテリー残量が少なくなったときに表示
※6 日時が設定されていない場合に点滅表示

図は説明のため、全表示を点灯させた状態を示しています。

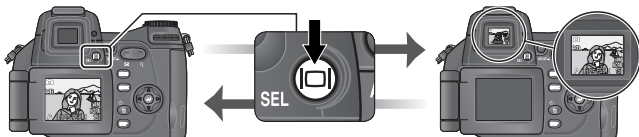
20 UH 連写進行表示................................ 112
21 スポット測光エリア 110
22 外付けスピードライトモード............ 130
23 ホワイトバランス 72
24 ISO 感度変更モード.....................69、70
25 階調補正... 117
モノクロモード.................................. 118
26 AF エリア※7、8.........................40、125
27 動画時間表示..80
28 露出インジケータ 67
マニュアルフォーカスインジケータ......75

29 露出モード.................................63 ～ 66
30 BSS ／ AE-BSS 116
ブラケティング／ホワイトバランス
ブラケティングアイコン..................... 132
ノイズ除去表示................................... 133
31 コンバータ... 121
32 測光方式... 110
33 連写モード... 112
34 カスタム No. 119

※7 撮影メニューの「**AF エリア選択**」（124）を「**オート**」に設定した場合は、被写体にピントが合ったときに 5 つの AF エリアのいずれかが表示され、「**マニュアル**」に設定した場合は、9 つの AF エリアが常に表示されます。

※8 シーンモード（40）を（ポートレート）、（夜景ポートレート）、（クローズアップ）に設定した場合は、9 つの AF エリアが常に表示されます。

（モニタ選択）ボタンについて

（モニタ選択）ボタンを使用すると、液晶モニタまたは電子ビューファインダーのどちらかに撮影画面を切り換えることができます。たとえば、明るい場所で液晶モニタが見えにくいときなどは、電子ビューファインダーを使用して撮影することをおすすめします。撮影状況に合わせてお選びください。

表示パネルについて

図は説明のため、全表示を点灯させた状態を示しています。

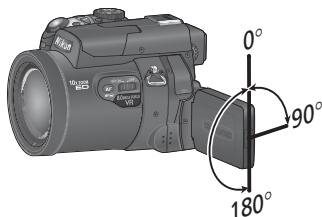
※ FUNC ボタンを押すと、シャッタースピードと絞り値が切り換わります（露出モードが **A** または **S** の場合を除く）。

（イルミネーター）ボタン

（イルミネーター）ボタン（12）を押すと、表示パネルが約 8 秒間点灯します。表示パネルが点灯している間に再度 （イルミネーター）ボタンを押すと、表示パネルが消灯します。

液晶モニタについて

液晶モニタの開き方

図のように液晶モニタを開くと、手前に最大 90˚、レンズ側に最大 180˚回転させることができます。さまざまなアングルからの撮影が可能です。

通常の撮影には

カメラ本体に折りたたんだ状態で、液晶モニタを使用した撮影や再生が行えます。通常の撮影では、この状態でのご使用をおすすめします。

セルフポートレートには

液晶モニタをレンズと同じ方向に向けると、セルフポートレートを撮影できます。液晶モニタには鏡に映ったような状態（鏡像）で表示されますが、撮影画像は正面から見た状態（正像）で記録されます。

使用しないときは

液晶モニタを使用しないときは、キズ・汚れ防止のため、モニタ画面を内側にして、カメラ本体に収納することをおすすめします。

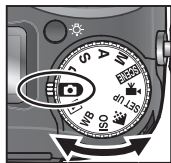
液晶モニタ取り扱い上のご注意

液晶モニタを回転させる場合は、回転範囲内でゆっくりと回してください。無理な力がかかると、カメラ本体と接続しているヒンジ部の破損の原因となります。

液晶モニタと電子ビューファインダーの自動切り換えについて

電源を ON にしているときに液晶モニタのモニタ画面を内側にして閉じると、自動的に液晶モニタが消灯し、電子ビューファインダーが点灯します。

モードダイヤルについて

モードを切り換えるときは、モードダイヤルを回して、使用するモードのアイコン（絵文字）を指標に合わせます。

露出モード（62）
撮影状況により4種類の露出モード（**P**、**S**、**A**、**M**）を選択して撮影できます。

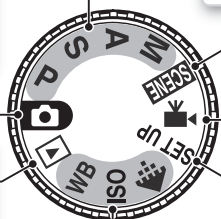
オート撮影モード（30）
オートで気軽に簡単に撮影できます。デジタルカメラをはじめてお使いになる方におすすめします。

再生モード（84）
撮影した画像を液晶モニタで再生します。

画質／画像サイズ設定（48）
ISO 撮像感度設定（69）
WB ホワイトバランス設定（71）
各設定のメニュー画面が表示されます。

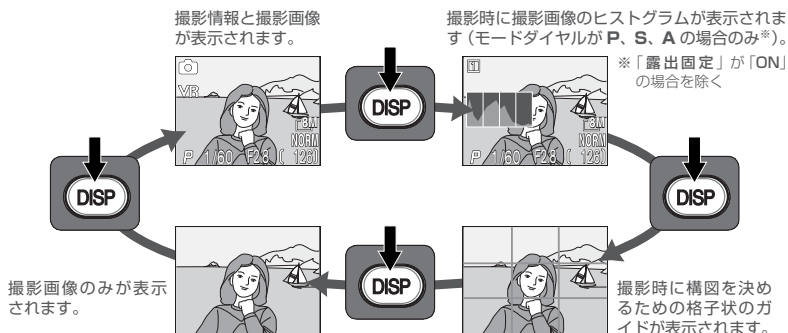
SCENE シーンモード（40）
パーティーや夜景など15種類のシーンに応じた最適な設定で撮影できます。

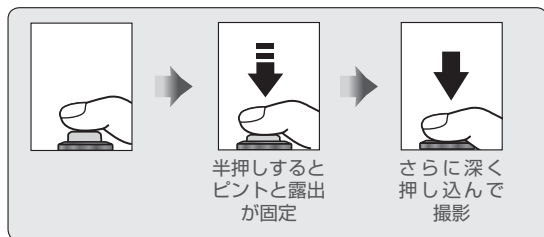
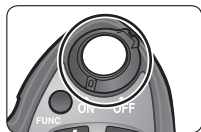
動画モード（77）
5種類の動画を撮影できます。

SET UP セットアップモード（157）
セットアップメニューが表示されます。日時や画面の明るさなどを設定します。

マルチセレクターについて

メニュー操作時（108、138、157）は、マルチセレクターを使用します。

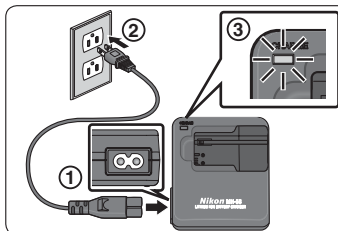
DISP（表示切り換え）ボタンについて

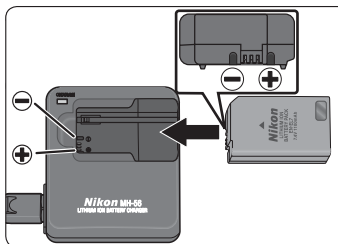
DISP（表示切り換え）ボタンを押すと、撮影時の画面表示を切り換えることができます。

シャッターボタンの半押しについて

シャッターボタンを軽く押して、途中で止める動作を「シャッターボタンを**半押しする**」といいます。シャッターボタンを半押しすると、ピントと露出が決まり、半押し中は、ピントと露出は固定されます。半押しした状態から、さらに深く押し込むと、シャッターがきれます。

撮影の準備

バッテリーを充電します

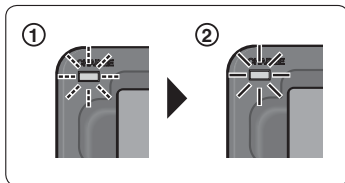
このカメラには専用 Li-ion リチャージャブルバッテリー（充電式リチウムイオン電池）EN-EL7 が付属しています。はじめてご使用になるときや、バッテリーの残量が少なくなったときは、付属の専用バッテリーチャージャー MH-56 で充分に充電してからご使用ください。

1 バッテリーチャージャーの電源コードを接続します

- 電源コードの AC プラグを AC プラグ差し込み口に（①）、電源プラグをコンセントに差し込みます（②）。CHARGE ランプが点灯して（③）、通電中であることをお知らせします。

2 付属のリチャージャブルバッテリー EN-EL7 の端子カバーを外して、バッテリーチャージャーにセットします

- バッテリーの端子部側からセットしてください。

バッテリーチャージャーについてのご注意

- バッテリーチャージャー MH-56 をご使用の際には、「安全上のご注意」の「警告」、「注意」（5 ～ 6）の注意事項を必ずお守りください。
- MH-56 は、ニコン Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL7 を充電するためのバッテリーチャージャーです。MH-56 に対応していないバッテリーは、使用しないでください。
- MH-56 には、国内での使用に適合する専用の電源コードが付属しています。付属の電源コードは MH-56 以外の製品には使用しないでください。また、MH-56 を海外で使用する場合は、別売の電源コードが別途必要になります。別売の電源コードについては、ニコンサービスセンターにお問い合わせください。

3 充電します

- CHARGE ランプが点滅し（①）、充電が始まります。
- CHARGE ランプが点灯したら（②）、充電が完了です。
- 充電時間は残量のない状態で約 2 時間 30 分です。

- CHARGE ランプの状態と意味は次のとおりです。

CHARGE ランプ	意　味
点　滅	バッテリーは充電中です。
点　灯	バッテリーの充電が完了しました。
速い点滅	• 指定温度外で使用しています。室温（5℃～ 35℃）でご使用ください。 • セットしたバッテリーに異常があります。ただちに電源プラグを抜いて充電を中断してください。バッテリーおよびバッテリーチャージャーは販売店やニコンサービスセンターにお持ちください。

4 充電が完了したら、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外し、電源プラグをコンセントから抜きます

- バッテリーチャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

バッテリーについてのご注意

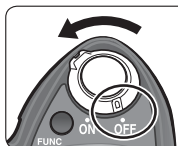
- リチャージャブルバッテリー EN-EL7 をご使用の前に、「安全上のご注意」の「警告」、「危険」（4 ～ 5）の注意事項を必ずお守りください。
- リチャージャブルバッテリー EN-EL7 をご使用の際には、「バッテリーの取り扱いについて」（178）の注意事項をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくご使用ください。
- 周囲の温度が 0℃～ 40℃の範囲を超える場所で使用しないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。充電は室温（5℃～ 35℃）で行ってください。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなる場合は、バッテリーの温度が下がるのを待ってから、充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因となります。
- バッテリーを使用しないときは、カメラやバッテリーチャージャーから必ず取り外してください。バッテリーをカメラに入れたままにしたり、バッテリーチャージャーにセットしたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので過放電になり使用できなくなるおそれがあります。
- バッテリーをカメラやバッテリーチャージャーから取り外した場合は、必ず付属の端子カバーを付けてください。

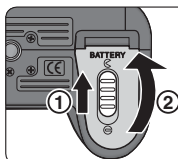
バッテリーのリサイクルについて

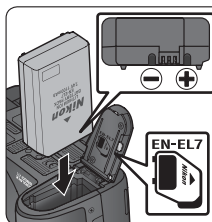
不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

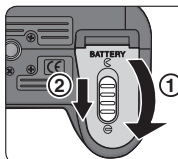
バッテリーを入れます

付属の専用バッテリーチャージャー MH-56 で充電した Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL7 をカメラに入れます。

1 カメラの電源が OFF になっていることを確認します

2 バッテリーカバーを開けます

- バッテリーカバー開閉ノブを ⊂ 側にスライドさせて (①)、バッテリーカバーを開けます (②)。

3 バッテリーを入れます

- バッテリーカバー裏側にある図に合わせて、＋と－を正しい向きで入れてください。
- **向きを間違えて挿入すると、カメラが破損するおそれがあります。正しい方向になっているか、再度ご確認ください。**

4 バッテリーカバーを閉じます

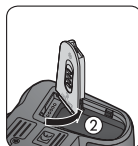
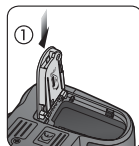
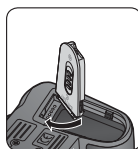
- バッテリーカバーを閉じて (①)、バッテリーカバー開閉ノブを ⊖ 側にスライドさせます (②)。
- バッテリーカバーがしっかりと閉じていることをご確認ください。

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL7 について

COOLIPIX 8800 が認識するバッテリーは Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL7 のみです。EN-EL7 以外のバッテリーは使用できません。

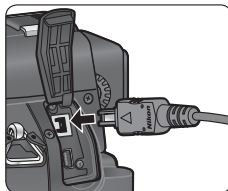
バッテリーを取り出すには

- バッテリーをカメラから取り出す場合は、カメラの電源を OFF にし、バッテリーカバー開閉ノブを 側へスライドさせてバッテリーカバーを開け、バッテリーを取り出してください。
- 使用直後はバッテリーが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

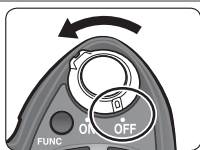
バッテリーカバーについて

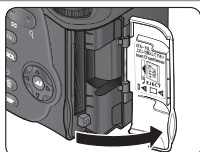
バッテリーカバーは、別売のバッテリーパック MB-CP11 を取り付けるためにカメラから取り外すことができます。バッテリーカバーは、下に押さえながら（①）片側から手前に引いて（②）取り外します。

バッテリーカバーを取り付けるときは、片側を先に挿入してから、右の図の方向に、カチッと音がするまで押し込んでください。

使用可能な AC アダプタについて

再生時やパソコンとの接続時など、カメラを長時間ご使用になる場合は、AC アダプタ EH-54（別売）（174）を使用してください。AC アダプタを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）から COOLPIX8800 へ電源を供給できます。EH-54 以外の AC アダプタは**絶対に使用しないでください**。カメラの故障、発熱の原因となります。

撮影の準備

CF カードを入れます

COOLPIX8800 で撮影した画像は、CF カードに記録されます。

1 カメラの電源が OFF になっていることを確認します

2 CF カードカバーを開けます

- はじめてご使用になるときは、CF カードスロットの中に CF カードの挿入方法が書かれた黄色のシートが入っています。CF カードを入れる前に取り出してよくお読みください。

3 CF カードを入れます

- イジェクトレバーが押し込まれていることを確認し（①）、CF カードをカバー裏側にある図のように**おもて面**を手前に向けて差し込み（②）、矢印方向にしっかりと奥まで挿入します。
- CF カードを挿入するときには、CF カードの端子側からカメラに挿入してください。
- **向きを間違えて挿入すると、カメラおよび CF カードが破損するおそれがあります。正しい方向になっているか、再度ご確認ください。**

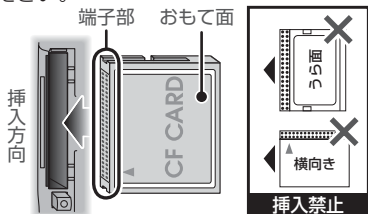
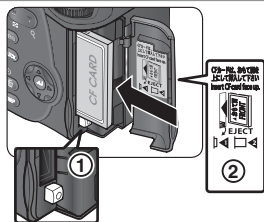
端子部　おもて面

挿入方向

CF CARD

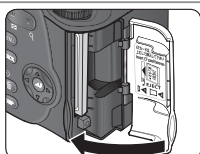
うら面

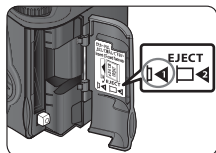
横向き

挿入禁止

4 CF カードカバーを閉じます

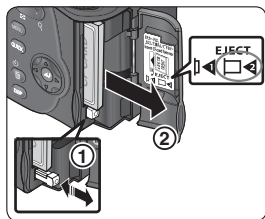
CF カードの初期化

CF カードをはじめて COOLPIX8800 で使用する場合は、**必ず CF カードを初期化してください。**詳しい手順については撮影メニューの「カードの初期化」（137）をご覧ください。

撮影の準備

CF カードを入れるときのご注意

イジェクトレバーが押し込まれていない状態で、CF カードカバーを閉じると、カードが少し外に出てしまうため、カメラの電源を ON にしたときにエラーの原因となります。CF カードを挿入する際は、必ずイジェクトレバーが押し込まれている（CF カードカバー裏側の図 ▯◀ の状態になっている）ことを確認してください。

CF カードを取り出すには

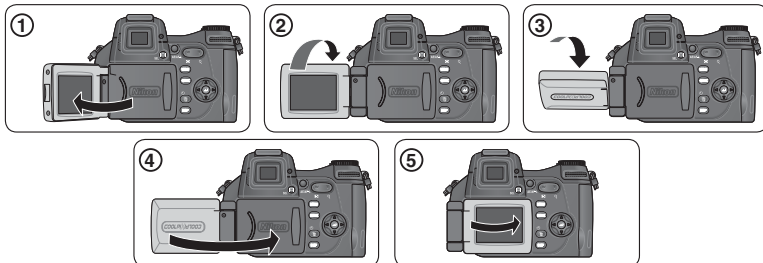
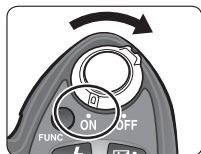
CF カードを取り出すときは、**必ずカメラの電源を OFF にしてください。**CF カードカバーを開け、イジェクトレバーを押し込むとイジェクトレバーが出ます（CF カードカバー裏側の図 ▭◀ の状態）。イジェクトレバーをもう一度押し込むと（①）、CF カードが出ますので（②）、引き抜いて取り出してください。

- カメラの使用直後は、CF カードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

使用可能な CF カードについて

使用可能な CF カードおよび使用上の注意については、「付録」の「使用可能な CF カード」（🔗 175）をご覧ください。

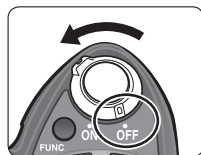
電源を ON にします

1 液晶モニタを開きます

次のように液晶モニタ部を開きます。

①
②
③
④
⑤
2 電源を ON にします

矢印の方向に電源スイッチを回します。

- はじめてカメラの電源を ON にしたときは、表示言語や日時を設定する画面が自動的に表示されます。設定方法は「言語と日時を設定します」(27) をご覧ください。

電源を OFF にするには

電源を OFF にするには、矢印の方向に電源スイッチを回します。電源を OFF にすると、液晶モニタ（および電子ビューファインダー）は消灯します。

オートパワーオフ機能（節電モード）

カメラの電源が ON の状態で、なにも操作しないで約 1 分（初期設定）経過すると、バッテリーの消耗を抑えるためにオートパワーオフ機能が作動して節電モードになり、液晶モニタ（および電子ビューファインダー）が消灯します。

節電モードを解除するには、DISP（表示切り換え）ボタン、QUICK（クイックレビュー）ボタン、または MENU（メニュー）ボタンを押すか、モードダイヤルを切り換えるか、シャッターボタンを半押ししてください。

オートパワーオフ機能が作動するまでの時間は、セットアップメニューの「**オートパワーオフ**」から、30 秒、1 分、5 分、30 分のいずれかに設定できます（168）。ただし、メニュー画面が表示されている場合は 3 分に、AC アダプタ EH-54（別売）を使用している場合およびスライドショー（146）を「**エンドレス**」に設定している場合には 30 分に固定されます。

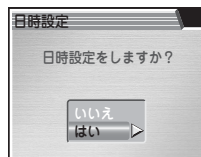
言語と日時を設定します

はじめてカメラの電源を ON にしたときは、表示言語や日時を設定する画面が自動的に表示されます。以下の手順で設定してください。

1

カメラの電源を ON にすると、「表示言語」画面が表示されます。マルチセレクターで言語を選択し、↵ を押します。

- MENU（メニュー）ボタンを押すと、言語および日時設定をキャンセルしてモードダイヤルに対応した画面に切り換わります。

2

「日時設定」画面が表示されます。△ または ▽ を押して「**はい**」を選択します。

- 「**いいえ**」を選択すると、日時設定をキャンセルしてモードダイヤルに対応した画面に切り換わります。

3

▷ を押します。「自宅の設定」画面が表示されます。

4

◁ または ▷ を押して自宅のあるタイムゾーン（地域）を選択します。

5

↵ を押します。「ワールドタイム」画面に切り換わります。

- 夏時間を設定する場合は、「**夏時間**」を選択し、↵ を押して □ を ☑ に切り換えます。その後、都市名の項目に戻ってください。
- 「**ゾーン選択**」を選択して ▷ を押すと、手順 3 に戻ります。

撮影の準備

夏時間について

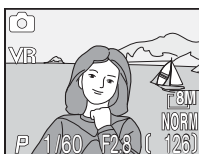
夏時間とは、夏の間だけ時刻を 1 時間繰り上げて、日中の明るい時間を有効利用する趣旨で、現在約 70 ヶ国で採用されている制度です。夏時間を設定すると、時刻が 1 時間進みます。ただし、日本国内では設定する必要がありません。

➍ を押します。「日時設定」画面に切り換わります。

「**年**」が点滅します。△ または ▽ を押して年を合わせます。

▷ を押して、「**月**」の設定に移ります。7 と 8 の手順を繰り返して、「月」、「日」、「時」、「分」を順番に合わせます。

▷ を押します。「**年月日**」の位置で文字が点滅します。

△ または ▽ を押して、「**年月日**」、「**月日年**」、「**日月年**」の中から、日付の表示順を選択します。

➍ を押します。日時が決定して、モードダイヤルに対応した画面に切り換わります（図は 📷（オート撮影）モードセット時）。

- 日付と時刻が設定されていない場合は、撮影画面に時計マーク（⊕）が点滅し（☞ 14）、撮影した画像の撮影日時情報には、「0000.00.00　00:00」（動画（☞ 77）の場合は「2004.09.01 00:00」）と記録されます。

日時設定について

- 日時を設定すると、撮影した画像に撮影日時が情報として記録されます。
- 日時を設定しただけでは、プリント時に日付は写し込まれません。日付を入れてプリントする方法については、102 ページをご覧ください。
- カメラの電源を ON にしたときに時計マーク (🕘) が点滅表示された場合は、日時を設定してください。
- カメラの内蔵時計は一般的な時計（腕時計）ほど精度はよくありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

バックアップ電池について

バックアップ電池はバッテリーや AC アダプタでカメラに電源が供給されていると、約 10 時間で充電されます。充電が完了すると、カメラのバッテリーを取り出したり、AC アダプタを外しても、記憶された日時は**数日間**保持されます。**バックアップ電池が切れたときは、自動的に日時設定画面が表示されますので、日時を設定してください。**

- バックアップ電池の充電が不充分な場合、設定した日時のデータが失われることがあります。

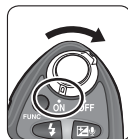
撮影の基本ステップ

1. モードダイヤルを にセットします

（オート撮影）モードでは、撮影状況に合わせて自動的にカメラの各機能が最適な状態にセットされます（初期設定の場合）。はじめてデジタルカメラをご使用になる方でも簡単に撮影できます。

1 カメラのモードダイヤルを に合わせます

2 カメラの電源を ON にします

- 電源を ON にすると、レンズが繰り出し、液晶モニタ（または電子ビューファインダー）にオープニング画面（164）が表示された後、撮影画面に切り換わります。

オート撮影モード
オート撮影モード時には、 が表示されます。

バッテリーチェック表示
バッテリーの残量が少なくなると表示されます。

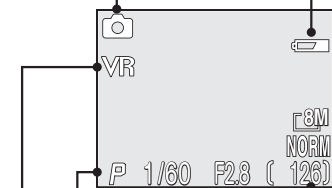
バッテリーチェック表示
常に表示されます。

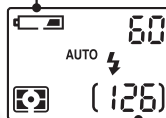
VR
8M
NORM
P 1/60 F2.8 [126]

撮影画面

60
AUTO
[126]

表示パネル

画質／画像サイズ（48）
撮影目的によって画質や画像サイズを変えることができます。

露出モード（62）
オート撮影モード時には、**P** が表示されます。

撮影可能コマ数
撮影可能コマ数は、使用する CF カードの残量（メモリ残量）によって異なります。

手ブレ補正（VR）表示（60）
手ブレ補正（VR）スイッチをオンにすると、手ブレ補正（VR）表示が表示され、撮影を行うときの手ブレの影響を軽減します。

バッテリーチェック表示について

液晶モニタ／電子ビューファインダー	表示パネル	意　味	カメラの状態
表示なし	（点灯）	バッテリーの残量は充分です。	撮影できます。
	（点灯）	バッテリーの残量が減り始めました。	
（点灯）	（点灯）	バッテリーの残量が少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。	撮影できますが、内蔵スピードライト発光後、充電中に液晶モニタが消灯します。
電池残量がありません	（点滅）	バッテリーの残量がなくなりました。充電済みのバッテリーと交換してください。	撮影できません。

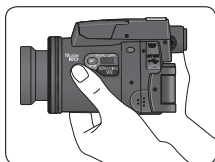
メモリ残量について

「メモリ残量がありません」という警告メッセージ（ 180）が表示されたときは、CF カードに撮影できるメモリ残量がないため、撮影を行うことができません。このようなときは次のいずれかの方法で対処してください。

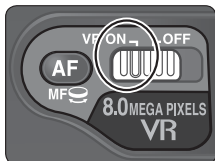
- 画質や画像サイズを変更する（条件によっては撮影できない場合があります）（ 48）。
- 新しい CF カードに交換する（ 24）。
- CF カードに記録されている画像を削除する（ 37、139）。

2. カメラを構え、構図を決めます

1 カメラを構えます

- 手ブレを防ぐため、カメラは両手でしっかりと持ちます。

カメラを構えるときのご注意

撮影の際に、レンズや内蔵スピードライト発光部、マイク、AF 補助光 (LED) などに指や髪、ストラップがかかったりしないようにご注意ください。

- 撮影の前に、手ブレ補正 (VR) スイッチがオンになっていることを確認してください。手ブレ補正機能を使うと、手ブレの影響を軽減することができます (60)。また、構図も決めやすくなります。

内蔵スピードライトについてのご注意

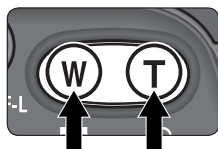
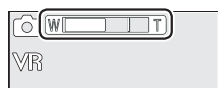
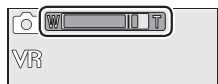
- (オート撮影) モードの場合、シャッターボタンを半押しすると、暗いときに内蔵スピードライトが自動的にポップアップして (上がって) 発光します。内蔵スピードライトについては、「いろいろな撮影機能」の「スピードライトモード」をご覧ください (52)。
- **ポップアップした内蔵スピードライトを指などで押さえて撮影しないでください。**この場合、シャッターボタンを半押ししたときに、撮影画面に警告が表示されます (182)。
  - ・**内蔵スピードライトを無理に手で持ち上げないでください。破損の原因となります。**
  - ・**使用しないときは内蔵スピードライトをまっすぐ押し下げて収納してください。**

暗い場所で撮影する場合の液晶モニタについて

液晶モニタを使用して暗い場所で撮影する場合、画面を見やすくするために通常の撮影時にくらべてざらついた表示になることがあります。

2 構図を決めます

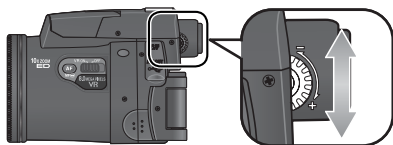
写したいもの（被写体）を画面の中央に合わせ、構図を決めます。

- このカメラは、10 倍の光学ズームレンズを装備しています。ズームボタン（W T）を押すことにより、撮影する範囲を変更することができます。
- W ボタンを押すと、レンズが広角側にズーミングして、撮影する範囲が広くなります。
- T ボタンを押すと、レンズが望遠側にズーミングして、被写体を大きく写すことができます。
- 光学ズームをもっとも望遠側にして、さらに T ボタンを約 2 秒以上押し続けると、自動的に電子ズームが作動し、光学ズームの最大倍率（10 倍）の約 4 倍（合計約 40 倍）まで拡大することができます。
- 電子ズームが作動すると、ズーム表示が黄色に変わります。
- 電子ズームをキャンセルするには、ズーム表示が白色に戻るまで W ボタンを押し続けてください。

撮影画面上部のズーム表示はズームの量を表します。

電子ズーム時

電子ズームについてのご注意

- 電子ズーム（126）は、カメラがとらえた画像データをデジタル処理することで、画像の中央部を拡大しています。光学ズームと違い、画像の中央部分を単に画面全体に拡大するため、粒子の粗い画像になります。
- 電子ズームの場合には、手ブレ補正（VR）機能の効果を十分に発揮することができません。手ブレ補正（VR）機能の効果を最大限活用するには、光学ズームをお使いください。

電子ビューファインダーの視度調節について

電子ビューファインダーの視度が合わず、被写体が見えにくい場合には、電子ビューファインダーの視度を調節することができます。被写体がもっともよく見える位置まで視度調節ダイヤルを回してください。
電子ビューファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを操作するときは、誤って指で目を傷つけないように注意してください。

3. ピントを合わせて撮影します

1 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます

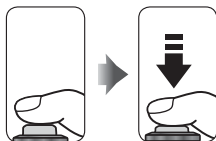
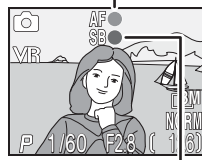
- シャッターボタンを半押しすると、ピントと露出が決まり、半押し中はピントと露出が固定されます (19)。
- （オート撮影）モードでは、撮影画面中央にある被写体にピントが合います。
- 被写体が暗い場合は、内蔵スピードライトが自動的にポップアップして発光します。

シャッターボタンを半押ししたときの AF 表示 (AF●)、スピードライト表示 (SB●) の状態は次のとおりです。

表　示		内　容
AF 表示	緑色点灯	被写体にピントが合っています。
	緑色点滅	被写体にピントを合わせることができません。構図を変えて再度ピントを合わせてください。
スピードライト表示	赤色点灯	シャッターボタンを押し込むと、内蔵スピードライトが発光します。
	赤色点滅	内蔵スピードライトは充電中です。
	非表示	内蔵スピードライトは発光しません。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、ゆっくりと最後まで押し込み、撮影します

- シャッターボタンを一気に押すと手ブレの原因となります。シャッターボタンはゆっくりと最後まで押し込んでください。

画像記録中についてのご注意

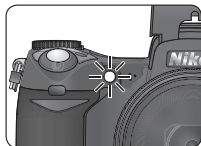
- 撮影画面に 🗎 マークまたは ⌛ マークが表示されている場合は、画像を記録中ですので、CF カードを取り出したり、バッテリーや専用 AC アダプタを抜いたりしないでください。書き込み中の画像が記録されなかったり、撮影した画像やカメラ、CF カードが壊れたりする場合があります。
- 撮影画面に ⌛ マークが表示されるまでは撮影を続けることができます。

バッテリーチェック表示中の内蔵スピードライトの使用について

バッテリーチェック表示が撮影画面に点灯しているときに内蔵スピードライトを発光すると、発光後の充電中は液晶モニタが消灯し、バッテリーの消耗を防ぎます。

AF 補助光について

COOLPIX8800 は、AF 補助光を搭載しています。被写体が暗い場合にシャッターボタンを半押しすると、AF 補助光が自動的に照射され、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせを可能にします。

- AF 補助光が届く範囲は、約 0.5 ～ 1.4m です。
- 次の場合は AF 補助光を使用することができません：
  - ・動画モードが「**微速度撮影**」以外に設定されている場合 (77)
  - ・フォーカスモードが ▲（遠景モード）にセットされている場合 (55)
  - ・シーンモード (40) が（風景）、（夜景）、（ミュージアム）、（打ち上げ花火）、（スポーツ）、（トワイライト）に設定されている場合
  - ・「**フォーカス**：**AF エリア選択**」(124) が「**マニュアル**」に設定されているか、シーンモード (40) が（ポートレート）、（夜景ポートレート）、（クローズアップ）に設定されており、中央以外の AF エリアが選択されている場合
  - ・マニュアルフォーカスがセットされている場合 (75)
  - ・「**コンバータ**」が「**OFF**」以外に設定されている場合 (121)

液晶モニタおよび電子ビューファインダーの撮影画面について

液晶モニタおよび電子ビューファインダーの撮影画面は、撮像素子（CCD）からの映像を処理して表示します。そのため、実際の被写体の動きよりも若干遅れて表示されます。動きの速い被写体の撮影など、表示の遅れを軽減したい場合は、セットアップメニューの「**モニタ設定**；**レリーズ応答速度**」を「**クイックレスポンス**」に設定してください (162)。

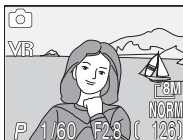
オートフォーカスが苦手な被写体

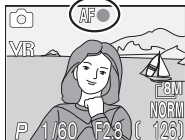
次のような場合、オートフォーカスでは適切なピント合わせができないことがあります。

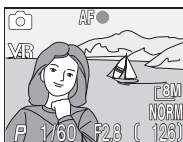
- 非常に暗い被写体（AF 補助光範囲外、または AF 補助光非照射時）
- 画面内の輝度差が非常に大きい場合（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- コントラストがない被写体（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 動きの速い被写体

構図を変えて撮影する（AE/AF ロック撮影）

AF/AE ロック撮影は、シャッターボタンを半押ししてピントと露出を固定したまま、構図を変えて撮影する方法です。被写体を画面の中央以外に配置して撮影したい場合や、オートフォーカスが苦手な被写体を撮影する場合に便利です。

1 ピントを合わせます

写したいものが画面の中央になるようにカメラを向け、シャッターボタンを半押しします。

2 AF 表示を確認します

ピントが合うと、AF 表示が点灯します。

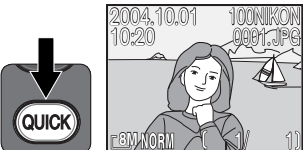
3 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変えます

- シャッターボタンを半押ししている間はピントと露出が固定されます。
- カメラから被写体までの距離を変えないでください。被写体との距離が変わった場合は、いったんシャッターボタンから指を離し、ピントを合わせなおしてください。

4 シャッターボタンを押し込んで撮影します

AE/AF-L（AE/AF ロック）ボタン

AE/AF ロック撮影は、AE/AF-L ボタンを押すことにより行うこともできます。AE/AF-L ボタンを押している間はピントと露出が固定されます。セットアップメニューの「**ボタン設定**：**AE-L、AF-L**」では、AE/AF-L ボタン（170）の機能を変更することができます。

4. 撮影した画像を確認します（レビュー再生／簡易再生モード）

COOLPIX8800 のレビュー再生、簡易再生モードを使用すると、モードダイヤルを ▶（再生）モードに切り換えなくても、撮影後すぐに画像を再生することができます。

1

撮影モードで QUICK（クイックレビュー）ボタンを押します。

- 撮影した画像が撮影画面の左上に縮小表示されます（レビュー再生モード）。

2

レビュー再生モード時に QUICK ボタンを押します。

- 撮影した画像が画面全体に表示されます（簡易再生モード）。
- 簡易再生モード時に QUICK ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻り、いつでも撮影できます。

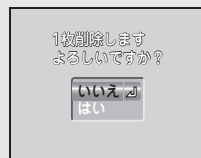
マルチセレクターの ◁ または △ を押すと前の画像を、▷ または ▽ を押すと、次の画像を見ることができます。

表示中の画像を削除する場合（簡易再生モード）

簡易再生モード時に 🗑 ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。マルチセレクターの ▽ を押して、「**はい**」を選択し、↵ を押すと、表示中の画像を削除して、簡易再生モードに戻ります。

- 「**いいえ**」を選択して ↵ を押すと、画像は削除されずに簡易再生モードに戻ります。

画像の削除について

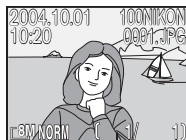
レビュー再生モードで 🗑 ボタンを押しても画像は削除されません。

再生モード ▶ について

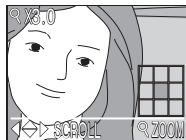
画像を再生するには、レビュー再生モード、簡易再生モードの他に、モードダイヤルを ▶ に切り換える再生モードが使用できます (84)。

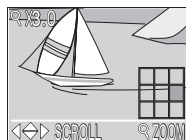
画像再生について

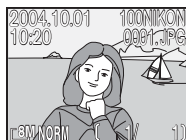
表示画像を切り換えた直後は、CF カードに記録された画像を素早く表示するために、画像が粗くなることがあります。

クイック拡大

簡易再生モード時または再生モード（1 コマ再生モード：84）時にマルチセレクターの を押すと、画面が 3 倍に拡大される「クイック拡大モード」になります。撮影した画像のピントの状態などを液晶モニタで確認することができます。

簡易再生モード時または 1 コマ再生モード時に、マルチセレクターを使ってクイック拡大したい画像を液晶モニタに表示します。

2

 を押すと、画面が拡大表示されます。画面は縦横 3 画面ずつの大きさに拡大され、液晶モニタには中央の 1 画面が表示されます。

3

他の部分を見たい場合は、画面の右下に表示されるガイドを参考に △、▽、◁、▷ を押して表示される部分を切り換えてください。

4

 を押すと簡易再生モードまたは 1 コマ再生モードに戻ります。

クイック拡大中にズームボタン（W／T）を押すと、拡大表示モード（89）になり、自由に倍率を変更することができます。

ファイル名とフォルダ名

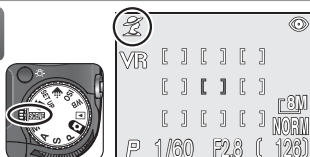
COOLPIX8800で撮影した画像や動画、録音した音声は、カメラが自動的に作成するファイル名で保存されます。最初の4文字は識別子を表しており、次の4桁の番号は撮影順に連番でつけられます（最初の4文字はカメラの画面には表示されません）。各ファイルの最後には、ファイルのタイプを示す拡張子がつきます（例；DSCN0001.JPG）。

ファイルのタイプ		識別子	拡張子	
撮影した画像	画質がRAWの静止画	DSCN	.NEF	48
	画質がHIの静止画	DSCN	.TIF	48
	その他の静止画	DSCN	.JPG	48
	動画	DSCN	.MOV	77
	微速度撮影モードで撮影した動画	INTN	.MOV	81
編集した画像	トリミングで作成した画像	RSCN	.JPG	91
	スモールピクチャー	SSCN	.JPG	93
	D-ライティングで作成した画像	FSCN	.JPG	95
録音した音声	元画像に録音した音声メモ	DSCN	.WAV	96
	トリミングで作成した画像に録音した音声メモ	RSCN	.WAV	96
	スモールピクチャーに録音した音声メモ	SSCN	.WAV	96
	D-ライティングで作成した画像に録音した音声メモ	FSCN	.WAV	96

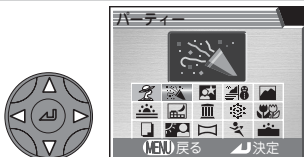
- ファイルを保存するフォルダはカメラが自動的に作成し、フォルダ名には3桁のフォルダ番号がつきます（例：100NIKON）。ひとつのフォルダ内に200個のファイルがある場合には、フォルダ番号に1を加えた新しいフォルダを自動的に作成します（例：100NIKON → 101NIKON）。
  - ・UH連写時は、撮影を行うたびに「N_XXX」フォルダ（例：101N_001）が新しく作成され、識別子が「DSCN」の一連の画像が保存されます（111）。
  - ・インターバル撮影時は、撮影を行うたびに「INTVL」フォルダが新しく作成され、ファイル名「DSCN0001」から一連の画像が保存されます（114）。
  - ・パノラマアシストモード時は、撮影を行うたびに「P_XXX」フォルダ（例：101P_001）が新しく作成され、ファイル名「DSCN0001」から一連の画像が保存されます（46）。
- フォルダ内のファイル番号が9999に達した場合には、カメラが自動的に新しいフォルダを作成し、そのフォルダ内で再び0001から連番でファイル番号をつけます。
- フォルダ番号が999のときにファイル数が200個またはファイル番号が9999に達した場合には、CFカードの記録容量に余裕があっても、それ以上撮影できません。CFカードを交換するか、CFカードを初期化（137）してください。
- 画像を再生すると、最初に番号のもっとも大きいフォルダの中のファイル番号のもっとも大きい画像が表示されます。

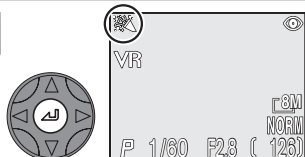
シーンモード

SCENE シーンモードの使い方

COOLPIX8800 では、15 種類のシーンモードが使用できます。撮影状況や被写体に合ったシーンモードを選択するだけで、複雑な設定をしなくても思いどおりの撮影が簡単に楽しめます。シーンモードの選択方法は次のとおりです。

モードダイヤルを SCENE に合わせます。

- 初期設定では が表示されます。

MENU（メニュー）ボタンを押すと、シーンモードメニューが表示されます。

マルチセレクターでセットしたいシーンモードを選択します。

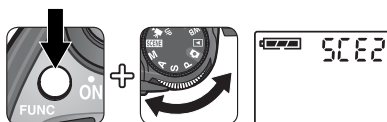
- 選択されているシーンモードのアイコンが画面上部に大きく表示されます。
- コマンドダイヤルを回してシーンモードを選択することもできます。
- シーンモードの変更をキャンセルする場合は MENU ボタンを押します。

 を押すと、選択したシーンモードがセットされ、撮影画面に戻ります。

- 選択したシーンモードのアイコンが撮影画面の左上に表示されます。

思いどおりの画像にならない場合は

撮影状況によっては、選択したシーンモードでは期待どおりの結果にならない場合があります。このような場合は、モードダイヤルを 、**P**、**S**、**A**、**M** に合わせて撮影を行うことをおすすめします。

シーンモードの切り換えについて

シーンモードは、撮影画面の表示中に FUNC ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して切り換えることもできます。

AF 補助光の制限について

（風景）、（夜景）、（ミュージアム）、（打ち上げ花火）、（スポーツ）、（トワイライト）に設定時、または （ポートレート）、（夜景ポートレート）、（クローズアップ）時に中央以外の AF エリアが選択されている場合には、AF 補助光は照射されません。

SCENE シーンモードの種類と特徴

ポートレート　表示パネル：SCE 1

人物の撮影に使用します。背景をぼかし、人物を浮き立たせて立体感のある画像に仕上げます。

- 背景をぼかす度合いは、明るさで変化します。
- ピントを合わせるAFエリアを、マルチセレクターで9ヶ所から選択できます。

ϟ	👁（赤目軽減自動発光）全モードに変更可能	AF	通常AF に固定

パーティー　表示パネル：SCE2

パーティー会場などで、キャンドルライトを活かしてきれいに写すなど、被写体の背景を活かした雰囲気のある画像に仕上げます。

- 画面の中央にある被写体にピントが合います。

ϟ	👁（赤目軽減自動発光）**自動発光**に変更可能	AF	通常AF に固定		☆ カメラをしっかり持ってください

表の中の記号について

ϟ：スピードライトモード（52）　AF：フォーカスモード（55）　手ブレ度合い表示

シーンモードによっては、被写体の明るさに合わせてシャッタースピードが遅くなり、手ブレが起きやすくなる場合があります。表に示した手ブレ度合い表示に応じて、次のように対処してください。

- ☆　：脇を締めて、カメラを固定するようにしっかりと持ってください。
- ☆☆：三脚を使用するか、安定した台などにのせて、カメラを固定してください。

AFエリアの選択方法

（ポートレート）、（夜景ポートレート）、（クローズアップ）設定時は、9つのAFエリアが撮影画面に表示されます。マルチセレクターの △（上に移動）、▽（下に移動）、◁（左に移動）、▷（右に移動）、（中央に移動）を押して被写体があるAFエリアを選択してください。選択したAFエリアは赤く表示されます。

手ブレ補正（VR）機能について

手ブレ補正（VR）機能（60）を使用すると、手ブレの影響を軽減します。また、構図も決めやすくなります。なお、三脚使用時には手ブレ補正（VR）スイッチをオフにしてください。

感度表示について

ISO（感度変更）アイコンが表示されているときに撮影された画像は、標準感度に比べて多少ざらついた画像になります（54）。

夜景ポートレート　表示パネル：SCE3

夕景や夜景をバックに人物を撮影したいとき、背景を黒くつぶすことなく、人物も背景も自然に表現できます。

- 画像にノイズが発生するような遅いシャッタースピードでは、自動的にノイズ除去が行われます（ 133）。
- ピントを合わせる AF エリアを、マルチセレクターで 9 ヶ所から選択できます（ 41）。

フラッシュ	AF	
（赤目軽減自動発光） **自動発光**に変更可能	通常 AF に固定	★★ 三脚の使用をおすすめします

海・雪　表示パネル：SCE4

晴天の海や湖、砂浜や雪景色を明るく鮮やかに撮影します。

- 画面の中央にある被写体にピントが合います。

フラッシュ	AF
自動発光 全モードに変更可能	通常 AF に固定

風景　表示パネル：SCE5

風景を撮影したいときに使用します。木々の緑や青空などの輪郭やコントラストを強調して鮮やかな色の画像に仕上げます。

- フォーカスは遠景にピントが合うようにセットされます。シャッターボタンを半押しすると、常に AF 表示が点灯します。
- 被写体が暗くても、AF 補助光は照射されません。

フラッシュ	AF
（発光禁止） に固定	（遠景モード） に固定

夕焼け　表示パネル：SCE6

美しい赤い夕焼け（朝焼け）を見たままに美しく表現します。

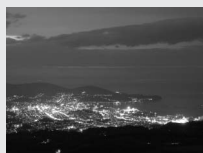
- 画面の中央にある被写体にピントが合います。

フラッシュ	AF	
（発光禁止） に固定	通常 AF に固定	カメラをしっかり持ってください

シーンモード

夜景　表示パネル：SCE7

夜景を撮影する際、スローシャッターで夜景の雰囲気を表現した写真を撮影できます。

- 画像にノイズが発生するような遅いシャッタースピードでは、自動的にノイズ除去が行われます（133）。
- フォーカスは遠景にピントが合うようにセットされます。シャッターボタンを半押しすると、常に AF 表示が点灯します。
- 被写体が暗くても、AF 補助光は照射されません。

 （発光禁止）に固定　 （遠景モード）に固定　 ★★ 三脚の使用をおすすめします

ミュージアム　表示パネル：SCE8

スピードライトの発光が禁止されている美術館など、内蔵スピードライトを発光させたくない場所で撮影するときに使用します。

- 「BSS」が自動的に「ON」になります。シャッターボタンを押し続けている間、最高で 10 コマを連続撮影し、その中からもっともシャープな画像をカメラが 1 コマ自動的に選択します。
- 博物館、美術館などによっては撮影そのものが禁止されている場合があります。あらかじめご確認ください。
- 画面の中央にある被写体にピントが合います。
- 被写体が暗くても、AF 補助光は照射されません。
- セルフタイマーは使用できません。

（発光禁止）に固定　 通常 AF　マクロに設定可能　 ★ カメラをしっかり持ってください

打ち上げ花火　表示パネル：SCE9

スローシャッターで、大きく広がる打ち上げ花火をきれいに撮影できます。

- フォーカスは遠景にピントが固定されます。シャッターボタンを半押しすると、常に AF 表示が点灯します。
- 被写体が暗くても、AF 補助光は照射されません。
- 露出補正は使用できません。
- セルフタイマーは使用できません。

 （発光禁止）に固定　 （遠景モード）に固定　 ★★ 三脚の使用をおすすめします

クローズアップ　表示パネル：SCEa

草花や昆虫、小さな被写体などのクローズアップ（接写）写真を撮影したいときに使用します。

- 撮影画面の アイコンが緑色で表示されるズーム位置に自動的にセットされ、レンズ前約 3cm まで被写体にピントを合わせることができます。ただし、ズーム位置により、最短撮影距離は変化します。
- シャッターボタンの半押しでピントが固定されるまで、AF によるピント合わせを繰り返します。
- 約 50cm よりも近距離で内蔵スピードライトを使用すると、光が充分に行きわたらない（ケラレる）ことがあります。テスト撮影を行い、再生して画像を確認してください。
- ピントを合わせる AF エリアを、マルチセレクターで 9 ヶ所から選択できます（41）。

（発光禁止）全モードに変更可能　AF （マクロモード）に固定

カメラをしっかり持ってください

モノクロコピー　表示パネル：SCEb

High-resolution, 8-megapixel CCD

The COOLPIX 8800 offers 8.0 effective megapixels for a remarkably high resolution of 3,264 x 2,448 pixels. Whether you crop an image or blow it up to full frame, the image clarity will surprise you.

Nikon's superior optical technology

Surpassing traditional glass optics, the COOLPIX 8800's powerful lens incorporates state-of-the-art quality. The 10x optical Zoom-Nikkor ED lens offers you a 35-350mm (35mm equiv.) range, plus a 4x digital zoom. And the Macro mode lets you shoot as close as 3cm (1.2 in.)! The COOLPIX 8800 uses two ED (Extra-low Dispersion) glass elements to minimize chromatic aberration and deliver crisp, clear images throughout the entire zoom range.

ED Lenses

VR Unit

Ultra high-powered 10x zoom:

ホワイトボードや名刺、印刷物の文字などを、シャープに複写することができます。

- 名刺など近くのものを撮影する場合は、マクロモード（55）にセットしてください。
- 複写するものが赤色、青色などの場合、文字などが薄くなることがあります。
- 画面の中央にある被写体にピントが合います。

（発光禁止）全モードに変更可能　AF 通常 AF に設定可能

逆光　表示パネル：SCEc

内蔵スピードライトが常に発光して、逆光状態のときに人物が影にならず美しく撮影することができます。

- 画面の中央にある被写体にピントが合います。

（強制発光）に固定　AF 通常 AF に固定

ノイズ除去機能について

夜景など、シャッタースピードが低速になる撮影では、記録された画像に星状のノイズが生じることがあります。シーンモードの （夜景ポートレート）、（夜景）、（トワイライト）選択時には撮影画面にノイズ除去表示（**NR**）が表示され、1/4 秒以下の低速シャッタースピードになる撮影では、自動的にノイズを軽減するノイズ除去が行われます。この場合、画像の記録時間が通常の 2 倍以上かかります。

パノラマアシスト (46) 表示パネル：SCEd

複数の画像を、最初に撮影した画像と同じホワイトバランスと露出で撮影します。撮影した複数の画像をパソコンに取り込み、パノラマ画像作成ソフトを使用して、1 つの画像に合成する場合に便利です。

- 露出補正、スピードライトモード、フォーカスモード、ズーム操作は最初に撮影したときの状態に固定されます。
- 画面の中央にある被写体にピントが合います。

(発光禁止) 全モードに変更可能	AF 通常 AF 全モードに変更可能

スポーツ 表示パネル：SCEE

高速シャッターで一瞬の動きを鮮明に写します。動きの速い被写体をとらえた、躍動感のあるスポーツ写真を撮影したい場合に適しています。

- シャッターボタンの半押しでピントが固定されるまで、AF によるピント合わせを繰り返します。
- シャッターボタンを押し続けることにより、約 2.3 コマ / 秒で連続撮影が可能になります。ピントと露出、ホワイトバランスは、1 コマ目を撮影した条件に固定されます。
- 連続撮影中は液晶モニタ（および電子ビューファインダー）が消灯します。
- 画面の中央にある被写体にピントが合います。
- 被写体が暗くても、AF 補助光は照射されません。
- セルフタイマーは使用できません。

(発光禁止) に固定	AF 通常 AF 全モードに変更可能

トワイライト 表示パネル：SCEF

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中で、風景を見たままに撮影します。

- 画像にノイズが発生するような遅いシャッタースピードでは、自動的にノイズ除去が行われます (133)。
- フォーカスは遠景にピントが合うようにセットされます。シャッターボタンを半押しすると、常に AF 表示が点灯します。
- 被写体が暗くても、AF 補助光は照射されません。

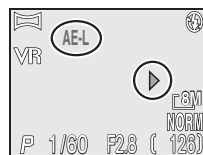
(発光禁止) に固定	AF (遠景モード) に固定	カメラをしっかり持ってください

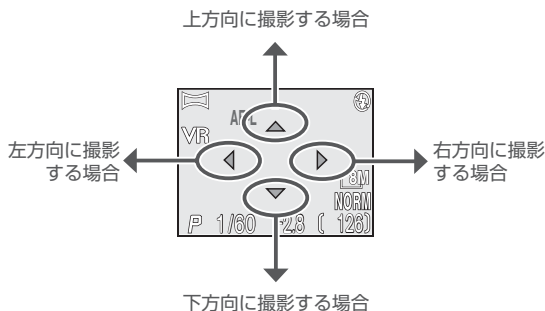
シーンモード

パノラマアシストモードの撮影手順

1

シーンモードメニューで、マルチセレクターを使用して (パノラマアシストモード)を選択します。

2

を押すと、撮影画面上で画像をつなげるパノラマ方向表示 (▷) が緑色で表示されます (撮影画面に AE-L のアイコンが黄色で表示されます)。

3

画像をつなげる方向をマルチセレクターで選択します。選択したパノラマ方向表示が撮影画面に表示されます。

• パノラマ方向表示が緑色で表示されている状態では、パノラマ方向を変更できます。

パノラマアシストモードで撮影された画像の保存と再生

• パノラマアシストモードで撮影を行うたびに「P_XXX」フォルダ (例：101P_001) が新しく作成され、一連の画像が保存されます。
• パノラマアシストモードで撮影された画像を再生する場合には、再生メニューの「**フォルダ設定**」(141) で「**すべてのフォルダ**」を選択するか、「P_XXX」という名称の専用フォルダ (例：P_001) を選択してください。

露出固定表示

パノラマアシストモードに設定すると、AE-L アイコンが撮影画面に黄色で表示されます。最初の撮影を行うと、露出とホワイトバランスがその条件に固定され、AE-L アイコンは白色に変わります。以後、同じ条件で撮影を行います。

4

シャッターボタンを押して最初の画像を撮影します。

- 1 コマ目の撮影後に露出とホワイトバランスが固定されるため、AE-L のアイコンが黄色から白色に変わります。
- パノラマ方向表示が決定して緑色から白色に変わります。

5

撮影した画像の約 1/3 が、選択した方向の反対側の撮影画面上に半透明に表示されます。たとえば、手順 3 で ▷（右）方向が選択されている場合は、撮影画面の左端に、先に撮影した画像の右端約 1/3 が半透明で表示されます。

6

先に撮影した画像の絵柄と、撮影画面の絵柄が重なるように、構図を合わせます。

7

シャッターボタンを押して次の画像を撮影します。手順 6、7 を繰り返して、パノラマ画像を構成するすべての画像を撮影します。

8

↵ を押すと、パノラマアシスト撮影が終了します。

パノラマアシストモード撮影のご注意

パノラマアシストモードの撮影を開始すると、一連の撮影を終了するまでは、パノラマ方向表示や、ズーム操作、露出補正、画質、画像サイズ、スピードライトモード、フォーカスモードの変更、および画像の削除を行うことはできません。

三脚の使用をおすすめします

パノラマアシストモードで撮影する場合は、三脚を使用すると、組み合わせる画像の構図を合わせやすくなります。三脚使用時には手ブレ補正（VR）スイッチを OFF にしてください。

いろいろな撮影

画質と画像サイズ

画質

画像を記録する際に処理を施して画像ファイルのファイルサイズを小さくすることを圧縮といいます。COOLPIX8800は、NEF形式やTIFF形式で画像を圧縮せずに保存したり、JPEG形式で圧縮して保存することができます。画像の圧縮率が高くなれば画像のファイルサイズは小さくなり、CFカードに記録できる画像コマ数が増加します。ただし、画像の細部の描写が失われ、画質が低下します。画像の圧縮率を低くすると、画像ファイルが大きくなり、CFカードに記録できる画像コマ数は減少しますが、高画質になります。CFカードの容量や撮影状況に応じて画質を選択してください。

画質は次の6種類から選択できます。

画質	ファイル形式	内　容	圧縮	画像サイズ	モードダイヤル
RAW	NEF	画像の処理、圧縮を行わないため、細部の描写が維持されます。CCD（撮像素子）からの生出力をNEF形式（Nikon Electronic Image Format）で保存します。画質が「HI」の画像に比べてファイルサイズが小さくなります。	非圧縮	8M のみ※1	P S A M (62)
HI	TIFF (RGB)	画像の圧縮を行わないため、細部の描写が維持されます。幅広いアプリケーションに対応できるTIFF形式で保存します。画質を優先する場合に使用します。		8M 3:2 のみ※2	
EXTRA	JPEG	約1/2のJPEG圧縮で記録します。画像を圧縮するため、非圧縮の場合よりもファイルサイズが小さくなります。JPEG圧縮の中では、一番高い画質で保存できます	低 ↑ 圧縮率 ↓ 高	全画像サイズで設定可能	SCENE (40) P S A M (62)
FINE		約1/4のJPEG圧縮で記録します。画像を拡大する場合や、細かい模様をプリンタで表現したい場合などに適しています。			
NORMAL		約1/8のJPEG圧縮で記録します。通常の撮影にはこの画質が適しています。			
BASIC		約1/16のJPEG圧縮で記録します。電子メールに添付したりホームページに利用したりする場合に適しています。			

※1 画像サイズが 5M、3M、2M、1M、PC、TV のときは自動的に「EXTRA」に、3:2 のときは自動的に「HI」に設定されます。

※2 画像サイズが 5M、3M、2M、1M、PC、TV のときは自動的に「EXTRA」に設定されます。

画像サイズ

画像サイズを大きくすると、画像ファイルが大きくなり、CF カードに記録できる画像コマ数が減少しますが、大きくプリントするときなどに適しています。画像サイズを小さくすると画像ファイルが小さくなり、電子メールに添付したり、ホームページに利用する場合に適しています。ただし、小さい画像サイズで大きくプリントすると、粒子が粗い画像になります。CF カードの容量や撮影状況に応じて画像サイズを選択してください。

画像サイズは次の 8 種類から選択できます。

画像サイズ			プリント時のサイズ※
設定	表示パネル	ファイルサイズ（ピクセル）	
8M	-8M-	3264 × 2448	約 28 × 21 cm
5M	-5M-	2592 × 1944	約 22 × 16 cm
3M	-3M-	2048 × 1536	約 17 × 13 cm
2M	-2M-	1600 × 1200	約 14 × 10 cm
1M	- 1M-	1280 × 960	約 11 × 8 cm
PC	-PC-	1024 × 768	約 9 × 7 cm
TV	- TV -	640 × 480	約 5 × 4 cm
3:2	3:2	3264 × 2176	約 28 × 18 cm

※ 画像解像度を 300dpi に設定した場合のサイズです。ピクセル数÷プリンタ解像度（dpi）× 2.54cm で計算しています。

画質と画像サイズの設定方法

1

モードダイヤルを ⬅ に合わせます。「画像モード」画面が表示されます。

2

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**画質**」または「**画像サイズ**」を選択します。

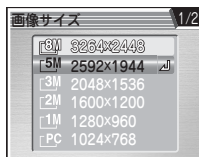
「**画質**」と「**画像サイズ**」は、コマンドダイヤル を使って設定することもできます。手順 3 ～ 5 の代わりに、コマンドダイヤルを回して、設定する画質または画像サイズを選択してください。コマンドダイヤルを回すと、表示パネルの画質表示または画像サイズ表示が切り換わります。

プリントのサイズ

撮影した画像を印刷するときのプリントのサイズはプリンタの解像度によって変わります（解像度が高いほどプリントのサイズは小さくなります）。

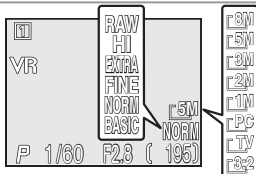
3

▷ を押すと、「画質」画面または「画像サイズ」画面が表示されます。

4

△ または ▽ を押して、設定する画質または画像サイズを選択します。

5

Ⓞ を押して、選択した画質または画像サイズを決定します。

6

モードダイヤルを 📷、SCENE、**P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせると、設定した画質と画像サイズが撮影画面に表示されます。

RAW および HI の設定について

- 画質の「**RAW**」と「**HI**」は、モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせた場合のみ、使用できます。「**RAW**」または「**HI**」に設定していても、モードダイヤルを 📷 または SCENE に切り換えると、自動的に「**EXTRA**」に変更されます。
- 画質を「**RAW**」または「**HI**」に設定した場合、電子ズームは使用できません (🔍 33)。
- 画質が「**RAW**」の画像をダイレクトプリントすることはできません (🔍 103)。

RAW 画像（NEF 形式）について

CCD（撮像素子）からの生出力をデータで記録します。RAW 画像をパソコンで開くには、PictureProject（Version 1.0.1 以降）または別売の Nikon Capture が必要です。最新の情報は当社ホームページでご確認ください (🔍 195)。

RAW 画像を HI 画像に変換する

RAW 画像（NEF 形式）を PictureProject または別売の Nikon Capture 以外のアプリケーションで再生するには、HI 画像（TIFF 形式）に変換してください (🔍 85)。TIFF 形式のファイルはほとんどのアプリケーションに対応できます。

画質・画像サイズと撮影可能コマ数について

撮影された画像のファイルサイズは、画質と画像サイズによって決定されます。そのため、CF カードに記録できる画像のコマ数は、画質と画像サイズの組み合わせによって変化します。撮影した画像のファイルサイズと、256MB の CF カードに記録できるコマ数の**おおよその目安**※は次のとおりです。

画像サイズ		画質					
		RAW	HI	EXTRA	FINE	NORMAL	BASIC
8M	**撮影可能コマ数**	約 20	約 10	約 30	約 60	約 125	約 240
	ファイルサイズ	約 12MB	約 23MB	約 7.6MB	約 3.8MB	約 1.9MB	約 1MB
5M	**撮影可能コマ数**	—	—	約 50	約 100	約 195	約 370
	ファイルサイズ	—	—	約 4.8MB	約 2.4MB	約 1.2MB	約 642KB
3M	**撮影可能コマ数**	—	—	約 80	約 155	約 310	約 600
	ファイルサイズ	—	—	約 3MB	約 1.5MB	約 793KB	約 414KB
2M	**撮影可能コマ数**	—	—	約 130	約 250	約 485	約 870
	ファイルサイズ	—	—	約 1.8MB	約 961KB	約 498KB	約 266KB
1M	**撮影可能コマ数**	—	—	約 200	約 390	約 710	約 1305
	ファイルサイズ	—	—	約 1.2MB	約 627KB	約 331KB	約 183KB
PC	**撮影可能コマ数**	—	—	約 310	約 600	約 975	約 1565
	ファイルサイズ	—	—	約 793KB	約 414KB	約 224KB	約 129KB
TV	**撮影可能コマ数**	—	—	約 710	約 1305	約 1955	約 2610
	ファイルサイズ	—	—	約 331KB	約 183KB	約 109KB	約 71KB
3:2	**撮影可能コマ数**	—	約 10	約 35	約 70	約 140	約 275
	ファイルサイズ	—	約 20MB	約 6.7MB	約 3.4MB	約 1.7MB	約 891KB

※上記の撮影可能コマ数およびファイルサイズは**目安として参考にしてください。**同じ容量でも CF カードの種類や、JPEG 圧縮の性質上、画像の絵柄によって大きく異なります。

撮影メニュー「画像モード」について

画質と画像サイズは、撮影メニューの「**画像モード**」で設定することもできます。撮影メニューの操作方法については、「撮影メニュー」(108)をご覧ください。

スピードライトモード

撮影目的や状況に合わせて、6 種類のスピードライトモードを選択できます。

設　定	表示パネル	内　容	使用場面
自動発光（表示なし）	AUTO ⚡	被写体が暗い場合にシャッターボタンを半押しすると、内蔵スピードライトが自動的にポップアップし、撮影時に発光します。内蔵スピードライトがポップアップしていても被写体が明るい場合は発光しません。	一般的なスピードライト撮影をする場合に使用します。
発光禁止		内蔵スピードライトは発光しません。	• 暗い場所で自然光で撮影したい場合、またはスピードライトの使用が禁止されている場所で撮影するときに設定します。 • 暗い場合はシャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意して撮影してください。
赤目軽減自動発光	AUTO ⚡	人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。内蔵スピードライトが発光する前にあらかじめ数回少量発光することに加え、カメラが赤目現象を検出すると、赤目の部分を補正して記録します（ 53）。	• ポートレート撮影に使用します（撮影の際、被写体の人物に内蔵スピードライトの少量発光をしっかりと見てもらうと効果が上がります）。 • シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません。
強制発光 ⚡	⚡	被写体の明るさに関係なく、必ず内蔵スピードライトが発光します。	昼間の屋外撮影などで顔に影がかかる場合や逆光時などに使用します。
スローシンクロ	AUTO ⚡	自動発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。	• 夕景や夜景を背景とした人物撮影などで、遠くの背景も近くの被写体もきれいに写したい場合に使用します。 • 暗い場合はシャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意して撮影してください。
リアシンクロ	AUTO	自動発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせ、スピードライト発光時は、シャッターが閉じる（露光が終了する）直前に発光します。	• 動く被写体をスピードライトで撮影する場合に、その被写体の動きを想像させる光の流れなどを被写体の後方に自然な形で表現できます。 • 暗い場合はシャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意して撮影してください。

撮影メニュー「スピードライト」について

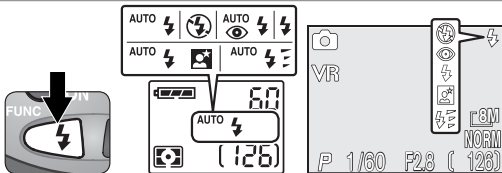
撮影メニューの「**スピードライト**」（ 128）では、調光補正などの設定ができます。

スピードライトモードのセット方法

モードダイヤルを 📷、SCENE ※1、**P**、**S**、**A**、**M**、🎥 ※2 のいずれかに合わせます。

※1 シーンモードの種類 (41) によっては、スピードライトモードを変更できない場合があります。

※2 微速度撮影のみ設定できます。

2

セットしたいスピードライトモードが表示されるまで ⚡ ボタンを押します。

- スピードライトモードが自動発光にセットされている場合、アイコンは撮影画面に表示されません。
- 表示は、**自動発光→発光禁止→赤目軽減自動発光→強制発光→スローシンクロ→リアシンクロ**（→**自動発光**に戻る）の順に切り換わります。

「スピードライト：POPUP」を「マニュアル」に設定している場合

- 撮影メニューの「**スピードライト**：**POPUP**」を「**マニュアル**」に設定している場合（128）には、⚡ ボタンを押して内蔵スピードライトを上げた後に、スピードライトモードを選択してください。なお、この場合は、被写体の明るさに関係なく常に発光します。
- マニュアル時の表示は、**強制発光→赤目軽減強制発光→スローシンクロ強制発光→リアシンクロ強制発光**（→**強制発光**に戻る）の順に切り換わります。

調光範囲について

調光範囲（内蔵スピードライトの光が充分に届く距離）は、広角側で約0.5～6m、望遠側で約1～3mです（ISO AUTO時）。0.5mよりも近距離側でスピードライトを使用すると、光が充分に行きわたらない（ケラレる）ことがあります。テスト撮影をして、液晶モニタ（または電子ビューファインダー）で画像をご確認ください。

スピードライトの撮像感度連動範囲について

スピードライトの撮像感度連動範囲は「**オート**」、「**50**」、「**100**」、「**200**」です。スピードライトを使用する場合は撮像感度を「**オート**」、「**50**」、「**100**」、「**200**」のいずれかに設定してください（69）。「**400**」は自然光での撮影を目的とした感度ですので、おすすめできません。

赤目軽減自動発光について

COOLPIX8800の赤目軽減自動発光はアドバンスト赤目軽減方式です。スピードライトの少量発光による赤目軽減に加え、カメラが赤目現象を検出すると赤目の部分を補正して記録します。そのため、次の撮影ができるまでの時間が通常より若干長くなります。撮影状況によっては、期待通りの結果が得られない場合があります。また、ごくまれに赤目以外の部分が補正される場合がありますが、このような場合は、ほかのスピードライトモードで再度撮影することをおすすめします。

スピードライト使用時のご注意

- 初期設定では、撮影メニューの「**スピードライト**：**POPUP**」が「**オート**」に設定されています（128）。被写体が暗いときにシャッターボタンを半押しすると内蔵スピードライトが自動的にポップアップします。
  ポップアップした内蔵スピードライトを指などで押さえてシャッターをきると、内蔵スピードライトは発光しません（画像は撮影されます）。この場合、シャッターボタンを半押ししたときに、撮影画面に警告が表示されます（182）。撮影の際は、内蔵スピードライトに触れないようにご注意ください。
- 内蔵スピードライト発光部に指や髪、ストラップ、AC アダプタのコードがかからないように注意してください。
- 次の場合は内蔵スピードライトが自動的に（発光禁止）になります。
  - ・フォーカスモードが（遠景モード）（55）にセットされている場合
  - ・動画モードが「**微速度撮影**」以外の場合（77）、「**BSS**」が「**OFF**」以外の場合（115）、連写モードが「**連写 H**」、「**連写 L**」、「**マルチ連写**」、「**UH 連写**」、「**サーキュラー連写**」の場合（111）、「**コンバータ**」が「**OFF**」以外の場合（121）、「**露出制御**：**露出固定**」が「**ON**」の場合（122）、または「**スピードライト**：**発光切替**」が「**内蔵発光禁止**」（129）の場合
- レンズフード（174）を取り付けたまま、内蔵スピードライトを使用すると、「ケラレ」を生じる場合がありますので、内蔵スピードライトを使用して撮影を行う場合は、必ず取り外してください。
- バッテリー残量が少ないときに内蔵スピードライトを使用した場合、内蔵スピードライトの充電中は液晶モニタが消灯します（31）。
- スピードライトを使用して撮影すると、スピードライトの光が空気中のほこりなどに反射して、画像の中に白い点のように写り込んでしまう場合があります。このような場合は、スピードライトモードを（発光禁止）にして撮影するか、ズームの望遠側で撮影することをおすすめします。

外付けスピードライトについて

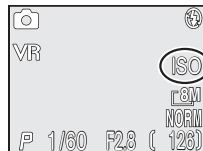
COOLPIX8800 はニコン製スピードライト（別売）をアクセサリーシューに装着することにより、外付けスピードライト撮影（129）を行うことができます。

低速シャッターでの撮影について

- 手ブレ補正機能（60）を使用すると、手ブレの影響を軽減します。また、構図も決めやすくなります。
- 三脚を使用する場合には、手ブレ補正（VR）スイッチをオフにしてください。
- 1/4 秒以下の低速シャッタースピードになる撮影では、画像の暗い部分に星状のノイズが生じることがあります。このような場合には撮影画面のシャッタースピード表示が黄色に点灯して警告します。星状のノイズはノイズ除去（133）により軽減することができます。

感度表示について

- モードダイヤルを または SCENE に合わせた場合や、モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせ、撮像感度を「**オート**」に設定した場合、シャッタースピードの低下による手ブレを防ぐために、カメラが自動的に撮像感度を上げることがあります。撮像感度が上がっているときは、撮影画面に **ISO**（感度表示）アイコンが表示されます。
- **ISO**（感度表示）アイコンが表示されているときに撮影された画像は、標準感度に比べて多少ざらついた画像になります。

いろいろな撮影

AF フォーカスモード

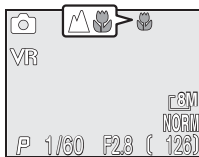
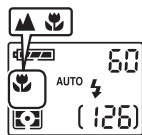
撮影目的に応じて 3 種類のフォーカスモードが選択できます。

設　定	内　容	使用場面
通常 AF **（表示なし）**	被写体までの距離に応じて自動的にピントを合わせます。	レンズから 50cm 以上（もっとも望遠側の場合は 1m 以上）離れた被写体を撮影するときに使用します。
遠景モード ▲	遠景にピントが合うようにセットされます（シャッターボタンを半押しすると、AF 表示は常に点灯します）。内蔵スピードライトは発光しません。	窓越しの景色や風景、建物など、遠くにある被写体を撮影するときに使用します。
マクロモード	撮影画面のマクロモードアイコン（ ）が緑色で表示されるズーム位置では、レンズ前約 3cm までの被写体にピントを合わせることができます。ただし、ズーム位置によって最短撮影距離は変化します。	花や虫など小さな被写体の近接撮影に使用します。

フォーカスモードのセット方法

モードダイヤルを 、SCENE ※、**P**、**S**、**A**、**M**、 のいずれかに合わせます。

※ シーンモードの種類（ 41）によっては、フォーカスモードを変更できない場合があります。

2

セットしたいフォーカスモードが表示されるまで、AF ボタンを押します。

- 表示は**通常 AF**（表示なし）→**遠景モード**→**マクロモード**の順に切り換わります。

マニュアルフォーカスについて

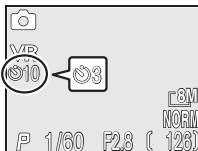
通常はカメラが被写体に自動的にピントを合わせるオートフォーカス機能に設定されていますが、モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M**、 のいずれかに合わせるとマニュアルフォーカス（ 75）でも撮影できます。

セルフタイマー撮影

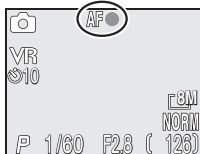
記念撮影など撮影者自身が写りたいときや、シャッターボタンを押すときに生じる手ブレを防止したいときなどに便利です。付属のリモコン ML-L3 を使ったセルフタイマー撮影については、「リモコンを使ったセルフタイマー撮影方法」をご覧ください（57）。

セルフタイマーの使用方法

モードダイヤルを 、SCENE ※、**P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせます。

※ シーンモードの種類（41）によっては、セルフタイマーを使用できない場合があります。

（）ボタンを押してセルフタイマー表示（）を表示させます。

- （）ボタンを 1 回押すと 10 秒タイマー、2 回押すと 3 秒タイマーに切り換わります。3 回押すとセルフタイマーがキャンセルされます。

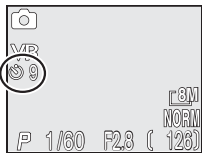
3

構図を決め、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

セルフタイマー使用時のご注意

- シーンモード（40）を （ミュージアム）、（打ち上げ花火）、（スポーツ）に設定しているとき、動画モード時（77）、インターバル撮影時（113）には、セルフタイマーはセットすることができません。
- セルフタイマー撮影時には、連写モード（「**インターバル撮影**」を除く）（111）は自動的に「**単写**」に設定されます。
- BSS（115）は自動的に「**OFF**」に設定されます。

リモコン ML-L3 使用時のご注意

- リモコン ML-L3 をはじめてご使用になるときは、リモコン本体と電池ホルダーの間にはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてからご使用ください。
- ご使用にならないときは、付属のキャリングケースに入れて、保管してください。

4

シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込むと、セルフタイマーが作動します。

- セルフタイマーが作動すると操作音が鳴り、撮影画面にタイマー時間がカウントダウン表示されます。
- 作動中のセルフタイマーを停止するには、もう一度 🗑 (⏲) ボタンまたはシャッターボタンを押します。

- セルフタイマーが作動すると、セルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約 1 秒前に点灯します。

リモコンを使ったセルフタイマー撮影方法

付属のリモコン ML-L3 を使うと、離れた場所からカメラのシャッターをきることができ、記念撮影など撮影者自身も一緒に写りたいときに便利です。また、シャッターボタンを押すことによる手ブレを防止することができます。

1

三脚などを使ってカメラを固定します。

※ 手ブレ補正 (VR) スイッチを OFF にしてください (60)。

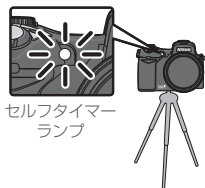
2

🗑 (⏲) ボタンを押してセルフタイマー表示 (⏲) を表示させます (56)。

3

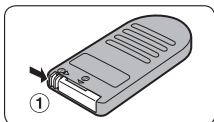
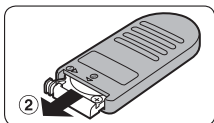
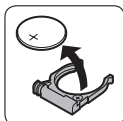
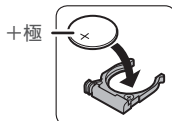
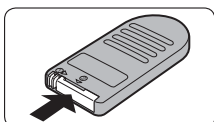
リモコン ML-L3 の送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押します。

- リモコンはカメラから約 5m 以内の距離でご使用ください。
- リモコン撮影を行う場合、リモコンの送信部とカメラのリモコン受光部が、コンバータレンズ、レンズフード、障害物などでさえぎられないようにしてください。
- カメラが極端な逆光状態ではリモコン撮影ができない場合があります。

4

セルフタイマーが作動し、約 2 秒後にシャッターがきれます。

- セルフタイマーが作動するとセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる直前に約 1 秒間点灯します。
- リモコン撮影終了後は、セルフタイマー設定が解除されませんので、続けてリモコン撮影できます。

リモコンの電池の交換方法について

リモコン ML-L3 の電源には、CR2025 型 3V リチウム電池（別売）を 1 個使用します。電池の交換方法は次のとおりです。

電池ホルダー着脱レバーを矢印の方向にスライドさせて、ロックを解除しながら（①）リモコン本体から電池ホルダーを取り出します（②）。

電池ホルダーからリモコン用電池を取り出します。

CR2025 型 3V リチウム電池 1 個を＋極側を上にして電池ホルダーに入れます。

電池ホルダーをリモコン本体にカチッと音がするまで押し込みます。

リモコン用電池の取り扱い上のご注意

電池はお子様の手の届かないところに置き、万一、お子様が飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。ご使用の前に、安全上のご注意 (6) をよくお読みください。

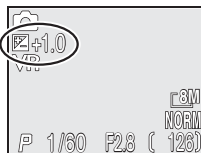
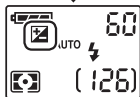
いろいろな撮影

露出補正

カメラが決めた適正露出値を意図的に変えることを露出補正といいます。被写体が極端に明るい、あるいは暗い場合や、被写体の明るさの差が著しく異なる場合は、露出補正の数値を変えることで、画像の明るさを調整できます。露出補正値は－2.0EVから＋2.0EVの範囲で、1/3ステップごとにセットすることができます。

露出補正のセット方法

モードダイヤルを 📷、SCENE、P、S、A、🎥 のいずれかに合わせます。

2

セットしたい露出補正値が表示されるまで、± ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回します。

- 露出補正値を0.0以外にセットすると、撮影画面には ±（露出補正）マークと補正値が、表示パネルには ±（露出補正）マークが表示されます。

露出補正時のご注意

露出モードが **M**（マニュアル）の場合またはシーンモードが ❀（打ち上げ花火）に設定されている場合には、露出補正を行うことはできません。

露出補正のキャンセル

露出補正をキャンセルするには、露出補正値を0.0にセットしてください。モードダイヤルを 📷、SCENE、🎥 に合わせている場合は、モードダイヤルを切り換えてもキャンセルできます。

露出補正値の選択について

- 構図の大部分が非常に明るい場合（太陽が反射する水や砂、雪を撮影する場合など）、背景が被写体よりも明るすぎる場合は、カメラが自動的に被写体を暗くする傾向があります。被写体が暗すぎるときは露出補正値を＋側にセットしてください。
- 構図の大部分が暗い場合（濃い緑の森を撮影する場合など）、背景が被写体よりも暗すぎる場合は、カメラが自動的に被写体を明るくする傾向があります。被写体が明るすぎるときは補正値を－側にセットしてください。

VR 手ブレ補正（VR）機能

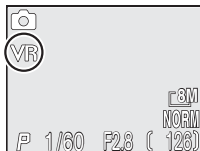
撮影者の手の揺れをカメラが検出してレンズを動かすことにより、撮影を行うときの手ブレの影響を軽減します。また、撮影画面の画像のブレを補正するため、構図も決めやすくなります。

手ブレ補正機能を使用すると：

- 手持ちで撮影を行う場合、望遠側での撮影や、夕暮・夜景などの手持ち撮影で起こりがちな手ブレを効果的に補正します。
- 流し撮りを行う場合、カメラが流し撮りの動きを自動的に検出し、手ブレによる揺れのみを補正します。たとえば、横方向に流し撮りを行う場合には縦方向の手ブレだけが、縦方向に流し撮りを行う場合には横方向の手ブレだけが補正されます。
- 静止画撮影時だけではなく、動画撮影 (80) 時にも手ブレ補正の効果が得られます。

手ブレ補正モードのセット方法

モードダイヤルを 、SCENE、P、S、A、M、 のいずれかに合わせます。

2

手ブレ補正（VR）スイッチをオンにして、手ブレ補正（VR）表示（VR）を表示させます。

構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 撮影画面の画像が安定してから撮影することをおすすめします。

手ブレ補正機能使用時のご注意

- カメラの電源スイッチを ON にした直後や節電モード (26) の解除直後は、撮影画面の画像が安定してから撮影してください。
- 手ブレ補正の原理上、撮影直後に液晶モニタ (または電子ビューファインダー) の画像がずれて見えることがあります。
- 長時間露出撮影 (68) など、三脚でカメラを固定させて撮影する場合には、手ブレ補正 (VR) スイッチをオフにしてください。

撮影メニュー「手ブレ補正モード」について

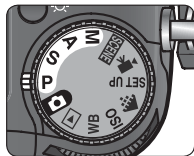
撮影メニューの「**手ブレ補正モード**」(127) では、通常の手ブレを補正する「**ノーマル**」と揺れの激しい条件での手ブレを補正する「**アクティブ**」の 2 種類から手ブレ補正モードを選択することができます。

撮影メニュー「コンバータ」について

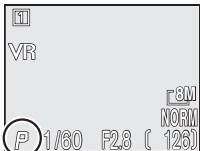
- テレコンバータ TC-E17ED またはワイドコンバータアタッチメント WM-E80 をご使用の場合には、撮影メニューの「**コンバータ**」(121) をそれぞれ「**テレコンバータ**」または「**ワイドコンバータ**」に設定してください。COOLPIX8800 は「**コンバータ**」で設定したコンバータでの撮影に最適な手ブレ補正を行います。
- 「**コンバータ**」が「**フィッシュアイ**」に設定されている場合、手ブレ補正機能は使用できません。

露出モード

COOLPIX8800 では、**P**（プログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル露出）の 4 種類の露出モードに設定できます。

モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** にセットすると、撮像感度 (69)、ホワイトバランス (71)、マニュアルフォーカス (75)、撮影メニュー (108) などを、撮影目的や状況に合わせて設定することも可能です。

設　定	内　容	こんなときに
P **プログラムオート**	適正露出になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的にセットします。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えるプログラムシフト (63) も行えます。	ほとんどの撮影状況に適しています。
S **シャッター優先オート**	設定したシャッタースピードに合わせて、適正露出となるようにカメラが自動的に絞り値をセットします。	動きの速い被写体を速いシャッタースピードで撮影したり、遅いシャッタースピードで動きを強調したりする場合などに使用します。
A **絞り優先オート**	設定した絞り値に合わせて、適正露出となるようにカメラが自動的にシャッタースピードをセットします。	手前から奥まで鮮明に写したり、背景の描写をやわらげたい場合などに使用します。
M **マニュアル露出**	シャッタースピードも絞り値も撮影者が自由にセットできます。	撮影意図に合わせて、露出をコントロールしたい場合に使用します。

P プログラムオート

被写体の明るさに応じてシャッタースピードと絞り値の最適な組み合わせをカメラが自動的にセットするので、ほとんどの撮影状況に対応できます。プログラムシフト、露出補正 (59)、ブラケティング (131) などによって撮影者の意図も反映できます。

モードダイヤルを **P** に合わせます。

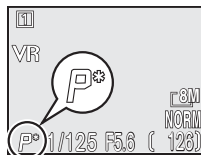
2

構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

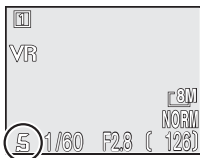
プログラムシフトについて

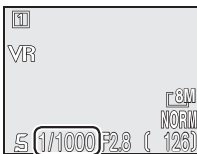
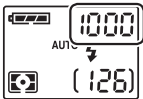
モードダイヤル **P**（プログラムオート）では、露出値を変えずにシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えるプログラムシフトが可能です。この機能により、プログラムオートのままシャッター優先オート（**S**）や絞り優先オート（**A**）のような使い方ができます。

- モードダイヤルを **P** に合わせて、コマンドダイヤルを回すと、液晶モニタの **P** 表示の横にプログラムシフトマーク（＊）が表示され、プログラムシフトが可能になります。反対側にコマンドダイヤルを回すと、プログラムシフトマーク（＊）が消えて、プログラムシフトが解除されます。プログラムシフトは、モードダイヤルを切り換えたり、電源を OFF にしても解除できます。
- 撮影画面にシャッタースピードと絞り値が表示されます。
- 表示パネル上にはシャッタースピードか絞り値のどちらか一方が表示されます。表示を切り換えるには、FUNC ボタンを押します。

いろいろな撮影

S シャッター優先オート

撮影者が設定したシャッタースピード（8 秒〜 1/3000 秒、1 段ごと）に合わせて、適正露出となるようにカメラが自動的に絞り値をセットします。被写体の動きを速いシャッタースピードで写し止める、または遅いシャッタースピードで流動感を強調するなど、好みのシャッタースピードに設定できます。スポーツシーンの撮影などシャッタースピードを重視した撮影に最適です。

1

モードダイヤルを **S** に合わせます。

2

コマンドダイヤルを回して設定したいシャッタースピード（8 〜 1/3000 秒）にセットします。

3

構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 被写体が暗すぎたり、明るすぎたりして、設定したシャッタースピードがカメラの制御範囲を超えている場合：

  シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピード表示が点滅します。この場合は適正な露出が得られませんので、設定したシャッタースピードを変えてください。

- 1/4 秒以下の低速シャッタースピードに設定する場合：

  撮影画像に星状のノイズが出ることがあるため、撮影画面上のシャッタースピード表示が黄色く点灯して警告します。この場合は、「**ノイズ除去**」（🔖 133）を「**ON**」に設定することをおすすめします。

シャッタースピードの使用制限

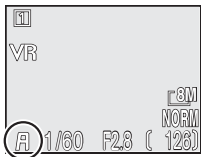
連写モードを「**UH 連写**」に設定した場合（🔖 111）は、1 秒間に 30 コマ撮影するため、1/30 秒以下の低速シャッタースピードをセットすることはできません。

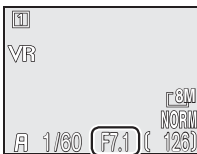
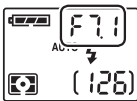
1/3000 秒の高速シャッタースピードについて

1/3000 秒の高速シャッタースピードでは絞りに制限がかかります。ズームを広角側にしたときは F5.0 〜 8.0、望遠側にしたときは F7.4 で絞り値が制御されます。

A 絞り優先オート

撮影者が設定した絞り値（開放絞り～最小絞り、1/3 段ごと）に合わせて、適正露出になるように、カメラが自動的にシャッタースピードをセットします。開放絞り側（小さい数値）にして背景をボカした美しいポートレート写真を撮ったり、最小絞り側（大きい数値）で奥行きのある風景を鮮明に写すなど、好みの絞りに設定できます。被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。

1

モードダイヤルを **A** に合わせます。

2

コマンドダイヤルを回して設定したい絞り値（開放絞り～最小絞り）にセットします。

3

構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- **被写体が暗すぎたり、明るすぎたりして、設定した絞り値がカメラの制御範囲を超えている場合：**

  シャッターボタンを半押しすると、絞り値表示が点滅します。この場合は適正な露出が得られませんので、設定した絞り値を変えてください。

- **絞りが F8.0 に設定できない場合：**

  ズーム位置によっては、最小絞りが F8.0 にならない場合があります。

絞りとズーム

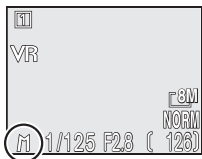
絞り値（F 値）とはレンズの明るさを示す値で、レンズの焦点距離を有効口径（レンズの中にある絞りとそこを通る光の関係を数値化したもの）で割った数値のことをいいます。この数値が小さくなるにしたがって明るくなり、大きくなるにしたがって暗くなります。また、そのレンズの絞りの一番小さい数値を開放絞り値といい、一番大きい数値を最小絞り値といいます。COOLPIX8800 のレンズ（8.9 ～ 89mm F2.8 ～ 5.2）はズーミングによって絞り値が変化します。望遠側にズームすると絞り値が大きくなり、広角側にズームすると、絞り値が小さくなります。撮影メニューの「**ズーム**：**ズーム時 F 値保持**」（126）を「**ON**」に設定することにより、この絞り値の変化を最小限に抑えることができます（制御できる絞り値の範囲は F5 ～ F8 です）。

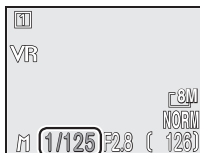
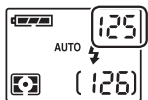
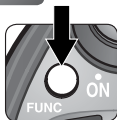
1/3000 秒の高速シャッタースピードについて

ズームを広角側にセットしたときは F5.0 ～ 8.0、望遠側にセットしたときは F7.4 に絞りを設定すると、被写体の明るさによって、1/3000 秒の高速シャッターで撮影が行われます。

M マニュアル露出

シャッタースピードも絞り値も撮影者が自由に設定します。シャッタースピードは最長 10 分までの長時間露出 (BULB/TIME) および 8 秒〜 1/3000 秒の範囲で 1 段ごとに、絞り値は開放絞り〜最小絞りの範囲で 1/3 段ごとにセットできます。個性的な映像表現をしたいときに効果的です。

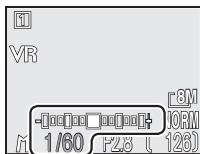
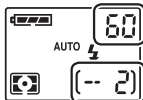
1

モードダイヤルを **M** に合わせます。

2

FUNC ボタンを押して、シャッタースピードを選択します。

- FUNC ボタンを押すごとにシャッタースピードと絞り値が交互に切り換わり、撮影画面には選択された方が緑色で表示され、表示パネルには選択された方が表示されます。
- 1/4 秒以下の低速シャッタースピードの場合は、シャッタースピードが黄色く表示されます (64)。

1/3000 秒の高速シャッタースピードについて

シャッタースピードを 1/3000 秒に設定した場合に、組み合わせられる絞り値は、ズームを広角側にしたときは F5.0 〜 F8.0、望遠側にしたときは F7.4 になります。

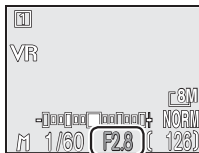
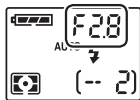
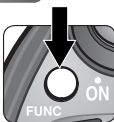
3

コマンドダイヤルを回して、希望するシャッタースピードをセットします。

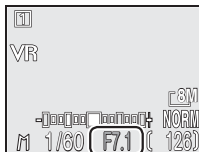
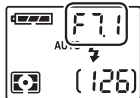
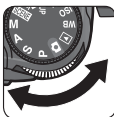
- 設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した適正露出値の差が、撮影画面上の露出インジケータに表示されます。
- 表示パネルではEV値（EV近似値）で表示され、8秒経過すると撮影可能コマ数表示に変わります。露出値の差が9EV以上の場合は「－9」または「＋9」が点滅警告します。

アンダー露出　⟷　オーバー露出

露出インジケータ

設定された露出値とカメラの測光した適正露出値の差は、撮影画面上の露出インジケータに－2EVから＋2EVの範囲で1/3段ごとに表示されます。

4

もう一度FUNCボタンを押して、絞り値を選択します。

5

コマンドダイヤルを回して、希望する絞り値をセットします。

- 必要な場合は手順3～5を繰り返してセットしたいシャッタースピードと絞り値の組み合わせをセットします。

6

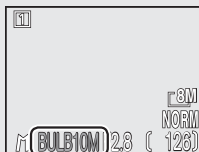
構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

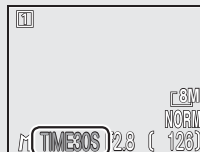
いろいろな撮影

長時間露出撮影（BULB/TIME）

露出モードを **M** にセットすると、最長 10 分までの長時間露出撮影が行えます。撮影方法は、BULB 露光と TIME 露光のどちらかを選択できます。

BULB 露光

撮影メニューの「**露出制御**：**BULB/TIME**」（123）を「**BULB 露光**」（初期設定）に設定し、シャッタースピードを BULB にセットすると、シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになる長時間露出（BULB）撮影となります（最長 10 分まで）。

TIME 露光

撮影メニューの「**露出制御**：**BULB/TIME**」（123）を「**TIME 露光**」に設定し、シャッタースピードを TIME にセットすると、シャッターボタンを押すとシャッターが開いたままとなり、再度シャッターボタンを押すか、またはセットした時間（最長 10 分）が経過するとシャッターが閉じます。

長時間露出撮影時のご注意

- 三脚を使用する場合には、手ブレ補正（VR）スイッチをオフにしてください。
- 長時間露出撮影時に発生する星状のノイズを軽減させるために、「**ノイズ除去**」（133）を「**ON**」に設定することをおすすめします。
- 長時間露出撮影（BULB/TIME）は連写モード（111）が「**単写**」の場合のみ設定できます。

リモコンについて

- 長時間露出撮影時には、付属のリモコン ML-L3 を使用できます。リモコンを使うと、シャッターボタンを押すことによる手ブレを防止することができます。リモコンを使用するには、撮影を行う前に、セルフタイマー（56）をセットする必要があります。リモコンの使用方法については「リモコンを使ったセルフタイマー撮影方法」（57）をご覧ください。
- リモコンを使用する場合、「**BULB 露光**」、「**TIME 露光**」のどちらに設定しても、リモコンの送信ボタンを押すと露光が開始され、再度リモコンの送信ボタンを押すか、セットした時間※が経過すると露光が終了します。

※「**BULB 露光**」設定時は、自動的に 10 分になります。

ISO 撮像感度

P、S、A、Mのみ

「撮像感度」はカメラが光に対して反応する感度を表したものです。感度が高くなれば、ある一定の露出を行うために必要な光の量は少なくなり、より高速のシャッタースピード、またはより絞った絞り値（大きい数値の絞り）で適正露出を得ることができますが、撮影された画像にはノイズが出て、粒子が粗くなることがあります。露出モードを **P**、**S**、**A**、**M** にセットしたときの撮像感度を、撮影目的に応じて設定することができます（標準は ISO50 相当です）。

撮像感度は次の 5 種類から選択できます。

設 定	内 容
50	ISO50 相当。低輝度時や、高速シャッタースピードが必要な場合（例：動いている被写体を撮影する場合）以外の通常の撮影では、この感度に設定することをおすすめします。この感度より高い感度で撮影するとノイズが出る場合があります。
100	ISO100 相当。
200	ISO200 相当。
400	ISO400 相当。
オート	通常は ISO50 相当にセットされますが、低輝度時には自動的に感度が上がります（ISO200 相当まで）。感度が上がると **ISO**（感度変更）のアイコンが表示されます。

撮像感度の設定方法

モードダイヤルを **ISO** に合わせます。

マルチセレクターの ▷ を押します。「ISO感度設定」画面が表示されます。

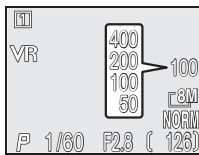
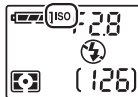
撮像感度は、コマンドダイヤル を使って設定することもできます。手順 2 ～ 4 の代わりに、コマンドダイヤルを回して、設定する撮像感度を選択してください。コマンドダイヤルを回すと、表示パネルの ISO 感度表示が切り換わります。

3

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、設定する撮像感度を選択します。

4

↵ を押して、選択した撮像感度を決定します。

5

「オート」以外の撮像感度を設定した場合、モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせると、設定した撮像感度が撮影画面に表示され、表示パネルには **ISO** が表示されます。

撮像感度を上げたときに生じる星状ノイズについて

撮像感度を上げたときには撮影した画像に星状ノイズが生じる場合があります。この場合、1/4 秒以下の低速シャッタースピードであれば、「**ノイズ除去**」を「**ON**」に設定することにより星状ノイズを軽減することができます (133)。

露出モード

露出モードが **S**（シャッター優先オート）または **M**（マニュアル）の場合、撮像情報は「**オート**」と表示されますが、実際の撮像感度は 50 になります。

スピードライトの撮像感度連動範囲について

スピードライトの撮像感度連動範囲は「**オート**」、「**50**」、「**100**」、「**200**」です。スピードライトを使用する場合は (52)、撮像感度を「**オート**」、「**50**」、「**100**」、「**200**」のいずれかに設定してください。「**400**」は自然光での撮影を目的とした感度ですので、おすすめできません。

撮影メニュー「ISO 感度設定」について

撮像感度は、撮影メニューの「**ISO 感度設定**」で設定することもできます。撮影メニューの操作方法については、「撮影メニュー」(108) をご覧ください。

WB ホワイトバランス

P、S、A、M のみ

人間の目は、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。これに対してデジタルカメラでは、光源の色に合わせて白色の調整を行う必要があります。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。
露出モードを **P**、**S**、**A**、**M** にセットしたときのホワイトバランスを、次の 8 種類から選択できます。

設定	内容
A-WB オート	照明の状態に合わせて、カメラがホワイトバランスを自動的に調整します。ほとんどの場面で使用できます。
PRE プリセット	撮影者が白またはグレーの被写体を基準にホワイトバランスを調整することができます (74)。
太陽光	太陽光での撮影に適しています。
電球	白熱電球を灯している室内での撮影に適しています。
蛍光灯	蛍光灯を灯している室内での撮影に適しています。
曇天	曇り空の下での撮影に適しています。
スピードライト	スピードライトを発光させて撮影する場合に適しています。
晴天日陰	晴れの日の日陰での撮影に適しています。

ホワイトバランスを使用する場合のご注意

ほとんどの場合は A-WB（オート）で撮影できますが、意図どおりのホワイトバランスにならない場合や、特定の照明光や撮影条件に固定したい場合には、他のホワイトバランスに設定してください。

ホワイトバランスの設定方法

1

モードダイヤルを **WB** に合わせます。

2

マルチセレクターの ▷ を押します。「ホワイトバランス」画面が表示されます。

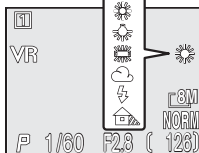
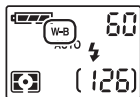
ホワイトバランスは、コマンドダイヤル を使って設定することもできます。手順 2 ～ 4 の代わりに、コマンドダイヤルを回して、設定するホワイトバランスを選択してください。コマンドダイヤルを回すと、表示パネルのホワイトバランス表示が切り換わります。

3

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、設定するホワイトバランスを選択します。

4

を押して、選択したホワイトバランスを決定します。

5

A-WB（オート）以外のホワイトバランスを設定している場合は、モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせると、設定したホワイトバランスが撮影画面に表示され、表示パネルに **W-B** が表示されます。

撮影メニュー「ホワイトバランス」について

ホワイトバランスは、撮影メニューの「**ホワイトバランス**」で設定することもできます。撮影メニューの操作方法については、「撮影メニュー」(108) をご覧ください。

ホワイトバランスの微調整

A-WB（オート）と PRE（プリセット）以外の設定では、ホワイトバランスの微調整が可能です。微調整は－３～＋３の範囲で行うことができます。ホワイトバランスの微調整はコマンドダイヤルを回して行います。＋側に設定すると画像が青みがかり、－側に設定すると赤みがかります。

微調整が可能なホワイトバランスが選択されると、項目の右側にコマンドダイヤルアイコン（）が表示されます。

1

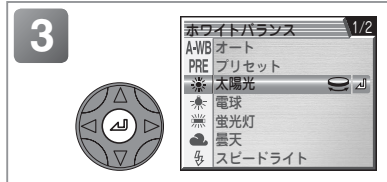
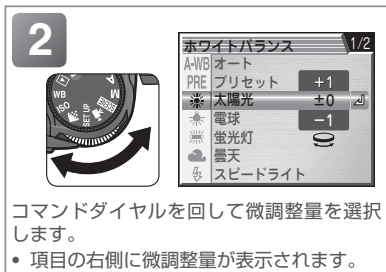
「ホワイトバランス」画面で、マルチセレクターの △ または ▽ を押して、設定するホワイトバランスを選択します。

2

コマンドダイヤルを回して微調整量を選択します。

- 項目の右側に微調整量が表示されます。

3

を押して、選択したホワイトバランスと微調整量を決定します。

（蛍光灯）に設定した場合は表のように蛍光灯の種類に応じた設定が行えます。

名称	蛍光灯の種類
FL1	白色蛍光灯（W）
FL2	昼白色蛍光灯（N）
FL3	昼光色蛍光灯（D）

プリセットホワイトバランス

プリセットホワイトバランスは、強い色合いの照明下でホワイトバランスを調整する場合に使用します（赤みがかった照明下で撮影した画像を、普通の照明下で撮影したように見せる場合など）。
ホワイトバランスメニューから PRE（プリセット）を選択すると、レンズが望遠側にズーミングして、プリセットホワイトバランス設定画面が表示されます。

設　定	内　容
前回の設定	前回プリセットされたホワイトバランスに設定します。
新規設定	新規にホワイトバランス値を測定します。撮影時に用いる照明の下で、白やグレーの被写体をホワイトバランス測定窓に映します。マルチセレクターの △ または ▽ を押して「**新規設定**」を選択し、⏎ を押すと、プリセットホワイトバランス値を測定します。プリセット中はシャッター音がして、ズームレンズが作動しますが、画像は記録されません。

プリセット時のスピードライトについて

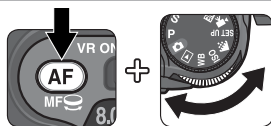
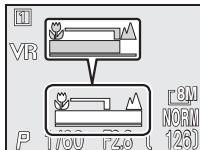
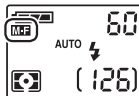
プリセットホワイトバランスでは、スピードライト発光時のホワイトバランス値は取得できません。

MF マニュアルフォーカス

P、S、A、M、🎥 のみ

モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M**、🎥 のいずれかに合わせると、手動でフォーカスを合わせることができます。オートフォーカスでのピント合わせが行えないときや、被写体までの距離があらかじめ想定できる場合などに便利です。マニュアルフォーカスで設定できる撮影距離は、もっとも広角側でレンズ前約 3cm から無限遠まで、もっとも望遠側でレンズ前約 1m から無限遠までです。

マニュアルフォーカスの使用方法

モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M**、🎥 のいずれかに合わせます。

MF（AF）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して、マニュアルフォーカスをセットします。

マニュアルフォーカス時は、撮影画面にマニュアルフォーカスインジケータが表示されますので、撮影距離の目安にしてください。

- フォーカスをセットできる範囲は、ズームの広角側で約 3cm（🌷）から無限遠（▲）までです。
- レンズ前約 3cm の被写体まで近づけるマクロ領域に入ると、マニュアルフォーカスインジケータが緑色に変わります。

4 撮影画面で被写体を確認します。

- マニュアルフォーカス時は、撮影画面上でピントが合っている部分の輪郭が強調されてピントが確認しやすいピーキングに自動的にセットされます（撮影メニューの「フォーカス：ピーキング」（👁 125）を「OFF」に設定した場合を除く）。

5

シャッターボタンを深く押し込んで、撮影します。

マニュアルフォーカスのキャンセル

MF（AF）ボタンを押すとマニュアルフォーカスはキャンセル（解除）されます。

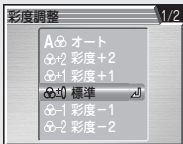
マニュアルフォーカスについてのご注意

- フォーカスをマニュアルフォーカスインジケータの 🌷 側にセットしてズーミングを行った場合、ズーム領域によってセットした距離にピントが合わないことがあります。この場合、撮影画面のマニュアルフォーカスインジケータが赤色に点灯して警告します。
- マニュアルフォーカスをセットした場合、AE/AF-L ボタンを押してもフォーカスはロックされません。
- コンバータ装着時（👁 121）は、オートフォーカスで撮影を行ってください。

画像の調整について　P、S、A、M のみ

撮影メニュー (108) では、画像の輪郭の強弱や階調、彩度を設定するなど、撮影する画像を細かく調整することができます。パソコンでレタッチを行う場合など、使用目的に合わせた設定が可能です。撮影メニューは、モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせた場合にのみ使用できます。

階調補正 (117)

画像のコントラストを設定します。暗いところと明るいところの差（コントラスト）を強調したり、反対に暗いところと明るいところの差をあいまいにすることができます。

彩度調整 (118)

画像の色の鮮やかさを設定します。彩度を調整することで、画像を鮮やかにしたり色目を抑えたりすることができ、パソコンでレタッチを行う場合に便利です。また、モノクロ画像として画像を記録することもできます。

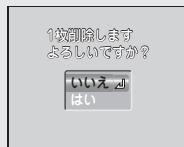
輪郭強調 (120)

画像の輪郭の強弱を設定します。輪郭を強めに強調すると、個々の被写体の境目がはっきりとして、画像にメリハリがつきます。一方、輪郭を弱めに強調すると、個々の被写体の境目がソフトな感じの画像になります。

記録中の画像を削除する場合（→DELETE クイックデリート）

「**画質**」を「**HI**」(48) または連写モード (111) を「**UH 連写**」に設定した場合、撮影された画像が CF カードに記録されている間に撮影画面に →DELETE（クイックデリート）アイコンが表示されます。この間に、記録中の画像を削除することができます。

ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。マルチセレクターの ▽ を押して、「**はい**」を選択し、を押すと、表示中の画像を削除して、撮影画面に戻ります。

- 「**いいえ**」を選択して を押すと、画像は削除されずに撮影画面に戻ります。

動画の撮影と再生

動画を選択する

COOLPIX8800 では、モードダイヤルを 動画 に合わせると、5 種類の動画を選択できます。微速度撮影以外は音声付きで撮影することができます。

設　定	内　容	連続撮影記録時間（256MB CFカード）
TV 再生 640	カラーの動画を画像サイズ 640 × 480 ピクセル、30 フレーム / 秒で最長 60 秒間撮影します。テレビで再生するときに適した画像サイズです。	約 60 秒
カメラ再生 320	カラーの動画を画像サイズ 320 × 240 ピクセル、15 フレーム / 秒で最長 2400 秒間撮影します。	約 895 秒※
微速度撮影	微速度撮影（81）では、設定された撮影間隔（インターバル）で静止画像の撮影を自動的に行い、撮影した複数の画像をつなげて画像サイズ 640 × 480 ピクセル、30 フレーム / 秒の動画として最長 35 秒間分（1050 フレーム）記録します。つぼみがゆっくりと花開く様子や、蝶が羽化する様子を、記録写真のように撮影したい場合に便利です。なお、微速度撮影時には音声は録音されません。	約 35 秒
セピア動画 320	セピア調の動画を画像サイズ 320 × 240 ピクセル、5 フレーム / 秒で最長 2400 秒間撮影します。	約 895 秒※
白黒動画 320	モノクロの動画を画像サイズ 320 × 240 ピクセル、15 フレーム / 秒で最長 2400 秒間撮影します。	約 895 秒※

※ 記載されている連続撮影記録時間はおおよその目安です。同じ容量でも CF カードの種類によって連続撮影記録時間は異なります。

動画の設定方法

1

モードダイヤルを 動画 に合わせます。

2

MENU（メニュー）ボタンを押すと、「動画メニュー」画面が表示されます。

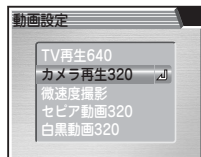
動画のファイル名について

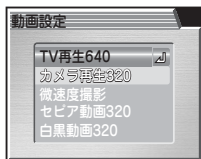
動画ファイルは新規のファイル番号（画像記録フォルダ内にある最大の番号に 1 を加えた番号）の名前に拡張子「.MOV」がつき（例：DSCN0001.MOV）、QuickTime ムービーファイルとしてパソコンに転送して再生することができます。

3

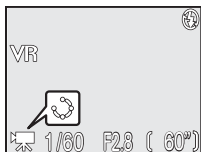
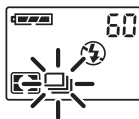
マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**動画設定**」を選択します。

- 「AF-MODE」を選択して ▷ を押すと、AF モードを設定できます (79)。

4

▷ を押すと、「動画設定」画面が表示されます。

5

△ または ▽ を押して、動画モードを選択します。

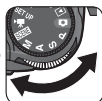
- 動画モードの変更をキャンセルする場合は、MENU ボタンを押します。

6

⏎ を押すと、選択が実行され、撮影画面に戻ります。

- 「**微速度撮影**」を選択して ⏎ を押すと、撮影間隔（インターバル）と露出固定を設定できます (81)。
- 表示パネルには ▭ が点滅します。

動画モードの切り換えについて

動画モードは、撮影画面の表示中に FUNC ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して切り換えることもできます。

動画の撮影と再生

AF-MODE の設定方法

動画撮影時の AF モードを、シングル AF または常時 AF に切り換えることができます。静止画撮影時の AF モードの設定方法については、撮影メニューの「**フォーカス**：**AF-MODE**」(125) をご覧ください。

設　定	内　容
S-AF シングル AF（初期設定）	シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせを行い、ピントが合うと AF ロックを行います。撮影を開始すると、シャッターボタンを押し込んだときのピントに固定され、撮影中はピント合わせを行いません。
C-AF 常時 AF	撮影中、常にピント合わせを繰り返します。

AF モードを設定する方法は次のとおりです。

1

「動画メニュー」画面で、マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**AF-MODE**」を選択します。

2

▷ を押すと、「AF-MODE」画面が表示されます。

3

△ または ▽ を押して、「**シングル AF**」または「**常時 AF**」を選択します。

4

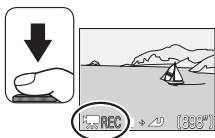
↵ を押すと、選択が実行され、「動画メニュー」画面に戻ります。

AF-MODE について

撮影中の動作音が気になる場合は、「**AF-MODE**」を「**シングル AF**」に設定して撮影することをおすすめします。

動画を撮影する

1 カメラのモードダイヤルを 動画 に合わせ、カメラの電源を ON にします。

- 撮影画面には撮影可能コマ数のかわりに、撮影可能な記録時間が表示されます。
- 「**微速度撮影**」の場合は、「微速度撮影の撮影方法」(81) にお進みください。

2 シャッターボタンを押し込んで、撮影を開始します

- 撮影中は **REC** アイコンが表示されます。
- 撮影を一時停止するにはマルチセレクターの ⏎ を押します。もう一度押すと再開します。

3 シャッターボタンをもう一度押し込んで、撮影を終了します。

- 撮影中に CF カードの残量がなくなった場合や、設定した動画モードの撮影可能な記録時間が経過した場合は、撮影を自動的に終了します。

動画撮影時のズーム操作について

「**TV 再生 640**」、「**カメラ再生 320**」、「**セピア動画 320**」または「**白黒動画 320**」に設定した場合は、動画撮影開始後にズーム操作を行うと電子ズーム (33) が 2 倍まで作動します (光学ズームは作動しません)。

- 「**ズーム**:**電子ズーム**」が「**OFF**」の場合 (126) でも、動画の撮影を開始すると、電子ズームが使用できます。
- 光学ズーム (33) を使用したい場合は、動画を撮影する前に操作してください。撮影を開始すると、撮影する前に設定された光学ズーム位置に固定されます。

動画撮影についてのご注意 (微速度撮影を除く)

「**TV 再生 640**」、「**カメラ再生 320**」、「**セピア動画 320**」または「**白黒動画 320**」の場合、

- スピードライトは自動的に発光禁止になり、被写体が暗い場合でも発光しません。
- 撮影中はカメラのマイクに触れないようにご注意ください。

手ブレ補正機能について

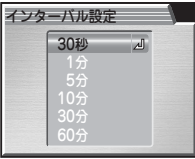
手ブレ補正機能 (60) を使用すると、手ブレの影響を軽減します。また、構図も決めやすくなります。

微速度撮影の撮影方法

1

「動画設定」画面（78）で、マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**微速度撮影**」を選択します。

2

▷ を押すと、「微速度撮影」画面が表示されます。

3

△ または ▽ を押して、「**インターバル設定**」または「**露出固定**」を選択し、▷ を押してください。

- 「**インターバル設定**」：微速度撮影の撮影間隔（インターバル）を設定します。
- 「**露出固定**」：微速度撮影時に露出固定を行うかどうかを選択します。

4

インターバル設定を選択した場合、△ または ▽ を押して、微速度撮影の撮影間隔を「30 秒」、「1 分」、「5 分」、「10 分」、「30 分」、「60 分」から選択してください。

- ↵ を押すと、選択が実行され、撮影画面に戻ります。

微速度撮影のファイル名について

微速度撮影で撮影された動画のファイル名は、先頭文字「INTN」に新規のファイル番号（画像記録フォルダ内にある最大の番号に 1 を加えた番号）の名前（拡張子は .MOV）となります（例：INTN0015.MOV）。

微速度撮影時のご注意

- 微速度撮影時は、途中でバッテリーの残量がなくなると撮影を終了するため、AC アダプタ EH-54（別売）のご使用をおすすめします。
- 微速度撮影を開始する前に試し撮りを行い、画像を確認することをおすすめします。

5

「**露出固定**」を選択した場合、△ または ▽ を押して、「**ON**」または「**OFF**」を選択してください。⏎ を押すと、選択が実行され、撮影画面に戻ります。

- 「**ON**」：すべてのフレームの撮影を終了するまで、露出とホワイトバランスが 1 フレーム目を撮影した条件に固定されます。
- 「**OFF**」：露出とホワイトバランスは固定されません。

6

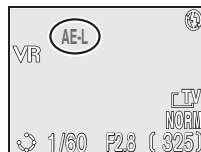
シャッターボタンを押し込んで微速度撮影を開始します。設定された時間の撮影間隔（インターバル）で撮影を自動的に行い、動画画像として保存します。

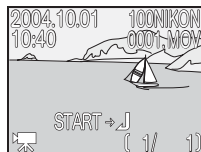
- もう一度シャッターボタンを押すか、CF カードの記録容量がなくなるか、1050 フレーム（35 秒間分）撮影すると、微速度撮影が終了します。

微速度撮影について

- 微速度撮影では、撮影から次の撮影までの間、液晶モニタ（または電子ビューファインダー）が消灯します。設定した撮影間隔（インターバル）が経過する直前に、液晶モニタ（または電子ビューファインダー）が自動的に点灯し、撮影を行います。
- 微速度撮影で、画質を「**EXTRA**」、「**FINE**」、「**NORMAL**」のいずれかに設定して撮影した動画をカメラで再生すると、一時停止する場合がありますが、撮影した動画に支障はありません。この場合は、パソコンで再生することをおすすめします。
- 微速度撮影では、画質を「**EXTRA**」、「**FINE**」、「**NORMAL**」、「**BASIC**」にセットできます。すでに「**RAW**」または「**HI**」に設定している場合は、微速度撮影を選択すると「**EXTRA**」に変わります。
- 微速度撮影のファイルサイズは、設定した画質によって大きく変化します。

露出固定表示

露出固定を「**ON**」に設定すると、AE-L アイコンが撮影画面に黄色で表示されます。微速度撮影を開始すると、露出とホワイトバランスが 1 フレーム目の条件に固定され、AE-L アイコンは白色に変わります。

▶ 動画を再生する

モードダイヤルを ▶ に合わせ、1 コマ再生モード (84) にセットすると、撮影した動画を液晶モニタで再生することができます。動画の場合は、液晶モニタに 🎥 が表示されます。マルチセレクターの ↵ で動画再生の操作を行います。

「TV 再生 640」、「カメラ再生 320」、「セピア動画 320」、「白黒動画 320」の動画再生中は、撮影時に録音された音声がスピーカーで再生されます。

機　能	ボタン	内　容
再生する／一時停止する／再開する	↵	マルチセレクターの ↵ を押すと、動画を再生します。動画再生中に ↵ を押すと、押した時点のフレームで一時停止します。再生を再開するには、もう一度 ↵ を押します。 再生が終了すると、最初のフレームが表示されます。
再生中に巻き戻し／早送りする	◁△▷▽	動画再生中にマルチセレクターの ◁ または △ を押し続けると巻き戻し、▷ または ▽ を押し続けると早送りします
一時停止中に 1 フレーム戻る	◁	一時停止中、1 フレーム前の画像を表示します。押し続けると、順次コマを送ります。
一時停止中に 1 フレーム送る	▷▽	一時停止中、1 フレーム先の画像を表示します。押し続けると、順次コマを送ります。
再生を停止する	QUICK	動画再生中または一時停止中に QUICK ボタンを押すと、再生を停止します。
音量を調節する	W T	動画再生中に W ボタンまたは T ボタンを押すと、液晶モニタに音量表示が表示され、音量を◢(大)、◢(中)、◢(小)、または ◢(音声なし) に調節することができます。W ボタンを押すと音量は小さくなり、T ボタンを押すと音量は大きくなります。

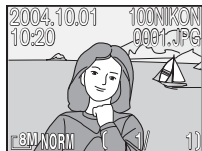
動画についてのご注意

- 動画は、レビュー再生モードや簡易再生モードでは再生できません (37)。
- 動画をダイレクトプリントすることはできません (103)。

いろいろな再生

▶ カメラで再生する

撮影した画像を確認する（1 コマ再生モード）

モードダイヤルを ▶ に合わせると、「1 コマ再生モード」になり、液晶モニタ（または電子ビューファインダー）には撮影した画像が表示されます。

- 1 コマ再生モードまたは簡易再生モード時に、マルチセレクターの ↵ を押すと、画像が約 3 倍に拡大して表示される、クイック拡大になります（38）。

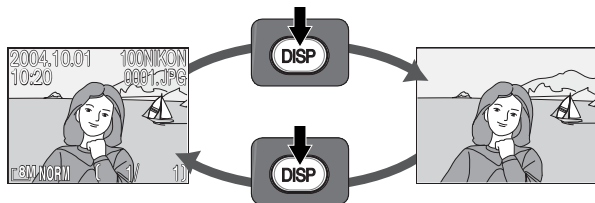
他の撮影画像を表示する場合

マルチセレクターの ◁ または △ を押すと液晶モニタに表示されている画像の 1 コマ前の画像を見ることができ、▷ または ▽ を押すと 1 コマ後の画像を見ることができます。早送りしたい場合はマルチセレクターを押し続けてください。

スモールピクチャーの作成と D- ライティングについて

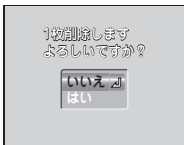
1 コマ再生モードでシャッターボタンを押すと、表示中の画像から、スモールピクチャー（92）や、D- ライティング機能で階調を補正した画像（94）を作成することができます。

DISP ボタンについて

画像を再生中に DISP ボタンを押すと、液晶モニタに表示されているカメラの設定内容や画像情報を消したり再表示させたりすることができます。※

※ 画像情報を消した場合でも、バッテリー残量が少なくなるとバッテリーチェック表示が点灯します。

表示中の画像を削除する場合

1 コマ再生モードと簡易再生モードでは、🗑 ボタンを押すと、表示された画像の削除確認画面が表示されます。マルチセレクターの △ または ▽ を押して「**はい**」を選択し、↵ を押すと、表示中の画像が削除されます。

- 「**いいえ**」を選択して ↵ を押すと、表示中の画像は削除されずに再生画面に戻ります。

レビュー再生モード／簡易再生モードについて

撮影モードで QUICK ボタンを押すと、撮影した画像をすぐに確認することができるレビュー再生モードまたは簡易再生モードに切り換えることができます（37）。

RAW 画像から HI への画像変換について

RAW で撮影された画像は 1 コマ再生モード時に HI 画像（TIFF 形式）に変換することができます。TIFF 形式のファイルはほとんどのアプリケーションに対応できます。変換すると、拡張子が .NEF から .TIF に変わり、新規のファイル番号（画像記録フォルダ内にある最大の番号に 1 を加えた番号）を付けた名前となります（例：DSCN0001.NEF → DSCN0002.TIF）。

撮影した RAW 画像を 1 コマ再生モードで表示し、シャッターボタンを押します。

- 「RAW 画像を HI 画像に変換します。よろしいですか？」という確認画面が表示されます。

2

△ または ▽ を押して、「**はい**」を選択します。

- 「**いいえ**」を選択して ⏎ を押すと、再生している RAW 画像を HI 画像に変換せずに 1 コマ再生モードに戻ります。

3

⏎ を押すと、再生している RAW 画像を HI 画像に変換して別画像として保存します。変換が終了すると、「RAW 画像を削除します。よろしいですか？」という確認画面が表示されます。

4

△ または ▽ を押して「**はい**」を選択し、⏎ を押すと、元の RAW 画像が削除されます。

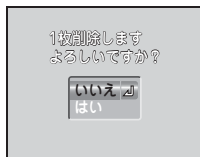
- 「**いいえ**」を選択して ⏎ を押すと、元の RAW 画像は削除されずに 1 コマ再生モードに戻ります。

RAW 画像を HI 画像に変換する場合のご注意

- RAW 画像を HI 画像に変換する場合は、CF カードの空き容量を充分に確保してから変換してください（画質（🔍 48）を「**HI**」にした場合に撮影可能コマ数が 1 コマ以上あることを確認してください）。
- RAW 画像を HI 画像に変換するまで時間がかかります。⌛ マークが消えるまでお待ちください。

一覧表示する（サムネイル再生モード）

簡易再生モード（37）または1コマ再生モード時（84）に W（サムネイル）ボタンを押すと、縮小表示された画像（サムネイル画像）が4コマ並んで表示されるサムネイル再生モードになります。
サムネイル再生モードでは、次の操作が可能です。

機　能	ボタン	内　容
画像を選択する	マルチセレクター	マルチセレクターを使って画像を選択します。
画面をスクロールする	コマンドダイヤル	コマンドダイヤルを回すと、1ページ分の画面のスクロールを行います。
表示コマ数を変更する	W（サムネイル）／ T（Q）	• 4コマ表示時に W（サムネイル）ボタンを押すと9コマ表示になります。 • 9コマ表示時に T（Q）ボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時に T（Q）ボタンを押すと1コマ表示（1コマ再生画面）になります。
画像を削除する	削除ボタン	削除ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。マルチセレクターの △ または ▽ を押して「**はい**」を選択し、決定ボタンを押すと選択した画像が削除されます。 • 「**いいえ**」を選択して決定ボタンを押すと、画像を削除せずにサムネイル再生モードに戻ります。 （画面表示：1枚削除します よろしいですか？ いいえ はい）
選択した画像を1コマ表示する	決定ボタン	4コマ表示または9コマ表示で選択した画像を、1コマ表示します。
1コマ再生画面に戻る	QUICK	4コマ表示または9コマ表示を終了して、1コマ再生画面に戻ります※1。
スモールピクチャーを作成する／D-ライティングを行う	シャッターボタン	選択した画像から、スモールピクチャー（92）や、D-ライティング機能で階調を補正した画像（94）を作成することができます※2。

※1 簡易再生モード（37）では、撮影画面に戻ります。

※2 簡易再生モード（37）では、スモールピクチャーの作成とD-ライティングは行えません。

画像情報

簡易再生モード (37) や1コマ再生モード (84) で表示される画像には画像情報が表示され、6 種類の画像情報表示画面に切り換えることができます。

コマンドダイヤルを回すと、画像情報表示画面は次のように切り換わります。

ページ1 ⟷ ページ2 ⟷ ページ3 ⟷ ページ4 ⟷ ページ5（ヒストグラム表示）⟷ ページ6（ピーキング表示）⟷ ページ1

ページ1

1	撮影日付	7	音声メモ表示
2	撮影時刻	8	転送マーク
3	画像サイズ	9	プリント表示
4	フォルダ名	10	プロテクト表示
5	ファイル名	11	表示画像コマ番号／総画像コマ数
6	バッテリーチェック	12	画質

ページ2

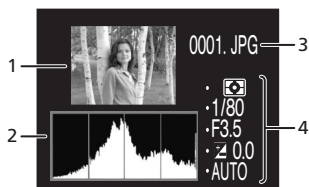
1 撮影カメラの機種
2 ファームウェアのバージョン
3 測光方式
4 露出モード
5 シャッタースピード
6 絞り値

ページ3

1 露出補正値
2 焦点距離
3 フォーカスモード
4 スピードライト
5 階調補正
6 撮像感度

ページ４

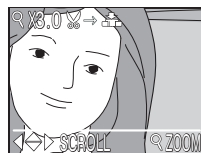
1 ホワイトバランス
2 彩度調整
3 輪郭強調
4 電子ズームの倍率
5 コンバータ
6 撮影画像のファイルサイズ

ページ５（ヒストグラム表示）

1 サムネイル画像をハイライト表示（画像のハイライト部分を白／黒の点滅で表示）
2 ヒストグラム（明るさの分布を表示：横軸は輝度［左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります］を示し、縦軸はドット数を示します）
3 ファイル名
4 撮影情報（測光方式、シャッタースピード、絞り値、露出補正値、撮像感度）

ページ６（ピーキング表示）

1 ファイル名
2 撮影情報（焦点距離、シャッタースピード、絞り値、フォーカスモード、ノイズ除去）
3 ピーキング処理画像（画像中でピントの合っている被写体の輪郭を強調して表示、選択 AF エリアは赤色表示）

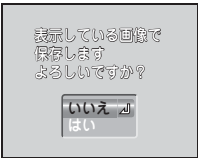
画像を拡大する（拡大表示モード）

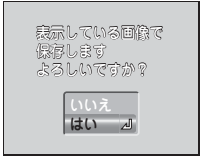
簡易再生モード（ 37）または１コマ再生モード時（ 84）にズームボタンの T（Q）を押すと、表示中の画像を最大約 10 倍まで拡大表示できます。

機　能	ボタン	内　容
画像を拡大表示する	T（Q）	押すごとに画像を拡大表示します。最大約 10 倍まで画像を拡大します。拡大表示中は Q アイコンと拡大倍率が液晶モニタの左上に表示されます。
画像の他の部分を表示する	マルチセレクター	マルチセレクターを使うと、画面をスクロールさせて、見たい部分に移動することができます。
拡大倍率を下げる	W（ ）	拡大表示中に W（ ）ボタンを押すと、拡大倍率が下がります。もとの１コマ再生画面と同じ拡大倍率まで下がると、拡大表示はキャンセルされます。
１コマ再生画面に戻る	マルチセレクター	拡大表示中に を押すと、拡大表示を終了して、１コマ再生画面に戻ります。
トリミングを行う	シャッターボタン	拡大表示中の画像を表示部分のみにトリミングし、別画像として保存します（ 90）。トリミングは簡易再生モードでは行えません。

別の画像を見るときは、拡大表示をキャンセルしてから、マルチセレクターを操作して画像を選択してください。

拡大表示について

- 動画およびスモールピクチャーでは、拡大表示は行われません。
- 画質が「RAW」または「HI」の画像は、画像の拡大表示が可能になるまでに時間がかかります。メッセージ「しばらくお待ちください」が表示された場合は、メッセージが消えるのを待って、もう一度 T（Q）ボタンを押してください。

トリミング

1 コマ再生モードで拡大表示中の画像を表示部分だけにトリミング（切り抜き）して、元の画像とは別に新しく画像を作成します。画面に ✂→ 🖶 アイコンが表示されている場合にのみ、トリミングすることができます。

1

1 コマ再生モード時に、画像を好みの大きさに拡大し、マルチセレクターでトリミングしたい部分を表示します。

2

シャッターボタンを押すと、トリミングの実行確認画面が表示されます。

△ または ▽ を押して、「**はい**」を選択します。

- 「**いいえ**」を選択して ⏎ を押すと、トリミングは行われずに、1 コマ再生モードに戻ります。

⏎ を押すとトリミングした画像が作成されます。

トリミングについてのご注意

- COOLPIX8800 でトリミングした画像を COOLPIX8800 以外のデジタルカメラで再生すると、正常に表示できない場合やパソコンへの転送ができない場合があります。
- COOLPIX8800 以外のデジタルカメラで撮影された画像に対しては、トリミング機能の動作は保証しておりません。

トリミングができない場合

- レビュー再生および簡易再生モード時
- シーンモードの ⊏⊐（パノラマアシスト）で撮影した画像（👁 46）、「**UH 連写**」、「**インターバル撮影**」（👁 111）または動画（👁 77）で撮影した画像、画質が「**RAW**」または「**HI**」の画像（👁 48）、画像サイズが 3:2（3264 × 2176）の画像（👁 49）、トリミングで作成した画像またはスモールピクチャー（👁 92）の場合
- CF カードに充分な空き容量がない場合

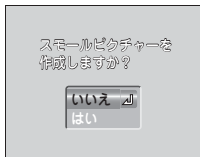
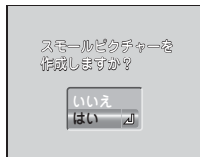
トリミングで作成した画像について

- トリミングで作成した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。
- トリミングで作成した画像は元画像を削除しても削除されません。また、トリミングで作成した画像を削除しても元画像は削除されません。
- 元画像で設定した転送マーク（☞ 152）は、トリミングで作成した画像にも設定されます。
- 元画像で設定した「プリント指定」（☞ 150）および「プロテクト設定」（☞ 148）は、トリミングで作成した画像には設定されません。
- トリミングで作成した画像の画質は、元画像の画質にかかわらず「**NORMAL**」になります。
- トリミングで作成した画像のサイズは、拡大倍率により異なります。次のうちから最適なサイズをカメラが自動的に選択します（単位：ピクセル）。
  - ・8M 3264 × 2448　・5M 2592 × 1944　・3M 2048 × 1536
  - ・2M 1600 × 1200　・1M 1280 × 960　・PC 1024 × 768
  - ・TV 640 × 480　・320 × 240　・160 × 120
- トリミングで作成した画像のファイル名は、先頭文字「RSCN」に新規のファイル番号（画像記録フォルダ内にある最大の番号に 1 を加えた番号）を付けた名前（拡張子は .JPG）となります（☞ 39）。 例：RSCN0015.JPG
- トリミングで作成した画像の作成日時は、元の画像と同じです。

スモールピクチャー

1 コマ再生モード (84) またはサムネイル再生モード (86) 時に、シャッターボタンを押すと、元の画像とは別に表示している画像の画像サイズを縮小したスモールピクチャー（縮小画像）を作成することができます。ファイルサイズを小さくすることができるため、電子メールで送ったりホームページで使用する場合に適しています。

1 スモールピクチャーを作成する画像を表示して、シャッターボタンを押すと、画像処理の選択画面が表示されます。

2 △ または ▽ を押して、「**スモールピクチャー**」を選択します。

3 ▷ を押すと、スモールピクチャーの作成確認画面が表示されます。

4 △ または ▽ を押して、「**はい**」を選択します。

- 「**いいえ**」を選択して ⏎ を押すと、スモールピクチャーを作成せずに、1 コマ再生モードまたはサムネイル再生モードに戻ります。

5 ⏎ を押すと、スモールピクチャーが作成されます。

スモールピクチャーについてのご注意

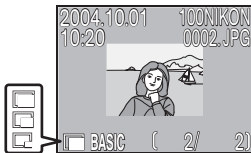
- COOLPIX8800 で作成されたスモールピクチャーを COOLPIX8800 以外のデジタルカメラで再生すると、正常に表示できない場合やパソコンへの転送ができない場合があります。
- COOLPIX8800 以外のデジタルカメラで撮影された画像に対しては、スモールピクチャー機能の動作は保証しておりません。
- スモールピクチャーの拡大表示はできません。

スモールピクチャーの画像サイズについて

初期設定では、スモールピクチャーは 640 × 480（）ピクセルで作成されますが、再生メニューの「スモールピクチャー」（ 156）で、スモールピクチャーの画像サイズを 640 × 480（）、320 × 240（）、160 × 120（）ピクセルから設定することができます。画像サイズは、スモールピクチャーを作成する前に設定してください。

スモールピクチャーの再生について

作成されたスモールピクチャーは、グレー色の枠で表示されます。

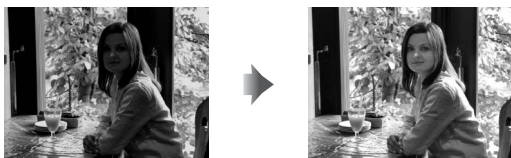
- 画質は、元画像の画質にかかわらず「**BASIC**」になります。画像サイズは、設定したサイズによって、640 × 480、320 × 240、160 × 120 ピクセルになります（、、または が表示されます）。

スモールピクチャーが作成できない場合

- レビュー再生および簡易再生モード時
- シーンモードの （パノラマアシスト）で撮影した画像（ 46）、「**UH 連写**」、「**インターバル撮影**」（ 111）または動画（ 77）で撮影した画像、画質が「**RAW**」または「**HI**」の画像（ 48）、画像サイズが **3:2**（3264 × 2176）の画像（ 49）、トリミングで作成した画像（ 90）またはスモールピクチャーの場合
- CF カードに充分な空き容量がない場合

作成されたスモールピクチャーについて

- スモールピクチャーは、元の画像とは別の画像として保存されます。
- スモールピクチャーは元画像を削除しても削除されません。また、スモールピクチャーを削除しても元画像は削除されません。
- 元画像で設定した転送マーク（ 152）は、スモールピクチャーにも設定されます。
- 元画像で設定した「プリント指定」（ 150）および「プロテクト設定」（ 148）は、スモールピクチャーには設定されません。
- スモールピクチャーのファイル名は、先頭文字「SSCN」に新規のファイル番号（画像記録フォルダ内にある最大の番号に 1 を加えた番号）を付けた名前（拡張子は .JPG）となります（ 39）。例：SSCN0015.JPG
- スモールピクチャーの作成日時は、元の画像と同じです。

D- ライティング

1 コマ再生モード (84) またはサムネイル再生モード (86) 時に、シャッターボタンを押すと、元画像とは別に、表示している画像の階調（明るさ）を補正（D- ライティング）した画像を作成することができます。D- ライティング機能を使うと、逆光やスピードライトの光量不足などで暗くなった被写体を明るく補正することができます。

D- ライティングについてのご注意

- COOLPIX8800 で D- ライティングを行った画像を COOLPIX8800 以外のデジタルカメラで再生すると、正常に表示できない場合やパソコンへの転送ができない場合があります。
- COOLPIX8800 以外のデジタルカメラで撮影された画像に対しては、D- ライティング機能の動作は保証しておりません。

D- ライティングができない場合

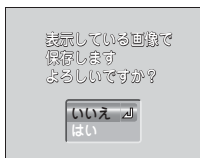
- レビュー再生および簡易再生モード時
- シーンモードの（パノラマアシスト）で撮影した画像 (46)、「**UH 連写**」、「**インターバル撮影**」(111) または動画 (77) で撮影した画像、画質が「**RAW**」または「**HI**」の画像 (48)、画像サイズが 3:2 (3264 × 2176) の画像 (49)、トリミングで作成した画像 (90)、スモールピクチャー (92)、または D- ライティングで作成した画像の場合
- CF カードに充分な空き容量がない場合

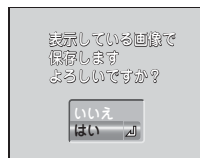
1

階調を補正したい画像を表示して、シャッターボタンを押すと、画像処理の選択画面が表示されます。

2

△ または ▽ を押して、「D- ライティング」を選択します。

3

▷ を押すと、D- ライティングの実行確認画面が表示されます。

4

△ または ▽ を押して、「はい」を選択します。

- 「いいえ」を選択して ↵ を押すと、D- ライティングを行わずに、1 コマ再生モードまたはサムネイル再生モードに戻ります。

5

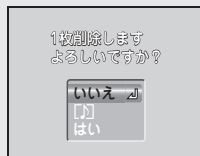
↵ を押すと、D- ライティングで階調を補正した画像が保存されます。

D- ライティングで作成した画像について

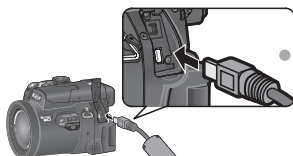
- D- ライティングで作成した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。
- D- ライティングで作成した画像は元画像を削除しても削除されません。また、D- ライティングで作成した画像を削除しても元画像は削除されません。
- 元画像で設定した転送マーク（☞ 152）は、D- ライティングで作成した画像にも設定されます。
- 元画像で設定した「プリント指定」（☞ 150）および「プロテクト設定」（☞ 148）は、D- ライティングで作成した画像には設定されません。
- D- ライティングで作成した画像のファイル名は、先頭文字「FSCN」に新規のファイル番号（画像記録フォルダ内にある最大の番号に 1 を加えた番号）を付けた名前（拡張子は .JPG）となります（☞ 39）。 例：FSCN0015.JPG
- D- ライティングで作成した画像の作成日時は、元の画像と同じです。

音声メモを録音する／再生する

1 コマ再生モードで表示されている画像に対して最長約 20 秒の音声メモを録音します。音声メモは音声ファイル（.WAV）として CF カードに記録され（39）、音声メモ付きの画像には [♪]（音声メモ表示）が表示されます。動画には、音声メモは録音できません。

機　能	ボタン	内　容
録音する		音声メモが録音可能な画像が表示されている場合、 ボタンを押し続けている間、最長約 20 秒の音声メモを録音します。 ボタンから指を離すか、約 20 秒経過すると、録音が終了します。
再生する／再生を終了する		[♪] アイコン付きの画像が表示されている場合、 ボタンを押すと、スピーカーから音声メモを再生します。 ボタンをもう一度押すか、録音内容が終了すると再生を終了します。
再生を一時停止する／再生を再開する		音声メモの再生中にマルチセレクターの を押すと一時停止します。一時停止中に を押すと、再生を再開します。
音量を調節する	W ( ) ／ T ( )	音声メモ再生中に W ボタンまたは T ボタンを押すと、液晶モニタに音量表示が表示され、音量を （大）、 （中）、 （小）、または （音声なし）に調節することができます。W ボタンを押すと音量は小さくなり、T ボタンを押すと音量は大きくなります。
音声メモ／画像を削除する		音声メモが記録された画像の表示中に ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**はい**」、「[♪]」、「**いいえ**」のいずれかを選択し、 を押すと、選択した項目が実行されます。 •「**はい**」：画像と音声メモが削除されます。 •「[♪]」：音声メモのみが削除されます。 •「**いいえ**」：画像と音声メモは削除されません。 1枚削除します よろしいですか？ いいえ [♪] はい

テレビで再生する

付属のオーディオビデオケーブル EG-CP14（以下 AV ケーブル）を使用して、撮影した画像をテレビやビデオデッキで再生することができます。

1 カメラの電源を OFF にします

2 AV ケーブルを接続します

AV ケーブルをカメラのオーディオビデオ出力端子に接続するときは、AV ケーブルのコネクタを左の図のように斜め方向に差し込んでください。

3 映像機器の入力をビデオ入力または外部入力に切り換えます

- 詳しくは映像機器の使用説明書をご覧ください。

4 カメラのモードダイヤルを ▶ に合わせます

5 カメラの電源を ON にします

- 撮影された画像がテレビに表示され、カメラの液晶モニタは消灯します。

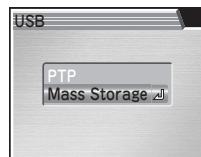
ビデオ出力について

- COOLPIX8800 とテレビまたはビデオデッキを接続する前に、セットアップメニューの「**ビデオ出力**」(172) で、ビデオ出力形式を確認してください（初期設定は「**NTSC**」です）。
- 「**ビデオ出力**」を「**PAL**」に設定している場合、COOLPIX8800 とテレビまたはビデオデッキとの接続中に UH 連写または動画を撮影すると、カメラの液晶モニタが点灯してビデオ出力は一時停止となります。

パソコンで再生する

付属のUSBケーブルUC-E6とPictureProjectを使用して、カメラで撮影した画像をパソコンで再生することができます。画像を転送する前に、PictureProjectをパソコンにインストールする必要があります。インストールの方法および画像の転送方法については、クイックスタートガイドおよびPictureProjectリファレンスマニュアル(CD-ROM)をご覧ください。

カメラをパソコンに接続する前に

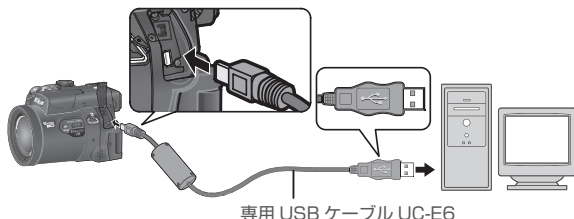
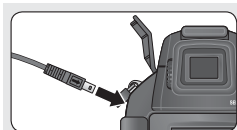
ご使用のパソコンのOS（オペレーティングシステム）に合わせて、正しい通信方式がカメラにセットされていないと、撮影した画像をパソコンに転送することができません。通信方式は以下の表を参考にして、セットアップメニューの「**USB**」で設定してください(171)。初期設定は「**Mass Storage**」に設定されています。

パソコンのOS	USB通信方式
Windows XP Home Edition Windows XP Professional	PTPまたはMass Storage
Windows 2000 Professional Windows Millennium Edition (Me) Windows 98 Second Edition (SE)	Mass Storage
Mac OS X（10.1.5以降）	PTPまたはMass Storage

USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

専用 USB ケーブルでパソコンに接続する

カメラの電源が OFF になっていることを確認して、カメラと起動しているパソコンを付属の USB ケーブル UC-E6 で下図のように接続します。接続が完了したらカメラの電源を ON にします。電源を ON にすると、レンズが繰り出します。

• カメラの液晶モニタは消灯し、表示パネルには [- - -]（通信状態表示）が表示されます。電源スイッチ以外の操作はできなくなります。

専用 USB ケーブル UC-E6

USB ケーブルをカメラのデジタル端子に接続するときは、USB ケーブルのコネクタを左の図のように斜め方向に差し込んでください。

Windows 2000 Professional、Windows Millennium Edition (Me)、Windows 98 Second Edition (SE) をご使用の場合のご注意

ご使用の OS が上記の場合には、セットアップメニューの「**USB**」を「**PTP**」に設定しないでください。

「**USB**」を「**PTP**」に設定して、上記 OS のパソコンと接続した場合には、下記の要領でパソコンとの接続を外してください。

再度パソコンと接続する場合は、必ず「**USB**」を「**Mass Storage**」に変更した後、パソコンと接続してください。

Windows 2000 Professional の場合：

「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」と表示されますので、「キャンセル（中止）」を選択して画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。

Windows Millennium Edition（Me）の場合：

「ハードウェア情報データベースの更新」の後に「新しいハードウェアの追加ウィザード」と表示されますので、「キャンセル（中止）」を選択して画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。

Windows 98 Second Edition（SE）の場合：

「新しいハードウェアの追加ウィザード」と表示されますので、「キャンセル（中止）」を選択して画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。

カメラとパソコンの接続を外す

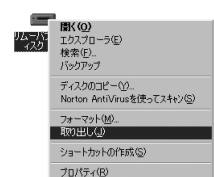
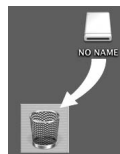
USB 通信方式が「PTP」(98) の場合：
転送が完了したら、カメラの電源を OFF にして、USB ケーブルを抜いてください。

USB 通信方式が「Mass Storage」の場合：
転送が完了したら、必ず次の操作を行ってからカメラの電源を OFF にして、USB ケーブルを抜いてください。

- Windows XP Home Edition／Professional の場合：
  パソコン画面右下の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックして「USB 大容量記憶装置デバイス―ドライブ (E:) ※を安全に取り外します」を選択してください。

- Windows 2000 Professional の場合：
  パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックして、「USB 大容量記憶装置デバイスードライブ (E:) ※を停止します」を選択してください。

- Windows Millennium Edition (Me) の場合：
  パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックして、「USB ディスクードライブ (E:) ※の停止」を選択してください。

- Windows 98 Second Edition (SE) の場合：
  マイコンピュータの中の「リムーバブルディスク」上でマウスを右クリックして「取り出し」を選択してください。

- Mac OS X の場合：
  デスクトップ上の「NO NAME」のアイコンをゴミ箱に捨ててください。

※ドライブ (E:) の「E」はご使用のパソコンによって異なります。

画像をプリントする

CF カードに記録した画像は、次の方法で従来の写真のようにプリントすることができます。

プリントする方法	参照ページ
デジタルプリントサービス取扱店に再生メニューの「**プリント指定**」で枚数、日付などを設定した CF カードを持ち込み、画像のプリントを依頼する。	150
カードスロット付き家庭用プリンタのカードスロットに再生メニューの「**プリント指定**」で枚数、日付などを設定した CF カードを装着し、CF カードから直接プリントする。	150
付属の USB ケーブル UC-E6 で「PictBridge」のダイレクトプリント対応プリンタとカメラを接続し、カメラから直接プリントする。	103
PictureProject を使用して CF カードに記録した画像をパソコンに転送し、パソコンでプリントする（詳細は PictureProject リファレンスマニュアル（CD-ROM）をご覧ください）。	–

「プリント指定」設定時のご注意

- CF カードに記録された画像は、再生メニューの「**プリント指定**」（参照 150）を行わずにデジタルプリントサービス取扱店にプリントを依頼したり、カードスロット付き家庭用プリンタでプリントすると、すべての画像が 1 枚ずつプリントされます。
- 再生メニューの「**プリント指定**」を設定すると、プリントする画像の選択、画像のプリント枚数の指定、撮影情報、撮影日時の写し込みを設定できます。この設定により、デジタルプリントサービス取扱店または家庭用の DPOF 対応プリンタで指定どおりにプリントすることができます。「**プリント指定**」の設定でプリントする場合は、デジタルプリントサービス取扱店やご使用のプリンタが DPOF に対応しているかどうかを、あらかじめご確認ください。

DPOF について

DPOF（デジタルプリントオーダーフォーマット）は、デジタルカメラで撮影した画像をデジタルプリントサービス取扱店や家庭用プリンタで自動プリントするための記録フォーマットです。

PictBridge について

PictBridge とは、デジタルカメラとプリンタメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずにプリンタで直接印刷するための標準規格です。

は PictBridge のロゴです

写真に日付を入れてプリントするには

次の方法で写真に日付を入れてプリントすることができます。

- 撮影前にセットアップメニューの「デート写し込み」で設定する (173)：
  - ・写し込むには、撮影前に設定する必要があります。
  - ・設定すると、日付が画像上に写し込まれます。
  - ・写し込まれた日付は、画像上から消すことができません。
  - ・画像上に写し込まれているため、特別な設定を行わなくても、プリント時に日付が写し込まれた状態でプリントされます。

- 再生メニューの「プリント指定」で設定する (150)：
  - ・撮影した後に設定します。
  - ・設定しても、日付は画像上には写し込まれません。日付がDPOF の設定ファイルに記録されます。
  - ・DPOF 対応のプリンタでプリントした場合のみ、日付が写し込まれた状態でプリントされます。

- 画像をパソコンに転送し、PictureProject の「印刷の設定：写真情報を印刷」で設定する：
  - ・詳細は PictureProject リファレンスマニュアル (CD-ROM) をご覧ください。

ダイレクトプリント

このカメラは、PictBridge のダイレクトプリント機能を搭載しています。カメラと PictBridge のダイレクトプリント対応プリンタを付属の USB ケーブル UC-E6 で接続することで、CF カードに記録した画像をパソコンを介さずにカメラからの操作で直接プリントできます。

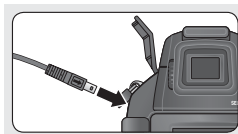
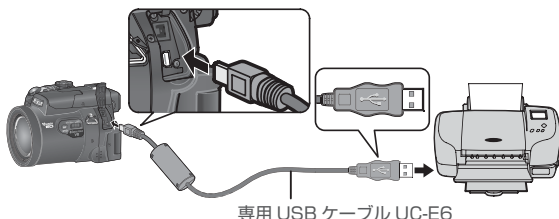
ダイレクトプリントは、次の手順で行います。

1 セットアップメニューで USB 通信方式を設定します (171)

- ダイレクトプリントを行う場合、**カメラとプリンタを接続する前に**、セットアップメニューの「**USB**」で USB 通信方式を「**PTP**」に設定します（初期設定は「**Mass Storage**」に設定されています）。

2 カメラとプリンタを接続します

- カメラの電源が OFF になっていることを確認して、カメラとプリンタを付属の USB ケーブル UC-E6 で下図のように接続します。

専用 USB ケーブル UC-E6

USB ケーブルをカメラのデジタル端子に接続するときは、USB ケーブルのコネクタを左の図のように斜め方向に差し込んでください。

ダイレクトプリントを開始する前に

- ご使用のプリンタが PictBridge に対応しているかをあらかじめご確認ください。
- ダイレクトプリントを始める前に、プリンタの設定を確認してください。画像をプリントする用紙、および用紙サイズはプリンタ側で設定します。カメラ側では設定できません。設定方法については、プリンタの使用説明書をご覧ください。

ダイレクトプリントできない画像について

画質が「**RAW**」の画像 (48) および動画 (77) をダイレクトプリントすることはできません。プリンタによっては、「**HI**」(TIFF) の画像に対応していない場合があります。詳しくはご使用のプリンタの使用説明書をご覧ください。

3 カメラとプリンタの電源を ON にします

- カメラとプリンタが正しく接続されると、カメラの液晶モニタに「PictBridge」画面が表示されます。

設　定	内　容	👁
プリント画像選択	画像を選択して、ダイレクトプリントします。	104
全画像プリント	CF カードに記録されているすべての画像を 1 枚ずつダイレクトプリントします。	106
DPOF プリント	あらかじめ再生メニューの「**プリント指定**」(👁150) で指定した画像を、設定した枚数でダイレクトプリントします（撮影日時と撮影情報は写し込まれません）。	106
キャンセル	ダイレクトプリントをキャンセルします。	–

4 カメラでダイレクトプリントの設定を行い、プリントします

「プリント画像選択」を選択した場合

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**プリント画像選択**」を選択します。

▷ を押すと、「プリント画像選択」画面が表示されます。◁ または ▷ を押して、プリントする画像を選択します。

- 選択した画像が画面の中央に表示されます。

使用する電源について

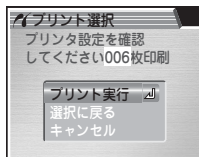
カメラとプリンタを接続してダイレクトプリントする場合は、確実に電源を供給できる AC アダプタ EH-54（別売）のご使用をおすすめします。バッテリーを使用する場合は、残量が充分なものをご使用ください。

△ を押して、プリントする画像を指定します。指定された画像には 凸 アイコンとプリント枚数が表示されます。

必要に応じて、プリントする枚数を変更します。

- △ を押すとプリント枚数は増加し（最高 9 枚）、▽ を押すと減少します。
- プリント指定を解除する場合は、プリント枚数が 1 の時に ▽ を押します。
- 手順の 2 ～ 4 を繰り返して、プリントする画像をすべて選択します。

● を押すと、選択した画像が縮小表示されます。

- マルチセレクターを使って画像を確認します。
- 画像の確認終了後、● を押すと、「プリント選択」画面が表示されます。

△ または ▽ を押して「**プリント実行**」を選択します。

- プリントする画像を選択し直したい場合は、「**選択に戻る**」を選択してください。
- 「**キャンセル**」を選択すると、画像はプリントされません。

● を押すと、プリントが開始されます。

- プリント中の動作をキャンセルする場合は、● を押します。カメラの電源を OFF にして、カメラとプリンタの接続を外してください。

プリントが終了すると、「印刷終了」という画面が表示され、次に「カメラ電源 OFF 可能です」という画面が表示されます。カメラの電源を OFF にして、カメラとプリンタの接続を外してください。

- ● を押すと、手順の 1 に戻ります。

「全画像プリント」を選択した場合

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**全画像プリント**」を選択します。

を押すと、プリントが開始されます。

- プリントをキャンセルする場合は、を押します。カメラの電源を OFF にして、カメラとプリンタの接続を外してください。

プリントが終了すると、「印刷終了」という画面が表示され、次に「カメラ電源 OFF 可能です」という画面が表示されます。カメラの電源を OFF にして、カメラとプリンタの接続を外してください。

- を押すと、手順の 1 に戻ります。

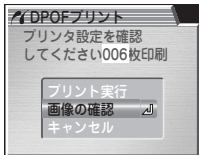
「DPOF プリント」を選択した場合

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**DPOF プリント**」を選択します。

▷ を押すと、「DPOF プリント」画面が表示されます。

PictBridge 対応プリンタで DPOF プリントする場合のご注意

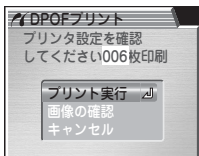
- CF カードに記録した画像に、再生メニューの「**プリント指定**」(150) を設定していない場合は、「**DPOF プリント**」を選択できません。
- プリント指定で日付と撮影情報を印刷するように設定しても、ダイレクトプリント時にはこれらの情報はプリントされません。

3

△ または ▽ を押して、「**画像の確認**」を選択します。

- 「**キャンセル**」を選択すると、画像はプリントされません

⏎ を押すと、選択した画像が縮小表示されます。

- マルチセレクターを使って画像を確認します。
- 画像の確認終了後、⏎ を押すと、「DPOF プリント」画面が表示されます。

5

△ または ▽ を押して「**プリント実行**」を選択します。

- 「**キャンセル**」を選択すると、画像はプリントされません。

⏎ を押すと、プリントが開始されます。

- プリントをキャンセルする場合は、⏎ を押します。カメラの電源を OFF にして、カメラとプリンタの接続を外してください。

プリントが終了すると、「印刷終了」という画面が表示され、次に「カメラ電源 OFF 可能です」という画面が表示されます。カメラの電源を OFF にして、カメラとプリンタの接続を外してください。

- ⏎ を押すと、手順の 1 に戻ります。

エラーメッセージが表示された場合

プリント中にエラーメッセージが表示された場合は、プリンタを確認してください。エラーの原因を処理した後、マルチセレクターの △ または ▽ を押して「**継続**」を選択し、⏎ を押すと、プリントを再開します。「**キャンセル**」を選択すると、その時点でプリントを中止します。

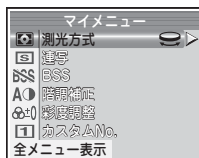
撮影メニュー

P、S、A、M のみ

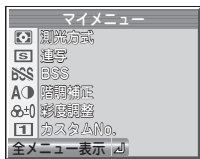
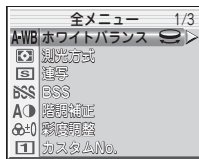
モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせると (62)、撮影メニューを使用することができます。撮影メニューでは撮影に関する詳細な設定を行うことができます。

撮影メニューはマイメニューと、全メニュー（1 ～ 3 ページ）のメニュー項目で構成されています。マイメニューでは、撮影メニューの全メニュー項目から選択された 6 つのメニュー項目が表示されます。

マイメニューの表示方法：

モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせます。

MENU ボタンを押すと、マイメニューが表示されます（図は初期設定の場合）。

- もう一度、MENU ボタンを押すと、撮影画面に戻ります。

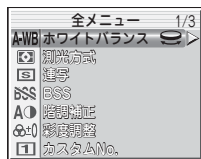
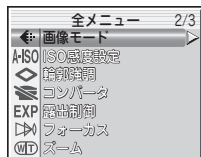
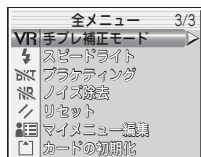
全メニューの表示方法：

マルチセレクターの △ または ▽ を押して「全メニュー表示」を選択します。

↵ を押して、すべてのメニュー項目を表示します。

コマンドダイヤルについて

（コマンドダイヤル）アイコンが付いている項目は、メニュー画面でコマンドダイヤル操作によって設定内容を切り換えることができます。

マイメニュー編集について

よく使用する撮影メニュー項目は、「**マイメニュー編集**」(135) により、あらかじめマイメニューに登録することができます。初期設定では、測光方式、連写、BSS、階調補正、彩度調整、カスタム No. が登録されています。

撮影メニューのすべての項目は 3 ページのメニュー画面で構成されています。

全メニュー 1/3	
ホワイトバランス	71～74
測光方式	110
連　写	111～114
BSS	115～116
階調補正	117
彩度調整	118
カスタム No.	119～120

全メニュー 2/3	
画像モード	48～51
ISO 感度設定	69～70
輪郭強調	120
コンバータ	121
露出制御	122～123
フォーカス	124～125
ズーム	126

全メニュー 3/3	
手ブレ補正モード	127
スピードライト	128～130
ブラケティング	131～132
ノイズ除去	133
リセット	134
マイメニュー編集	135～136
カードの初期化	137

測光方式

P·S·A·M → MENU → 測光方式

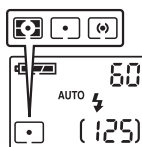
露出を合わせるためにカメラが被写体の明るさを計測することを測光といいます。

設　定	内　容	こんなときに
マルチ	CCDの撮像領域を256分割して測光し、最適な露出値を決定します。さまざまなシーンで正確な露出が得られます。	通常の撮影では、マルチ測光による撮影をおすすめします。
スポット	撮影画面中央部、全体の約1/32の領域のみを測光し、露出値を決定します。測光範囲は、撮影時に撮影画面中央部に表示されます。	被写体と背景の明るさの差が激しいときでも中央部の被写体の露出は適正となります。被写体が中央部にない場合にはAEロック（36）との併用もできます。
中央重点	撮影画面の中央部、全体の約1/4の領域に80%のウエイトを置いて測光し、露出値を決定します。	基本的な測光方式でポートレート撮影などに適しています。画面の中央部で測光しながら背景の描写にも配慮した測光を行います。被写体が中央部にない場合にはAEロック（36）との併用もできます。
AFスポット	選択されているAFエリアを測光し、露出値を決定します。	「**フォーカス**：**AFエリア選択**」（124）で「**オート**」または「**マニュアル**」に設定されているときに設定できます。「**オート**」または「**マニュアル**」で選択したAFエリアで測光します。

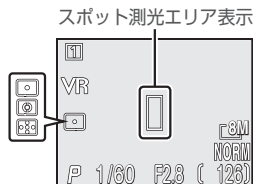
撮影メニュー

測光方式表示について

測光方式を設定すると、測光方式のアイコンが表示パネルに表示されます。

- 「**マルチ**」を設定した場合、撮影画面には測光方式のアイコンが表示されません。
- 「**AFスポット**」が設定されているときは、表示パネルに [•] が、撮影画面には [⁙] が表示されます。

表示パネル

撮影画面

連写

P·S·A·M ➤ MENU ➤ S 連写

撮影状況に合わせて単写、連写などの連続撮影モードを選択します。

設 定	内 容	画質	画像サイズ
単 写	シャッターボタンを深く押し込むと、1 コマの画像を撮影します。そのままシャッターボタンを押し続けても連続撮影はできません。	全画質可能	全画像サイズ可能
連写 H	シャッターボタンを押し続けると、最高約 2.3 コマ／秒で連続 5 コマまでの連続撮影を行います。撮影中液晶モニタ（または電子ビューファインダー）は消灯します。	RAW EXTRA ※1 FINE NORMAL BASIC	全画像サイズ可能
連写 L	シャッターボタンを押し続けると、最高約 1.2 コマ／秒で連続 11 コマ※2 までの連続撮影を行います。	EXTRA ※3 FINE NORMAL BASIC	全画像サイズ可能
マルチ連写	シャッターボタンを深く押し込むと、最高約 1.6 コマ／秒で 16 コマの連続撮影を行い、画像を 4 × 4 コマに並べて 1 つの画像（3264 × 2448 ピクセル）として保存します。	EXTRA ※3 FINE NORMAL BASIC	8M
UH 連写	シャッターボタンを深く押し込むと、640 × 480 ピクセルの画像を、約 30 コマ／秒で最高 100 コマまで連続撮影します。撮影を行うごとにN _ で始まり 3 桁の数字が続く名称の専用フォルダが作成され、そのフォルダに 100 コマすべてが記録されます。撮影画面の撮影可能コマ数表示部に撮影可能コマ数がカウント表示されます。	NORMAL	TV
サーキュラー連写	シャッターボタンを押し続けると、最高約 0.7 コマ／秒で連続撮影を行い、シャッターボタンから指を離すと連続撮影を終了します。連続撮影された複数の画像のうち、最後に撮影された 1 コマからさかのぼった連続 5 コマのみを CF カードに記録します。	EXTRA ※3 FINE NORMAL BASIC	全画像サイズ可能
インターバル撮影	設定された撮影間隔（インターバル）で静止画像の撮影を自動的に行います（113）。最高 1800 コマまで撮影可能です。	EXTRA ※3 FINE NORMAL BASIC	全画像サイズ可能

※1 画質が「HI」のときは自動的に「EXTRA」に設定されます。

※2 画質が「FINE」、画像サイズが 8M の場合の数値です。画質、画像サイズの設定により連続撮影可能コマ数は異なります。

※3 画質が「HI」または「RAW」のときは自動的に「EXTRA」に設定されます。

連写モードの制限について

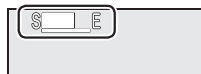
- 「**単写**」以外の連写モードと、「**BSS**」(☞ 115)、「**ブラケティング**」の「**WB-BKT**」(☞ 131)、「**ノイズ除去**」(☞ 133) を同時に設定することはできません。
- 「**連写 H**」、「**連写 L**」、「**マルチ連写**」、「**UH 連写**」、「**サーキュラー連写**」で撮影を行った場合は、AF、露出、ホワイトバランスは撮影 1 コマ目の条件に固定されます。
- 「**マルチ連写**」、「**UH 連写**」、「**サーキュラー連写**」、「**インターバル撮影**」と「**ブラケティング**」の「**ON**」(☞ 131) を同時に設定することはできません。
- 「**マルチ連写**」、「**UH 連写**」に設定した場合、電子ズーム (☞ 33) は使用できません。

スピードライトの使用について

各連写モードと組み合わせた場合の、内蔵スピードライトおよび外付けスピードライトの動作は次のようになります。

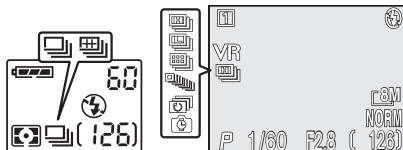
スピードライト	連写モード						
	S	H	L				
内蔵スピードライト	使用可能	**発光禁止**	**発光禁止**	**発光禁止**	**発光禁止**	**発光禁止**	使用可能
外付けスピードライト	使用可能	使用可能	使用可能	使用可能	**発光禁止**	使用可能	使用可能

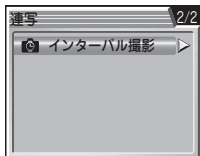
UH 連写について

UH 連写の場合、記録中にズーム表示が **S**（start）から **E**（end）に動きます。100 コマの撮影が終了する前に撮影を終了するには、シャッターボタンから指を離します。

カメラの一時保存メモリ

カメラには撮影中画像を一時的に保存しておくメモリがあり、CF カードへの画像の記録中にも連続撮影を行うことができます。このメモリに保存できる画像コマ数は画質と画像サイズにより異なります。一時保存メモリの容量がなくなると、撮影画面上に ⌛ マークが表示され撮影ができなくなります。画像が CF カードに書き込まれて一時保存メモリの容量が空くと、⌛ マークは消え、撮影を再開することができます。

連写モード表示について

- 「**単写**」以外の連写モードを設定した場合、撮影画面には設定した連写モードのアイコンが表示されます。
- 「**連写 H**」、「**連写 L**」、「**UH 連写**」、「**サーキュラー連写**」、「**インターバル撮影**」の場合は、表示パネルに が点灯します。
- 「**マルチ連写**」の場合は、表示パネルにも撮影画面にも が表示されます。

インターバル撮影の撮影方法

1

「連写」画面で、マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**インターバル撮影**」を選択します。

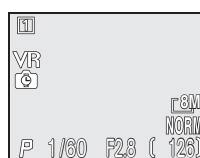
2

▷ を押すと、「インターバル設定」画面が表示されます。

3

△ または ▽ を押して、インターバル撮影の撮影間隔（インターバル）を「30 秒」、「1 分」、「5 分」、「10 分」、「30 分」、「60 分」から選択してください。

- ⏎ を押すと、選択が実行され、撮影メニューに戻ります。

4

撮影メニューに戻った後、MENU ボタンを押すと撮影画面に戻ります。

5

シャッターボタンを押し込んでインターバル撮影を開始します。設定された時間の撮影間隔（インターバル）ごとに静止画像の撮影を自動的に行います。

- もう一度シャッターボタンを押すか、CF カードの記録容量がなくなるか、1800 コマまで撮影すると、インターバル撮影が終了します。

インターバル撮影時の試し撮りについてのご注意

インターバル撮影を開始する前に試し撮りを行い、画像を確認することをおすすめします。

インターバル撮影について

インターバル撮影では、撮影から次の撮影までの間、液晶モニタ（または電子ビューファインダー）が消灯します。設定した撮影間隔（インターバル）が経過する直前に、液晶モニタ（または電子ビューファインダー）および表示パネルが自動的に点灯し、撮影を行います。

インターバル撮影時の電源についてのご注意

インターバル撮影時は、途中でバッテリーの残量がなくなると撮影を終了するため、AC アダプタ EH-54（別売）のご使用をおすすめします。

インターバル撮影で撮影された画像の保存

インターバル撮影で撮影を行うたびに、「INTVL」フォルダ（例：101INTVL）が新しく作成され、ファイル名「DSCN0001」から一連の画像が保存されます。

インターバル撮影モードでの表示について

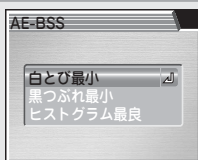
インターバル撮影中に QUICK ボタンを押しても、撮影した画像をレビュー再生モードや簡易再生モードで再生することはできません。

BSS（ベストショットセレクタ）

BSS は、最高 10 コマの画像を連続撮影し、カメラが自動的にもっともシャープな画像を 1 コマ選んでＣＦカードに記録する機能です。AE-BSS は、5 コマの画像を連続撮影し、カメラが自動的に白つぶれや黒つぶれなどの少ない画像を 1 コマ選んで CF カードに記録する機能です。

設　定	内　容
BSS OFF	BSS を OFF にします。
BSS ON	シャッターボタンを押し続けると、最高 10 コマの画像を連続撮影し、撮影された画像の中からもっともシャープな 1 コマをカメラが自動的に選択して CF カードに記録します。スピードライトは発光禁止となり、AF、露出、ホワイトバランスは撮影 1 コマ目の条件に固定されます。 「BSS」を「ON」に設定すると次のような場合に効果的です： • 望遠側にズーミングしている場合 • マクロ撮影の場合 • 暗いときにスピードライトを使用できない場合（例えば、スピードライトの光が届かないところに被写体があったり、暗い状態でも自然な光で撮影したい場合など）

撮影メニュー

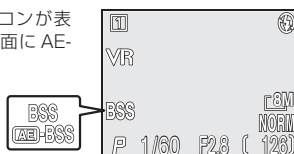
設　定	内　容
AE AE-BSS	シャッターボタンを押すと、5 コマの画像を連続撮影します。撮影された画像の中から、次の 3 種類から選んだ設定内容に合った 1 コマを、カメラが自動的に選択し、CF カードに記録します。スピードライトは発光禁止となり、AF、ホワイトバランスは撮影 1 コマ目の条件に固定されます。 (画面: AE-BSS / 白とび最小 / 黒つぶれ最小 / ヒストグラム最良) **白とび最小：** 露出オーバーによる白とびがもっとも少ない画像を選択します。 **黒つぶれ最小：** 露出不足による黒つぶれがもっとも少ない画像を選択します。 **ヒストグラム最良：** 撮影された画像のうち、白とびや黒つぶれが少ないものの中から、画像全体の露光量の平均が標準的な露光量にもっとも近い画像を選択します。 「**BSS**」を「**AE-BSS**」に設定すると次のような場合に効果的です： • 被写体の輝度差（明るい部分と暗い部分の差）が大きく、露出を合わせるのが難しい場合

BSS についてのご注意

「**BSS**」を「**ON**」に設定しても、動いている被写体を撮影したり、連続撮影中に構図を変えたりすると、適切な結果を得られない場合があります。

BSS 設定時の制限について

- 次の場合、BSS を OFF 以外に設定することができません。
  - ・セルフタイマー撮影時（56）
  - ・連写モードが「**単写**」以外のとき（111）
  - ・「**ブラケティング**」が「**ON**」または「**WB-BKT**」のとき（131）
  - ・「**ノイズ除去**」が「**ON**」のとき（133）
- BSS が「**AE-BSS**」の場合は、画質（48）を「**HI**」または「**RAW**」に設定することができません。

BSS 表示について

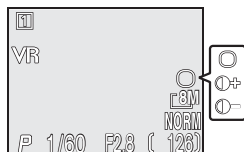
「**BSS**」を「**ON**」に設定すると、撮影画面に BSS のアイコンが表示されます。「**BSS**」を「**AE-BSS**」に設定すると、撮影画面に AE-BSS のアイコンが表示されます。

階調補正

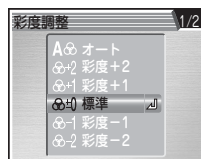
P·S·A·M ➔ MENU ➔ A◑ 階調補正

記録する画像のコントラストを設定します。

設　定	内　容
A◑ オート	カメラが撮影シーンに応じて最適なコントラストを自動的に設定します。
標準	標準的なコントラストに設定します。
◑+ コントラスト強め	明暗差を強調してコントラストをつけます。曇り空の下で撮影した風景の画像や、コントラストが低い被写体の画像に効果的です。
◑− コントラスト弱め	明暗差を抑えてコントラストを低くします。強い光で被写体にくっきりとした影が出てしまう場合などに効果的です。

階調補正表示について

「**オート**」以外の階調補正を設定した場合、撮影画面に設定した階調補正のアイコンが表示されます。ただし、彩度調整が「**モノクロ**」の場合には、階調補正のアイコンは表示されません。

彩度調整

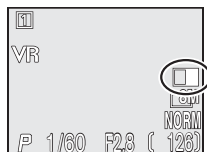
記録する画像の色の鮮やかさを変更できます。

設　定	内　容
A オート	カメラが撮影シーンに応じて最適な彩度に調整します。
+2 彩度＋２	彩度を鮮やかにします。＋１よりも＋２の方がより鮮やかになります。画像をプリンタで直接出力する場合に適しています。
+1 彩度＋１	
±0 標準	標準的な彩度に調整します。
-1 彩度－１	彩度を抑えます。－１よりも－２の方がより抑えられます。画像をパソコンでレタッチする場合などに適しています。
-2 彩度－２	
モノクロ	撮影画像をモノクロ画像として記録します。ファイルサイズはカラー画像と同様ですが、カラー画像に比べて解像感の高い画像になります。撮影画面もモノクロ表示になります。

モノクロモードの制限について

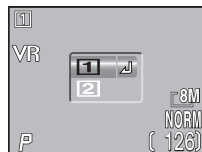
「**モノクロ**」に設定した場合：

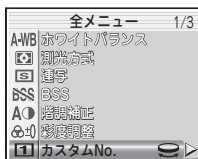
- 「**ホワイトバランス**」(71)、「**ブラケティング**」の「**WB-BKT**」(131) は設定できません。
- 画質を「**RAW**」に設定できません (48)。

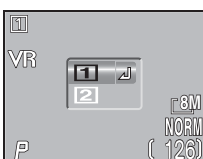
モノクロモード表示について

「**モノクロ**」に設定した場合、撮影画面もモノクロとなります。撮影画面には、モノクロ表示のアイコンが表示されます。

カスタム No.

P·S·A·M ➔ MENU ➔ カスタムNo.

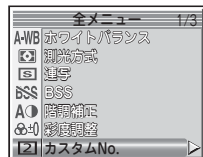
No.1 と No.2 の 2 つのカスタム No. に、ボタンや撮影メニューの設定を記憶させておくことができます。たとえば、No.1 を選んだ状態で各機能の設定を行うと、電源スイッチを OFF にしたり、カスタム No. を No.2 に切り換えても、再度 No.1 を選択することによって、設定していた組み合わせを呼び出すことができます。

カスタム No. の設定方法

1

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「カスタム No.」を選択します。

2

▷ を押すと、「カスタム No.」画面が表示されます。

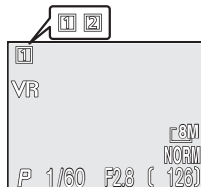
3

△ または ▽ を押して、カスタム No. を選択します。

4

⏎ を押すと、カスタム No. を決定して、撮影メニューに戻ります。

- 決定したカスタム No. に記憶させる項目をボタンや撮影メニューで設定できます。

カスタム No. 表示について

モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせると、 選択されているカスタム No. が撮影画面に表示されます。

撮影メニュー

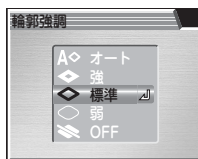
カスタム No. に設定できる項目は次のとおりです。

撮影メニュー項目			
ホワイトバランス※	ISO 感度設定	AF-MODE	調光補正
測光方式	輪郭強調	ピーキング	発光切替
連写	コンバータ	電子ズーム	ブラケティング
BSS	露出固定	ズーム時 F 値保持	ノイズ除去
階調補正	BULB/TIME	手ブレ補正モード	
彩度調整	AF エリア選択	POPUP	

ボタン操作		
（スピードライトモード）	（露出補正）	AF（フォーカスモード）

※「プリセット」で測定したプリセットホワイトバランス値をカスタム No. ごとに記憶することはできません。

輪郭強調

撮影シーンや好みに応じて、記録する画像の輪郭の強弱を設定します。

設　定	内　容
オート	撮影した画像が最適な輪郭になるようにカメラが自動的に調整します（調整の度合いは画像によって異なります）。
強	輪郭を強めに強調します。個々の被写体の境目がはっきりとした画像になるため、画像にメリハリをつけたい場合などに使用します。
標準	標準的なレベルで輪郭を強調します。
弱	輪郭を弱めに強調します。個々の被写体の境目がソフトな感じの画像になります。
OFF	輪郭を強調しません。画像をパソコンで加工する場合などに設定します。

輪郭強調についてのご注意

輪郭強調の効果を撮影時に撮影画面で確認することはできません。

コンバータ

P･S･A･M ➤ MENU ➤ コンバータ

別売のアダプタリング UR-E17（TC-E17ED 用）または UR-E18（FC-E9 用）（174）を使用して、コンバータを装着する場合に設定します。各コンバータに適したズーミングを自動的に設定することができます。コンバータの使用方法の詳細については、各コンバータの使用説明書をご覧ください。

設　定	内　容
OFF	通常のズーミングを行います。コンバータを使用しないときに設定します（アダプタリングは必ず取り外してください）。
ワイドコンバータ（WM-E80）	ワイドコンバータアタッチメント使用時に設定します。レンズが自動的に最も広角側にセットされ、マクロモードになります（通常 AF や遠景モードには設定できません）。ズーム可動範囲は広角側からミドルポジション（33）となります。
テレコンバータ（TC-E17ED）	レンズが自動的にもっとも望遠側にセットされます。ズーム可動範囲はミドルポジションから望遠側となります。光学ズームに加えて電子ズームが使用できます。
フィッシュアイ（FC-E9）	• ズーム位置がもっとも広角側に固定されます（33）。 • ピントは無限遠に固定されます。 • 測光方式は中央部重点測光に固定されます（110）。 • 画面の四隅が影になって画像が円形になります。

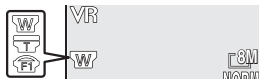
コンバータ使用時のご注意

- テレコンバータまたはワイドコンバータアタッチメントをカメラに装着して手ブレ補正機能を使用する場合は、必ず「**コンバータ**」でカメラに装着したコンバータを選択してください。「**OFF**」や異なるコンバータを選択すると、手ブレ補正機能は正しく動作しません。
- 「**コンバータ**」を「**フィッシュアイ**」に設定すると、手ブレ補正（VR）スイッチがオンの場合でも手ブレ補正は機能しません。
- コンバータレンズ装着時は、オートフォーカスで撮影してください（55）。マニュアルフォーカスモード、▲（遠景モード）ではピントが合わない場合があります。
- 「**コンバータ**」が「**OFF**」以外に設定されている場合、AF 補助光は使用できません。

スピードライトの使用制限について

- 「**コンバータ**」が「**ワイドコンバータ**」または「**テレコンバータ**」に設定されている場合、内蔵スピードライトは自動的に発光禁止になります。外付けスピードライト（129）を使用することにより、スピードライト撮影が可能になります。
- 「**コンバータ**」が「**フィッシュアイ**」に設定されている場合、内蔵スピードライトおよび外付けスピードライトは自動的に発光禁止になります。

コンバータ表示について

「**コンバータ**」が「**OFF**」以外に設定されている場合、撮影画面にコンバータのアイコンが表示されます。

露出制御

P·S·A·M ➤ MENU ➤ EXP 露出制御

「**露出制御**」には「**露出固定**」と「**BULB/TIME**」の2つの項目があります。

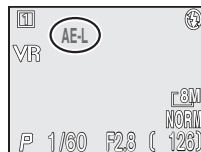
露出固定

一連の写真を同じシャッタースピード、絞り値、露出補正値、撮像感度、ホワイトバランスで撮影したいときなどに使用します。パソコンに画像を取り込んでパノラマ合成する場合などに便利です。

設　定	内　容
OFF	露出固定されず、通常の撮影を行います。
ON	設定後、最初に撮影された条件（シャッタースピード、絞り値、露出補正値、撮像感度、ホワイトバランス）に固定されます。露出固定中はスピードライトは発光禁止となります。
リセット	「ON」で固定した露出をいったんリセットします。新たに撮影を行うと、最初に撮影した条件（シャッタースピード、絞り値、露出補正値、撮像感度、ホワイトバランス）に固定されます。

撮影メニュー

露出固定表示について

「**露出固定**」を「**ON**」または「**リセット**」に設定すると、AE-Lのアイコンが撮影画面に黄色で表示されます。設定後、撮影を行うと撮影条件が固定され、AE-Lのアイコンは白色に変わります。以後、同じ条件で撮影を行います。

BULB/TIME

露出モードを **M** にセットして、シャッタースピードをBULB または TIME にセットした場合の長時間露出撮影方法を設定します (68)。

長時間露出撮影時のご注意

長時間露出撮影では、撮影した画像に星状ノイズが増加するのでご注意ください。「**ノイズ除去**」を「**ON**」に設定することをおすすめします (133)。

設　定	内　容
BULB 露光	シャッターボタンを押している間シャッターが開き、シャッターボタンを離した時点でシャッターが閉じます。シャッターボタンを押し続けることにより、最長 10 分の長時間露出撮影が行えます。
TIME 露光	シャッターボタンを押してから指を離しても、再度シャッターボタンが押されるか、設定した時間が経過するまでシャッターが開き続けます。 「**TIME 露光**」を選択してマルチセレクターの ▷ を押すと、露光時間の設定画面が表示されますので、「**30 秒**」、「**1 分**」、「**3 分**」、「**5 分**」、「**10 分**」の中から、設定する時間を選択してください。

長時間露出撮影 (BULB/TIME) 時のリモコンの使用について

付属のリモコン ML-L3 を使うと、シャッターボタンを押すことによる手ブレを防止することができます。リモコンを使用する場合は、撮影を行う前に、セルフタイマー (56) をセットする必要があります。リモコンについては「リモコンを使ったセルフタイマー撮影」(57) をご覧ください。

フォーカス

P·S·A·M ➜ MENU ➜ フォーカス

フォーカスに関する設定を行います。「**フォーカス**」には「**AF エリア選択**」、「**AF-MODE**」、「**ピーキング**」の 3 つの項目があります。

AF エリア選択：

オート撮影モード時には、画面中央にある被写体に自動的にピントが合いますが、モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせると、ピント合わせに使用する AF エリアの選択方法を設定することができます。

設　定	内　容
オート	5 つの AF エリアのいずれかに重なる被写体のうち、自動的にもっともカメラに近い被写体を選択してピントを合わせます。シャッターボタンを半押しすると、カメラが選択した AF エリアが撮影画面に表示されます。ピント合わせをカメラまかせにして、気軽に撮影したい場合に適しています。
マニュアル	撮影画面に表示された 9 つの AF エリアから撮影者が選択した AF エリアを使用して、ピントを合わせます。AF エリアは、マルチセレクターを使って選択します。比較的動きの少ない被写体が画面中央にない場合や、AF ロック（☞ 36）を使用しないでピント合わせを行いたい場合に適しています。
中央	中央部の AF エリアのみを使用してピント合わせを行います。AF エリアは撮影画面上に表示されません。被写体が画面中央にない場合は AF ロック（☞ 36）を使用してピント合わせを行います。

撮影メニュー

AF エリア選択の制限について

電子ズーム（☞ 33）作動中は AF エリアの選択はできません。この場合、中央の AF エリアが使用されます。

AF スポット測光について

AF スポット測光（☞ 110）時は、「**オート**」または「**マニュアル**」で選択した AF エリアのみが測光されます。

AF-MODE

AF モードをシングル AF または常時 AF に切り換えることができます。なお、設定した AF モードは静止画撮影時のみ有効です。動画撮影時の AF モードの設定方法については、「動画を選択する」(77) をご覧ください。

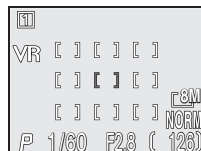
設　定	内　容
S-AF シングル AF	シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせを行い、ピントが合うと AF ロックを行います。
C-AF 常時 AF	シャッターボタンの操作にかかわらず、常にピント合わせを繰り返します。シャッターボタンを半押しするとピントを固定 (AF ロック) します。

ピーキング

ピーキング機能は、ピントの合っている部分の輪郭を、撮影画面上で強調表示します。マニュアルフォーカス (75) やオートフォーカスで、ピントを撮影前に正確に確認したい場合に便利です。なお、撮影する画像には影響ありません。

設　定	内　容
MF	マニュアルフォーカス時に、撮影画面上でピントが合っている部分の輪郭が強調されます。
ON	撮影画面上でピントが合っている部分の輪郭が常に強調されます。
OFF	ピントが合っている部分の輪郭の強調が解除されます。

AF エリア選択がマニュアルの場合

「**AF エリア選択**」を「**マニュアル**」に設定すると、9 つの AF エリアが撮影画面に表示されますので、マルチセレクターを使用して被写体がある AF エリアを選択します。被写体がどの AF エリアにもない場合などに AF ロック機能 (36) を併用することができます。

AF-MODE についてのご注意

AF モードにかかわらず、被写体にピントが合っていなくてもシャッターがきれますので、撮影時に AF 表示の点灯をご確認ください。

ズーム

P·S·A·M → MENU → (W)(T) ズーム

ズームに関する設定ができます。「**ズーム**」には「**電子ズーム**」と「**ズーム時 F 値保持**」の 2 つの項目があります。

電子ズーム

電子ズームを作動させるかどうかを設定します。

設　定	内　容
ON	光学ズームがもっとも望遠側にある状態で T ボタンを 2 秒以上押し続けると、自動的に電子ズームが作動します。
OFF	光学ズームがもっとも望遠側にある状態で T ボタンを押し続けても、電子ズームは作動しません（動画撮影時を除きます）。

電子ズームについてのご注意

- 次の場合は、電子ズームを使用することができません。
  - ・画質が「**RAW**」、「**HI**」に設定されている場合（48）。
  - ・連写モードが「**マルチ連写**」、「**UH 連写**」に設定されている場合（111）。
  - ・「**コンバータ**」が「**ワイドコンバータ**」または「**フィッシュアイ**」に設定されている場合（121）。
- 電子ズームの作動中は、AF エリアが中央に固定されます（124）。
- 電子ズームが 1.2 ～ 1.8 倍のときには測光モードは中央部重点測光に、2.0 ～ 4.0 倍のときにスポット測光になります（110）。

ズーム時 F 値保持

通常は、ズーミングに対応して F 値（絞り値）が変化しますが、「**ズーム時 F 値保持**」を「**ON**」に設定すると、セットした絞り値の変化を最小限に抑えながらズーミングします。

設　定	内　容
ON	露出モードを **A**、**M** にセットしたとき、絞り値の変化を最小限に抑えながらズーミングを行います。ただし、ズーミングによって絞りの制御範囲を超えてしまうことがあります。約 F5 ～ F8 の範囲内に絞り値をセットしてご使用ください。
OFF	ズーミングに対応して絞り値が変化します。

手ブレ補正モード

P·S·A·M → MENU → VR 手ブレ補正モード

手ブレ補正（VR）スイッチをオンにしたときの手ブレ補正モードを、通常の手ブレを補正する「**ノーマル**」と揺れの激しい条件での手ブレを補正する「**アクティブ**」の2 種類から選択できます。

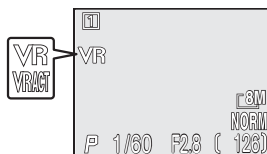
手ブレ補正機能の使用方法については「手ブレ補正（VR）機能」をご覧ください（60）。

設　定	内　容
VR ノーマル	通常の手ブレを補正します。また、カメラが流し撮りの動きを自動的に検出し、手ブレによる揺れのみを補正します。たとえば、横方向に流し撮りを行う場合には縦方向の手ブレだけが、縦方向に流し撮りを行う場合には横方向の手ブレだけが補正されます。
VRACT アクティブ	車上での撮影など、揺れの激しい条件で撮影する場合の手ブレを補正します。流し撮りには対応していません。

手ブレ補正機能使用時のご注意

流し撮りを行う場合は、「**手ブレ補正モード**」を必ず「**ノーマル**」に設定してください。

手ブレ補正モード表示について

「**手ブレ補正モード**」を「**ノーマル**」に設定すると VR アイコンが、「**アクティブ**」に設定すると VRACT アイコンが撮影画面に表示されます。

スピードライト

スピードライトに関する設定を行うことができます。「**スピードライト**」には、「**POPUP**」、「**調光補正**」、「**発光切替**」の3つの項目があります。

POPUP

スピードライトが発光する条件で、収納している内蔵スピードライトを自動的にポップアップさせるか、またはマニュアルでポップアップさせるかを設定します。

設　定	内　容
オート	スピードライトが発光する条件でシャッターボタンを半押しすると、内蔵スピードライトが自動的にポップアップし、撮影時に発光します。内蔵スピードライトがポップアップしていても、被写体が明るい場合は発光しません（強制発光に設定時を除きます）。
マニュアル	ボタンを押すと内蔵スピードライトがポップアップし、被写体の明るさに関係なく、内蔵スピードライトが強制発光します。

調光補正

撮影目的や撮影条件に合わせてスピードライトの発光量を補正します。－2EVから＋2EVまで、1/3EVステップで発光量を補正できます。

スピードライト使用時のご注意

スピードライトを使用するときは、レンズフード（別売）(174) を取り外してご使用ください。

発光切替

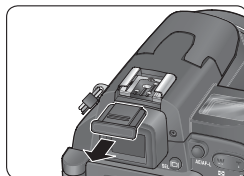
ニコン製の外付けスピードライトをカメラのアクセサリーシュー（ 12）に装着して使用する場合の内蔵スピードライトの ON/OFF をセットします。

設　定	内　容
オート	外付けスピードライト使用時は、外付けスピードライトが発光します。外付けスピードライトを使用しない場合、内蔵スピードライトが発光します。
内蔵発光禁止	内蔵スピードライトを発光禁止にします。

アクセサリーシューについて

COOLPIX8800 はニコン製スピードライト（別売）を直接装着して、コードレスで自動調光撮影を行うことができるアクセサリシューを備えています。内蔵スピードライトでは充分に照明されないときなどに外付けスピードライトを装着して使用すると効果的です。

外付けスピードライトを装着するときは、カメラのアクセサリーシューカバー（ 12）を外してください。アクセサリーシューカバーは、右図の矢印の方向に押してスライドさせると外れます。

外付けスピードライトをご使用にならないときは、アクセサリーシューカバーを装着してください。

外付けスピードライト SB-800・600 について

- COOLPIX8800 に対応できるスピードライトは SB-800・600 です。
- SB-800・600 にはセーフティロックピンが付いています。セーフティロック機構（ロック穴）を備えている COOLPIX8800 のアクセサリーシューに装着すると、外付けスピードライトが不用意に外れるのを防止できます。
- COOLPIX8800 に、SB-800・600 を組み合わせて使用する場合、撮影前に外付けスピードライトの発光モードを TTL にセットしてください。発光の前に少量発光を行う i-TTL 調光（スタンダード i-TTL 調光）が可能になります。ただし、アドバンストワイヤレスライティング（ワイヤレス増灯）、発光色温度情報伝達、オート FP ハイスピードシンクロ、FV ロック撮影、マルチエリアアクティブ補助光には対応していません。i-TTL 調光についてのくわしい説明は、外付けスピードライトの使用説明書をご覧ください。
- 外付けスピードライトの「スタンバイ」機能は、撮影時のカメラの電源 ON と連動します。レディライトの点灯は外付けスピードライト側でご確認ください。
- 外付けスピードライトを装着して、スピードライトモード（ 52）を （赤目軽減自動発光）にセットすると、内蔵スピードライトではなく、外付けスピードライトが発光して赤目軽減発光を行います。
- 外付けスピードライトのオートパワーズーム機能を使用すると、レンズの焦点距離に合わせて照射角が自動的にセットされます。ただし、「**コンバータ**」（ 121）が「**OFF**」以外に設定されている場合には、オートパワーズーム機能は使用できません。

外付けスピードライト使用時のスピードライトモード表示について

外付けスピードライトを装着したときの表示パネルと撮影画面に表示されるスピードライトモード表示は下表のとおりです

＜スピードライト：POPUP をオートに設定した場合 (128) ＞

スピードライトモード	表示パネル	撮影画面
自動発光	AUTO ⚡	A ⚡
発光禁止	⊘	⊘
赤目軽減自動発光	AUTO 👁 ⚡	👁 ⚡
強制発光	⚡	⚡ ⚡
スローシンクロ	AUTO ⚡ 🌃	🌃 ⚡
リアシンクロ	AUTO ⚡ ≡	⚡ ≡ ⚡

＜スピードライト：POPUP をマニュアルに設定した場合 (128) ＞

スピードライトモード	表示パネル	撮影画面
強制発光	⚡	⚡ ⚡
赤目軽減強制発光	👁 ⚡	👁 ⚡
スローシンクロ強制発光	⚡ 🌃	🌃 ⚡
リアシンクロ強制発光	⚡ ≡	⚡ ≡ ⚡

外付けスピードライトのレディライトが消灯している場合、調光が正しく行われません。外付けスピードライトのレディライトが点灯していることを確認して撮影を行ってください。

ブラケティング

P·S·A·M ➤ MENU ➤ BKT ブラケティング

露出またはホワイトバランスを少しずつずらした連続撮影をカメラが自動的に行います。露出補正やホワイトバランスの調整を行うのが難しいときなどに使用すると便利です。

設　定	内　容
BKT OFF	ブラケティングを行いません。
BKT ON	カメラが表示する適正露出値に対して、標準、＋側、－側の順で自動的に露出をずらしながら、3 コマまたは 5 コマの画像を撮影します。シャッターをきるたびに 1 コマずつ記録されます。
WB WB-BKT	シャッターボタンを 1 回押すと、そのとき設定されているホワイトバランス (☞ 71) を中心に、青みがかった画像、赤みがかった画像の 3 コマを記録します。シャッターをきるたびに 3 コマずつ記録されますので、書き込み時間は通常の約 3 倍かかります。

「ブラケティング」の「ON」について

「**ブラケティング**」を「**ON**」に設定すると：

- ☒ ボタンによる露出補正 (☞ 59) がすでに行われている場合は、補正量が加算されます。
- 露出モード (☞ 62) を **P** にセットした場合はシャッタースピードと絞り値が、**A** にセットした場合はシャッタースピードが、**S** にセットした場合は絞り値が変化します。
- 連写モードを「**連写 H**」または「**連写 L**」(☞ 111) に設定したときに、ブラケティング撮影をする場合、シャッターボタンを深く押し続けると、セットしたコマ数を撮影した時点でいったん停止します。
- スピードライトモードが「**自動発光**」(☞ 52) にセットされている場合、スピードライトの調光は、ブラケティングの1コマ目の調光制御が残りのコマにも適用されます。1 コマ目に対して発光した場合は残りのコマに対しても発光し、1 コマ目に対して発光しない場合は残りのコマに対しても発光しません。
- 撮像感度が「**オート**」に設定されている場合 (☞ 69)、撮影される画像の感度は次のように設定されます：

露出モード	感　度
P	各コマごとに感度が調整されます。
S、A	1 コマ目にセットされた感度で残りのコマも撮影されます。

ブラケティングの設定

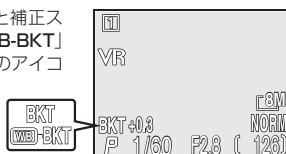
「**ブラケティング**」を「**ON**」に設定すると、右のようなメニュー画面が表示され、撮影コマ数と補正ステップを設定できます。

設定	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
3, ± 0.3	3	± 1/3EV	0, ＋ 0.3, − 0.3
3, ± 0.7	3	± 2/3EV	0, ＋ 0.7, − 0.7
3, ± 1.0	3	± 1EV	0, ＋ 1.0, − 1.0
5, ± 0.3	5	± 1/3EV	0, ＋ 0.7, ＋ 0.3, − 0.3, − 0.7
5, ± 0.7	5	± 2/3EV	0, ＋ 1.3, ＋ 0.7, − 0.7, − 1.3
5, ± 1.0	5	± 1EV	0, ＋ 2.0, ＋ 1.0, − 1.0, − 2.0

ブラケティング設定時の制限について

- 次の場合、「**ブラケティング**」を「**ON**」に設定することができません。
  - ・露出モードを **M** にセットしたとき (62)
  - ・連写モードが「**マルチ連写**」、「**UH 連写**」、「**サーキュラー連写**」、「**インターバル撮影**」のとき (111)
  - ・「**BSS**」が「**ON**」または「**AE-BSS**」のとき (115)
  - ・「**露出固定**」が「**ON**」のとき (122)
  - ・「**ノイズ除去**」が「**ON**」のとき (133)
- 次の場合、「**ブラケティング**」を「**WB-BKT**」に設定することができません。
  - ・画質が「**RAW**」または「**HI**」のとき (48)
  - ・露出モードを **M** にセットしたとき (62)
  - ・連写モードが「**単写**」以外のとき (111)
  - ・「**彩度調整**」が「**モノクロ**」のとき (118)
  - ・「**BSS**」が「**ON**」または「**AE-BSS**」のとき (115)
  - ・「**露出固定**」が「**ON**」のとき (122)
  - ・「**ノイズ除去**」が「**ON**」のとき (133)

ブラケティング表示について

「**ブラケティング**」を「**ON**」に設定すると、**BKT** のアイコンと補正ステップが撮影画面に表示されます。「**ブラケティング**」を「**WB-BKT**」に設定すると、**WB-BKT**（ホワイトバランスブラケティング）のアイコンが撮影画面に表示されます。

ノイズ除去

撮影時に生じるデジタル画像特有の星状ノイズを軽減します。

設　定	内　容
NR ON	約 1/4 秒以下の低速シャッタースピードでは、ノイズ除去が機能します。撮影開始から CF カードへの画像の記録が終了するまでに通常より 2 倍以上時間がかかります。
NR OFF	ノイズ除去は機能しません。

ノイズ除去設定時の制限について

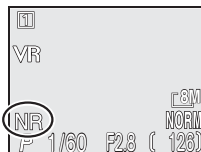
次の場合、「**ノイズ除去**」を「**ON**」に設定することができません。

- 「**BSS**」が「**ON**」または「**AE-BSS**」のとき（115）
- 「**ブラケティング**」が「**ON**」または「**WB-BKT**」のとき（131）
- 連写モードが「**単写**」以外のとき（111）

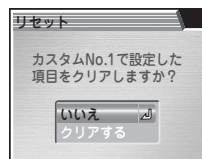
撮像感度を上げたときに生じる星状ノイズについて

撮像感度（69）を上げたときにも、撮影した画像に星状ノイズが生じる場合があります。この場合、撮影時に 1/4 秒以下の低速シャッタースピードであれば、「**ノイズ除去**」を「**ON**」に設定することにより星状ノイズを軽減することができます。

ノイズ除去表示について

「**ノイズ除去**」を「**ON**」に設定すると、撮影画面にノイズ除去のアイコンが表示されます。

リセット

P·S·A·M ➤ MENU ➤ リセット

現在選択されているカスタム No.（No.1、No.2）でセットした各種設定を初期設定にリセットします。選択されていないカスタム No. の内容は、リセットされません。

設定	内容
いいえ	リセットを行わずメニューを終了します。
クリアする	各項目の設定を初期設定に戻します。

リセットを実行すると、現在選択されているカスタム No. のセット内容（以下の項目）を初期設定にリセットします。現在選択されていない撮影モードのセット内容はリセットされません。

ボタン操作項目	初期設定
スピードライトモード	自動発光
フォーカスモード	通常 AF
セルフタイマー	OFF
露出補正	± 0

モードダイヤル設定項目		初期設定
画像モード※1		
	画質	NORMAL
	画像サイズ	8M 3264×2448
ホワイトバランス※2		オート
ISO 感度（撮像感度）		オート

メニュー項目	初期設定
測光方式	マルチ
連写	単写
BSS	OFF
階調補正	オート
彩度調整	標準

※1 カスタム No. にかかわらずリセットされます。
※2 微調整した値もクリアされます。

メニュー項目		初期設定
輪郭強調		標準
コンバータ		OFF
露出制御		
	露出固定	OFF
	BULB/TIME	BULB 露光
	TIME 露光	30 秒
フォーカス		
	AF エリア選択	オート
	AF-MODE	シングル AF
	ピーキング	MF
ズーム		
	電子ズーム	ON
	ズーム時 F 値保持	OFF
手ブレ補正モード		ノーマル
スピードライト		
	POPUP	オート
	調光補正	0
	発光切替	オート
ブラケティング		OFF
ノイズ除去		OFF

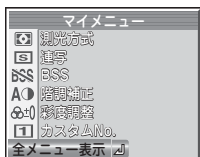
撮影メニュー

マイメニュー編集

P･S･A･M ➤ MENU ➤ マイメニュー編集

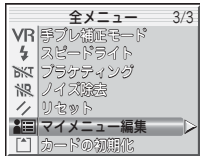
マイメニュー（108）に設定可能な6つのメニュー項目を、撮影メニューから選択して登録することができます。マイメニューは、モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかに合わせた場合、MENU ボタンを押すと最初に表示されるので、よく使用するメニュー項目をあらかじめ登録しておくと便利です。

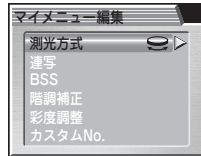
初期設定では「**測光方式**」、「**連写**」、「**BSS**」、「**階調補正**」、「**彩度調整**」、「**カスタムNo.**」が登録されています。別のメニュー項目に変更するには、以下の方法で行います。

1

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**全メニュー表示**」を選択します。

2

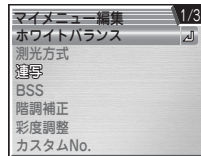
⏎ を押して、全てのメニュー項目を表示します。

3

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、全メニューの3ページ目にある「**マイメニュー編集**」を選択します。

4

▷ を押して、「マイメニュー編集」画面を表示します。

5

△ または ▽ を押して、マイメニューの中から変更したい項目を選択します。

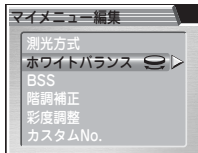
6

▷ を押すと、撮影メニューのすべての項目が表示されます。

撮影メニュー

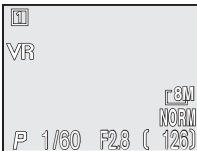
7

△ または ▽ を押して、マイメニューに登録したいメニュー項目を選択します。

マイメニューは、コマンドダイヤル を使って登録することもできます。手順 6 ～ 7 の代わりに、コマンドダイヤルを回してマイメニューに登録したいメニュー項目を選択してください。

8

を押すと、マイメニューで表示されているメニュー項目が入れ替わります。

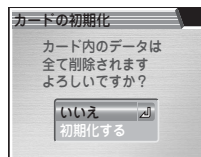
- 手順の5～8を繰り返して、マイメニューの編集を完了します。

9

MENU ボタンを押すと、撮影画面に戻ります。

カードの初期化

P·S·A·M ➤ MENU ➤ カードの初期化

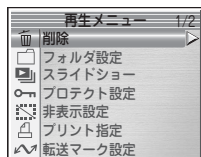
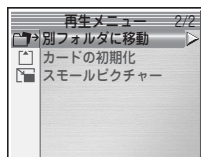
CF カードの初期化（フォーマット）を行います。初期化を行うと、CF カードに記録されているすべてのデータが消去されます。「**初期化する**」を選択してマルチセレクターの ⏎ を押すと、初期化が開始されます。

カード初期化中は、右の画面が表示されます。

カード初期化時のご注意

- 「カード初期化中」のメッセージが撮影画面に表示されている間は、電源を OFF にしたり、バッテリーを抜いたり、CF カードを取り出したりしないでください。
- カードを初期化すると、カード内のデータはすべて消去されます。初期化する前に保存したい画像をパソコンに転送することをおすすめします（98）。

撮影メニュー

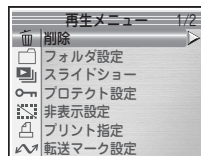
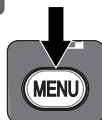
再生メニュー

再生メニューには次の項目があります。

再生メニュー 1/2	
削除	139～140
フォルダ設定	141～145
スライドショー	146～147
プロテクト設定	148
非表示設定	149
プリント指定	150～151
転送マーク設定	152～153

再生メニュー 2/2	
別フォルダに移動	154～155
カードの初期化	156
スモールピクチャー	156

再生メニューの表示方法

1

モードダイヤルを ▶ に合わせます。

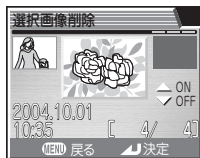
2

MENU ボタンを押すと、再生メニューが表示されます。

- もう一度、MENU ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

削除

画像の削除方法を選択できます。

設　定	内　容
選択画像削除	選択した画像を削除します。
全画像削除	すべての画像を削除します。

選択画像削除

選択した画像の削除は次のように行います。

1

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**選択画像削除**」を選択します。

2

▷ を押すと、「選択画像削除」画面に切り換わります。

3

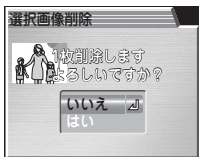
◁ または ▷ を押して、削除したい画像を選択します。

- 選択した画像が画面の中央に表示されます。

4

△ または ▽ を押して、削除する画像を設定します。

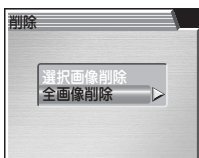
- 設定した画像には 🗑（削除）アイコンと枠型カーソルが表示されます。
- 手順の３と４を繰り返し、削除するすべての画像を設定します。
- 削除の設定を取り消す場合は、🗑（削除）アイコンが表示されている画像上で △ または ▽ を押して、🗑（削除）アイコンを消してください。

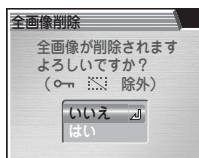
5

⏎ を押すと、削除確認画面が表示されます。△ または ▽ を押して「はい」を選択し、⏎ を押すと、選択した画像が削除されます。

- 「いいえ」を選択して ⏎ を押すと、画像は削除されずに再生メニューに戻ります。

全画像削除

全画像の削除は次のように行います。

1

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「全画像削除」を選択します。

2

▷ を押すと、削除確認画面が表示されます。△ または ▽ を押して「はい」を選択し、⏎ を押すと、CF カードに記録されているすべての画像が削除されます。

- 「いいえ」を選択して ⏎ を押すと、画像は削除されずに再生メニューに戻ります。

画像削除時のご注意

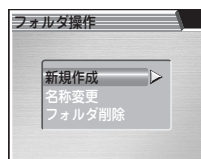
- 削除された画像を元に戻すことはできませんのでご注意ください。残しておきたい画像はパソコンに転送して保存することをおすすめします。
- O┳ （プロテクト）アイコンが表示されている画像はプロテクト設定（148）されていますので、「選択画像削除」画面に表示されますが、選択することはできず削除できません。
- 非表示設定（149）されている画像は、「選択画像削除」画面に表示されず削除できません。

フォルダ設定

画像や動画を再生するフォルダの新規作成、名称変更、削除、再生フォルダの選択などを行うことができます。

設　定	内　容
フォルダ操作	フォルダの新規作成、名称変更、削除を行います。
フォルダ選択	撮影した画像や動画を再生するフォルダを選択します。

フォルダ操作

「フォルダ操作」画面では、フォルダの新規作成、名称変更およびフォルダ削除を行うことができます。

設　定	内　容
新規作成	フォルダを新規作成します。
名称変更	作成したフォルダの名前を変更します。
フォルダ削除	作成したフォルダとそのフォルダ内の画像を削除します。

フォルダ操作について

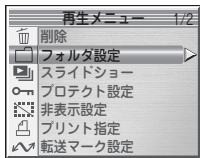
「**フォルダ操作**」はセットアップメニューの「**フォルダ設定**」(161) でも選択できます。

新規作成

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**新規作成**」を選択します。

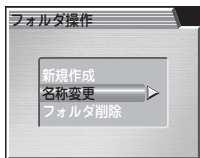
▷ を押すと、「新規作成」画面が表示されます。

変更したい文字を選択します。

入力する文字を選択します。フォルダ名にはAからZまでの大文字、数字、スペースを使用することができます。手順3と手順4を繰り返して5文字の名称を完成させます。

最後の文字を選択した後で ↵ を押すと、新規フォルダが作成され、再生メニューに戻ります（セットアップメニューから新規作成を行った場合はセットアップメニューに戻ります 157）。

- 新規に作成したフォルダが選択されている状態になります。

名称変更

1

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**名称変更**」を選択します。

2

▷ を押すと、名称変更が可能な既存のフォルダ名が表示されます（NIKON フォルダを名称変更することはできません）。

3

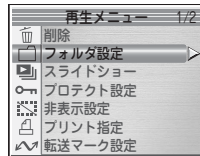
名称変更したいフォルダを選択します。

4

▷ を押すと、「名称変更」画面が表示されます。

5

前ページの「新規作成」の手順の 3 ～ 4 と同様にして、新しい名称に変更します。

6

最後の文字を選択した後で ⏎ を押すと名称の変更が完了し、再生メニューに戻ります（セットアップメニューから名称変更を行った場合はセットアップメニューに戻ります ☞ 157）。

- 名称を変更したフォルダが選択されている状態になります。

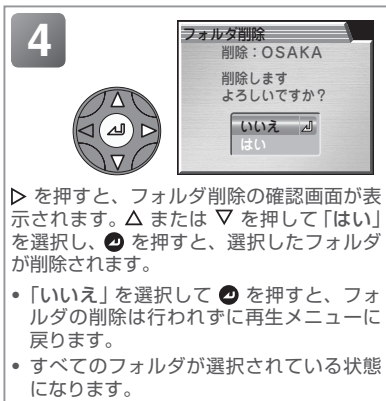
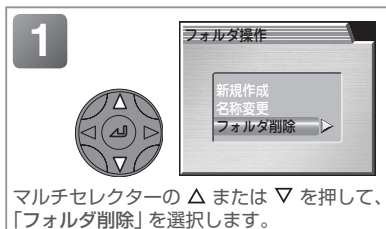
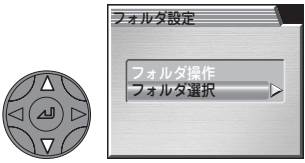
フォルダ削除

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**フォルダ削除**」を選択します。

▷ を押すと、フォルダ削除が可能な既存のフォルダ名が表示されます。

削除したいフォルダを選択します（NIKONフォルダを削除することはできません）。

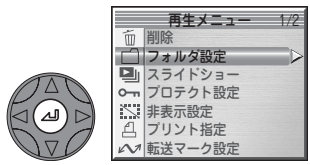
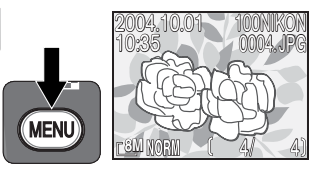
▷ を押すと、フォルダ削除の確認画面が表示されます。△ または ▽ を押して「**はい**」を選択し、↵ を押すと、選択したフォルダが削除されます。

- 「**いいえ**」を選択して ↵ を押すと、フォルダの削除は行われずに再生メニューに戻ります。
- すべてのフォルダが選択されている状態になります。

フォルダ削除時のご注意

選択したフォルダ内に非表示またはプロテクト設定された画像がある場合、そのフォルダは削除できませんが、フォルダ内の非表示およびプロテクト設定されていない画像はすべて削除されます。

再生するフォルダの選択

撮影した画像を再生するフォルダの選択を行います。

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**フォルダ選択**」を選択します。

▷ を押すと、「フォルダ選択」画面が表示されます。

△ または ▽ を押して、フォルダを選択します。

- 「**全てのフォルダ**」を選択すると、すべてのフォルダ内の画像を再生することができます。

⏎ を押すと選択が実行され、再生メニューに戻ります。

MENU ボタンを押すと、選択されたフォルダ内で一番最後に撮影された画像が表示されます。

フォルダの選択について

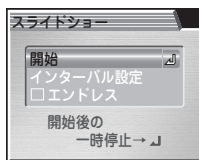
再生メニューの「**フォルダ選択**」でフォルダを選択した後に撮影を行うと、撮影した画像は再生メニューで選択したフォルダに記録されます。

UH 連写、インターバル撮影、パノラマアシストで作成されたフォルダについて

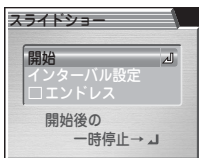
UH 連写、インターバル撮影、またはパノラマアシストで自動的に作成されるフォルダ（例：N_001、INTVL、P_001）を「フォルダ選択」画面で選択した後、撮影を行うと、撮影した画像は、「**NIKON**」を選択した場合と同じフォルダに記録されます。

スライドショー

画像を一定間隔で順番に再生するスライドショーを行います（非表示設定された画像は再生されません）。

「スライドショー」画面では、スライドショーの開始、インターバル設定、エンドレスの設定を行うことができます。

設　定	内　容
開始	スライドショーを開始します。
インターバル設定	1 コマの画像を表示している時間の変更ができます。
エンドレス	マルチセレクターの ↵ を押して、チェックボックスをオン ☑ にすると、もう一度 ↵ が押されるまでフォルダ内の画像を繰り返し再生します。

スライドショーの開始

1

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、**開始**を選択します。

- フォルダ内の画像を繰り返し再生する場合には、「**エンドレス**」を選択し、↵ を押してチェックボックスをオン ☑ にしてから「開始」を選択します。

2

↵ を押すとスライドショーが開始されます。CF カード内の画像が記録された順に 1 コマずつ一定間隔で再生されます。動画は、最初のフレームが静止画再生されます。

スライドショー時のオートパワーオフ機能について

スライドショーを開始して、カメラの操作を行わないまま 30 分経過すると、オートパワーオフ機能により液晶モニタ（または電子ビューファインダー）が消灯します。

スライドショー終了後

スライドショー終了後は「一時停止」画面が表示されます。マルチセレクターの ◁ を押すと再生メニューに、MENU ボタンを押すと 1 コマ再生画面に戻ります。

スライドショーの実行中は次の操作が可能です。

機　能	ボタン	内　容
一時停止する		マルチセレクターの ↵ を押すとスライドショーが一時停止し、右のような画面が表示されます。 スライドショーを再開するには、「**再開**」を選択して ↵ を押します。 一時停止 再開 インターバル設定 終了
コマ送り／コマ戻しをする		◁ または △ を押すとコマ戻しし、▷ または ▽ を押すとコマ送りします。
終了する	MENU	MENU ボタンを押すとスライドショーを終了して1コマ再生画面に戻ります。

インターバル設定

1 コマの画像を表示している時間の変更ができます。スライドショーの開始前、終了後、または一時停止中に表示される選択画面から、「**インターバル設定**」を選択してマルチセレクターの ▷ を押すと、「インターバル設定」画面が表示されます。画像を表示している時間を「**2 秒**」、「**3 秒**」（初期設定）、「**5 秒**」、「**10 秒**」のいずれかから選択し、↵ を押して設定します。

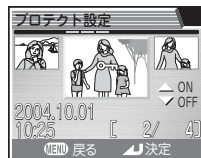
インターバル時間を設定すると、スライドショーを再開します。

インターバル設定についてのご注意

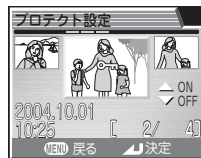
実際のインターバル時間は、画像のファイルサイズや CF カードから読み込むスピードによって、設定した時間とは異なる場合があります。

プロテクト設定

CF カードに記録されている画像を誤って削除しないようにプロテクト（保護）設定することができます。

1

マルチセレクターの ◁ または ▷ を押して、プロテクト設定したい画像を選択します。

- 選択した画像が画面の中央に表示されます。

2

△ または ▽ を押してプロテクト設定を行います。

- プロテクト設定された画像には O-π（プロテクト）アイコンが表示されます。
- 手順の 1 と 2 を繰り返し、プロテクトしたいすべての画像をプロテクト設定します。
- プロテクト設定を解除する場合は、O-π（プロテクト）アイコンが表示された画像上で △ または ▽ を押して、O-π（プロテクト）アイコンを消してください。

3

Ⓞ を押すと設定が完了します。

- プロテクト設定された画像には、1 コマ再生時またはサムネイル再生時に、O-π（プロテクト）アイコンが表示されます。

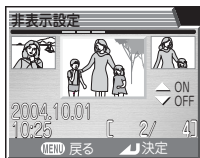
再生メニュー

CF カード初期化時のご注意

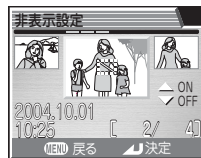
CF カードの初期化を行うと、プロテクト設定された画像も削除されますのでご注意ください。

非表示設定

CF カードに記録されている画像を非表示設定画面以外では表示しないように非表示設定することができます。

1

マルチセレクターの ◁ または ▷ を押して、非表示設定したい画像を選択します。

- 選択した画像が画面の中央に表示されます。

2

△ または ▽ を押して非表示設定を行います。

- 非表示設定された画像には（非表示）アイコンが表示されます。
- 手順の 1 と 2 を繰り返し、非表示設定したいすべての画像を設定します。
- 非表示設定を解除する場合は、（非表示）アイコンが表示された画像上で △ または ▽ を押して、（非表示）アイコンを消してください。

3

を押すと設定が完了します。

CF カード初期化時のご注意

CF カードの初期化を行うと、非表示設定された画像も削除されますのでご注意ください。

フォルダ内のすべての画像が非表示設定されている場合について

フォルダ内のすべての画像が非表示設定されている場合、「表示可能な画像がありません」という警告表示が表示され、他のフォルダを選択し直すか、または、非表示設定で画像の非表示を解除しない限り、画像の表示は行われません。

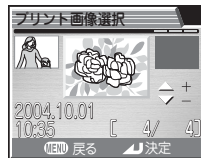
プリント指定

プリントする画像の選択、枚数の指定、撮影日時や撮影データの写し込みといった、撮影画像をプリントするための設定をあらかじめカメラでセットしたり消去したりすることができます。

これらの設定内容は、デジタルプリントオーダーフォーマット（DPOF）に対応したプリントショップやプリンタ、または PictBridge 対応プリンタでダイレクトプリントする場合に適用されます。DPOF およびダイレクトプリントについては「画像をプリントする」（101）をご覧ください。

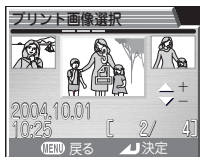
プリント画像の設定

プリントする画像の選択、枚数の指定、撮影日時や撮影データの写し込みの設定は、次の手順で行います。

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**プリント画像選択**」を選択します。
- 「**プリント指定取消**」を選択すると、すべてのプリント指定を取り消します。

▷ を押すと、「プリント画像選択」画面が表示されます。

◁ または ▷ を押して、プリントしたい画像を選択します。
- 選択した画像が画面の中央に表示されます。

△ を押して、プリント指定を設定します。設定された画像には 🖨 アイコンとプリント枚数が表示されます。

5

必要に応じて、プリントする枚数を変更します。

- △ を押すとプリント枚数は増加し（最高9 枚）、▽ を押すと減少します。
- プリント指定を解除する場合は、プリント枚数が 1 の時に ▽ を押します。
- 手順の 3 ～ 5 を繰り返して、プリントする画像をすべて設定します。

6

➋ を押すと画像の選択が完了し、プリント指定のメニューが表示されます。必要に応じて △ または ▽ を押して、プリント上に印字する情報を選択します。

- 選択したすべての画像に撮影日をプリントする場合は、「**日付**」を選択して ➋ を押します。「**日付**」が「**ON**」になります。
- 選択したすべての画像にシャッタースピードと絞り値をプリントする場合は、「**撮影情報**」を選択して ➋ を押します。「**撮影情報**」が「**ON**」になります。
- 選択した項目を「**OFF**」にする時は、その項目を選んで ➋ を押してください。
- プリント指定を終了し、再生メニューに戻る場合は、△ または ▽ で「**選択終了**」を選んで ➋ を押します。
- プリント指定された画像には、1 コマ再生時およびサムネイル再生時に、🖶 アイコンが表示されます。

再生メニュー

「プリント指定」で日付を写し込む場合のご注意

- 撮影日時を印字したい場合には、必ず撮影前にカメラの日時設定が正しく設定されていることをご確認ください (👁 27)。
- DPOF の日付機能に対応していないプリンタでプリントする場合は、この機能を使用することができません。
- プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの「**日時設定**」(👁 158) を変更してもプリントされる日付には反映されません。

プリント指定のリセット

プリント指定をセットした後、再度「プリント画像選択」画面を表示すると、「**日付**」と「**撮影情報**」の設定はリセットされますので、再度設定を行ってください。

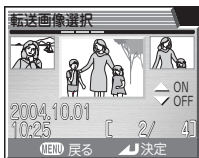
転送マーク設定

画像の転送設定を行います。転送設定された画像は、転送マーク付きの画像として、PictureProject を使用したときに一括してパソコンに転送することができます。転送方法については、クイックスタートガイドおよび付属の PictureProject リファレンスマニュアル（CD-ROM）をご覧ください。

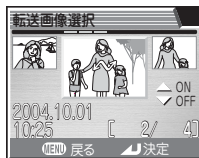
設　定	内　容
選択画像転送	転送する画像を選択します。
全画像転送	全画像の転送を設定します。
転送設定解除	全画像の転送設定を解除します。

選択画像転送

「**選択画像転送**」を選択してマルチセレクターの ▷ を押すと、「転送画像選択」画面に切り換わります。転送する画像の選択は以下の手順で行います。

1

マルチセレクターの ◁ または ▷ を押して、転送したい画像を選択します。

- 選択した画像が画面の中央に表示されます。

2

△ または ▽ を押して転送設定を行います。

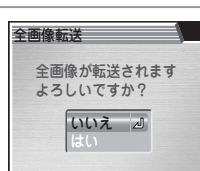
- 転送設定された画像には（転送マーク）が表示されます。
- 手順の 1 と 2 を繰り返し、転送したいすべての画像を転送設定します。
- 転送設定を解除する場合は、（転送マーク）が表示された画像上で △ または ▽ を押して（転送マーク）を消してください。

ボタンを押すと設定が完了します。

- 転送設定された画像には、1 コマ再生時およびサムネイル再生時に、（転送マーク）が表示されます。

全画像転送

全画像の転送を設定する場合は、次のように行います。

1 マルチセレクターの △ または ▽ を押して「**全画像転送**」を選択します。

2 ▷ を押すと、転送確認画面が表示されます。△ または ▽ を押して「**はい**」を選択し、を押すと、全画像転送が設定されます。

- 1 コマ再生時およびサムネイル再生時に、すべての画像に（転送マーク）が表示されます。
- 「**いいえ**」を選択して を押すと、全画像転送を設定せずに再生メニューに戻ります。

転送設定解除

「**転送設定解除**」を選択してマルチセレクターの を押すと、すべての画像から（転送マーク）が削除され、転送設定が解除されます。

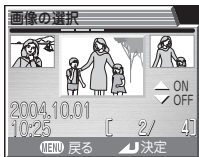
転送マーク設定時のご注意

- COOLPIX8800 以外のニコン製デジタルカメラで転送マーク設定した CF カードを COOLPIX8800 に挿入しても転送マーク設定は認識されません。COOLPIX8800 で再度転送画像を設定してください。
- 「全画像転送」で一度に転送設定できる画像は 999 コマまでです。1000 コマ以上の画像を一括転送する場合は、PictureProject をご使用ください。

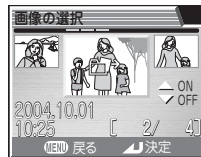
別フォルダに移動

フォルダに保存されている画像ファイルを、同じ CF カード内にある別のフォルダに移動します。

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、移動したい画像が保存されているフォルダを選択します。

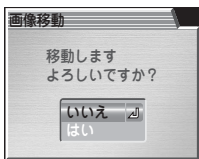
▷ を押すと、「画像の選択」画面が表示されます。

◁ または ▷ を押して、別フォルダに移動したい画像を選択します。

- 選択した画像が画面の中央に表示されます。

4

△ または ▽ を押して移動設定を行います。

- 移動設定された画像には （移動アイコン）が表示されます。
- 手順の 3 と 4 を繰り返し、移動したいすべての画像を移動設定します。
- 移動設定を解除する場合は、（移動アイコン）が表示された画像上で △ または ▽ を押して （移動アイコン）を消してください。

を押すと、移動先フォルダの一覧が表示されます。

△ または ▽ を押して、移動先のフォルダを選択します。

▷ を押すと、ファイル移動確認画面が表示されます。△ または ▽ を押して「**はい**」を選択し、 を押すと、ファイルが指定されたフォルダに移動されます。

- 「**いいえ**」を選択して を押すと、ファイルが移動されずに再生メニューに戻ります。

ファイル移動時のご注意

ファイルを別フォルダに移動すると、移動したファイルの info.txt 情報（171）は失われます。

移動後のファイル名について

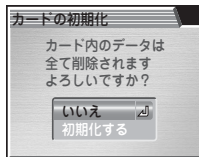
別のフォルダに移動された画像ファイル名の番号部分は、移動先のフォルダにある最大の番号に 1 を加えた番号になります。先頭文字（DSCN、RSCN、SSCN、FSCN）や拡張子（.NEF、.TIF、.JPG、.MOV）は変わりません。

ファイル移動ができないフォルダやファイルについて

次のフォルダはファイルの移動先として指定することはできません。また、これらのフォルダにある画像は別のフォルダに移動することができません。

- UH 連写で作成された、「N_」で始まる名称のフォルダ
- インターバル撮影で作成された「INTVL」フォルダ
- シーンモードのパノラマアシストで作成された、「P_」で始まる名称のフォルダ

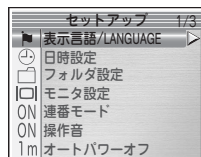
カードの初期化

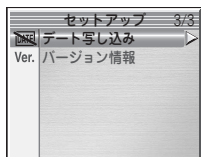
CF カードの初期化（フォーマット）を行います。内容については、撮影メニューの「カードの初期化」（137）をご覧ください。

スモールピクチャー

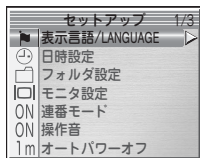
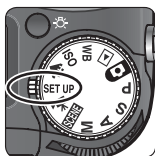
使用目的に合わせて、スモールピクチャーの画像サイズを、3 種類の画像サイズ（**640 × 480**、**320 × 240**、**160 × 120**）から選択します。内容については、「スモールピクチャー」（92）をご覧ください。

再生メニュー

セットアップメニュー

セットアップメニューには次の項目があります。

セットアップ 1/3	
表示言語 /LANGUAGE	158
日時設定	158 ～ 160
フォルダ設定	161
モニタ設定	162 ～ 165
連番モード	166
操作音	167
オートパワーオフ	168

セットアップ 2/3	
カードの初期化	168
ボタン設定	169 ～ 170
撮影確認 LED	170
info.txt	171
USB	171
ビデオ出力	172
設定クリア	172

セットアップ 3/3	
デート写し込み	173
バージョン情報	173

セットアップメニューの表示方法：

モードダイヤルを **SET UP** に合わせると、セットアップメニューが表示されます。

表示言語 /LANGUAGE

SET UP → 表示言語/LANGUAGE

メニュー画面やメッセージ画面に表示する言語を切り換えることができます。
「表示言語 /LANGUAGE」では、「**Deutsch**（ドイツ語）」、「**English**（英語）」、「**Español**（スペイン語）」、「**Français**（フランス語）」、「**Italiano**（イタリア語）」、「**Nederlands**（オランダ語）」、「**Svenska**（スウェーデン語）」、「**日本語**」、「**中文(简体)**（簡体字中国語）」、「中文(繁體)（繁体字中国語）」、「**한글**（韓国語）」の 11 言語から選択できます。

日時設定

SET UP → 日時設定

カメラの内蔵時計のタイムゾーン（地域）と日時を設定します。また、タイムゾーンを自宅から訪問先に変更することもできます。

設　定	内　容
日時	日付と時刻を設定します。詳しくは「言語と日時を設定します」をご覧ください（☞ 27）。
ワールドタイム	自宅および訪問先のタイムゾーンが選択できます。自宅（🏠）または訪問先（✈）のいずれか選択されているタイムゾーンの日時が撮影画像に記録されます。時差のある地域でカメラを使用するときに便利です。 日時設定 2004. 10. 01 18:15 Tokyo, Seoul ゾーン選択 □ 夏時間 London, Casablanca ゾーン選択 □ 夏時間 自宅および訪問先の選択アイコン（◉ の方が選択されています）

ワールドタイムの設定方法

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、自宅（🏠）または訪問先（✈）のゾーン選択を選択します。

- 夏時間を設定する場合は、「**夏時間**」を選択し、⏎ を押して □ を ☑ に切り換えた後で「**ゾーン選択**」を選択します。

2

▷ を押すと、世界地図が表示されます。

3

◁ または ▷ を押して、タイムゾーンを選択します。

- ワールドタイム設定をキャンセルする場合は、MENU ボタンを押します。

4

⏎ を押すと、タイムゾーンが設定され、「ワールドタイム」画面に戻ります。「ワールドタイム」画面には、設定した時刻が表示されます。

- 自宅（🏠）を選択した場合は、選択したタイムゾーンの時刻に設定されます。
- 訪問先（✈）を選択した場合は、自宅との時差を自動的に算出して、選択した都市の日付と時刻に設定されます。
- 「夏時間」のチェックボックスがオン ☑ の場合は、時刻が 1 時間進みます。

5

⏎ を押すと、ワールドタイム設定を終了して、セットアップメニューに戻ります。

タイムゾーンを選択すると、時差を自動的に算出して、時計を合わせます。

タイムゾーン	時差
Tokyo, Seoul	0
Beijing, HK, Singapore	–1
Bangkok, Jakarta	–2
Colombo, Dhaka	–3
Islamabad, Karachi	–4
Abu Dhabi, Dubai	–5
Moscow, Nairobi	–6
Athens, Helsinki	–7
Madrid, Paris, Berlin	–8
London, Casablanca	–9
Azores	–10
Fernando de Noronha	–11
BuenosAires, SaoPaulo	–12
Caracas, Manaus	–13

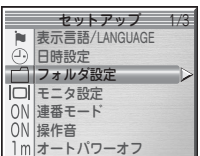
タイムゾーン	時差
EST (EDT): New York Toronto, Lima	–14
CST (CDT): Chicago Houston, Mexico City	–15
MST (MDT): Denver Phoenix, La Paz	–16
PST (PDT): Los Angeles Seattle, Vancouver	–17
Alaska, Anchorage	–18
Hawaii, Tahiti	–19
Midway, Samoa	–20
Auckland, Fiji	+3
New Caledonia	+2
Sydney, Guam	+1

ワールドタイムの設定についてのご注意

- 「**ワールドタイム**」は、日付と時刻が設定されていないと選択できません。
- 時差は 1 時間単位で自動的に設定されます。時計を正確に合わせる場合は、「**日時**」(158) で設定してください。
- 自宅と訪問先を同一のタイムゾーンに設定することはできません。

フォルダ設定

SET UP ➤ フォルダ設定

撮影した画像や動画を保存するフォルダの新規作成、名称変更、削除、保存先フォルダの選択などを行うことができます。「フォルダ操作」の内容については再生メニューの「フォルダ設定」(👁 141)をご覧ください。

画像を保存するフォルダの選択

撮影時に画像を保存するフォルダの選択を行います。

1

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「**フォルダ選択**」を選択します。

2

▷ を押すと、「フォルダ選択」画面が表示されます。

3

△ または ▽ を押して、フォルダを選択します。

4

↵ を押すと選択が実行され、セットアップメニューに戻ります。

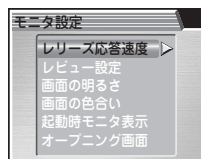
- 「フォルダ選択」画面で別のフォルダが選択されるまで、このフォルダにこれから撮影される画像が保存されます。

UH 連写、インターバル撮影、パノラマアシストについて

「**UH 連写**」(👁 111)設定時に撮影される画像は、カメラが自動的に作成する「N _」で始まる専用フォルダに保存されます。「**インターバル撮影**」(👁 113)設定時には、撮影を行うたびにカメラが自動的に「INTVL」フォルダを作成し、撮影された画像はそのフォルダに保存されます。また、シーンモードのパノラマアシスト(👁 46)設定時に撮影される一連の画像は、カメラが自動的に作成する「P_」で始まる専用フォルダに保存されます。これらのフォルダは、「**フォルダ選択**」で再生用に選択したり、フォルダごと削除することはできますが、新しい画像を記録することはできません。

モニタ設定

SET UP ➔ モニタ設定

レリーズ応答速度、レビュー表示の設定、画面の明るさ、画面の色合い、起動時モニタ表示、オープニング画面をセットできます。

レリーズ応答速度

シャッターボタンを押してから、実際に画像が撮影されるまでに生じる若干の時間差を調整します。設定は、モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせたときのみ有効です。

設　定	内　容
ノーマル	通常の撮影を行います。
クイックレスポンス※1	シャッターボタンを押してから、実際に画像が撮影されるまでに生じる時間差を最小限に抑えます。また、撮影後、液晶モニタにプレビュー画像（撮影後表示される画面）が表示されている間に撮影を行う場合※2、フォーカス、露出、ホワイトバランスは、直前に撮影した条件で固定されるため、「**ノーマル**」よりもスピーディに次の撮影を行うことができます。

※1 液晶モニタの画面に横線が入る場合がありますが、撮影する画像に影響はありません。

※2 撮影を優先させるために内蔵スピードライトが発光しないことがあります。また、連写モード（111）を「**単写**」に設定した場合、外付けスピードライトも発光しないことがあります。

レビュー設定

撮影した画像が撮影後に約 1 秒間表示されるレビュー表示について設定します。設定は、モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせたときのみ有効です。

設　定	内　容
レビュー ON	撮影後に撮影画像を約 1 秒間表示します。
レビュー OFF	撮影後に画像を表示しません。

画面の明るさ

液晶モニタの画面の明るさを調整します。マルチセレクターの △ または ▽ を押して画面右の矢印を上下させ、明るさを調節します（△ を押すと画面が明るく、▽ を押すと画面が暗くなります）。調整された明るさは、画面ですぐに確認できます。

◁ を押すと、変更された内容はキャンセルされます。⏎ を押すと、変更内容が設定され、セットアップメニューに戻ります。

画面の色合い

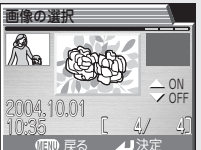
液晶モニタの画面の色合いを調整します。マルチセレクターの △ または ▽ を押して画面右の矢印を上下させ、色合いを調節します。調整された色合いは、画面ですぐに確認できます。

◁ を押すと、変更された内容はキャンセルされます。⏎ を押すと、変更内容が設定され、セットアップメニューに戻ります。

「画面の明るさ」と「画面の色合い」についてのご注意

- カメラがテレビやビデオに接続されている場合（🔍 97）、「**画面の明るさ**」と「**画面の色合い**」を設定することはできません。
- カメラで調整した「**画面の明るさ**」と「**画面の色合い**」はテレビ画面には反映されません。

起動時モニタ表示

液晶モニタを点灯するか、電子ビューファインダーを点灯するかを設定します。

設　定	内　容
モニタ表示	電源を ON にすると液晶モニタが自動的に点灯します。ただし、液晶モニタを内側にしてカメラ本体に収納している場合には電子ビューファインダーが自動的に点灯します。
EVF 表示	電源を ON にすると、電子ビューファインダーが自動的に点灯します。

起動時モニタ表示の設定内容にかかわらず、液晶モニタの点灯・消灯は、◙ ボタンを押すことによって、いつでも切り換えることができます。

オープニング画面

カメラの電源を ON にしたときに液晶モニタ（または電子ビューファインダー）に表示されるオープニング画面を、「**なし**」、「**Nikon**」、「**撮影した画像**」から選択します。

設　定	内　容
なし	電源を ON にしても、オープニング画面は表示されません。
Nikon	電源を ON にしたとき、右のようなオープニング画面が表示されます。
撮影した画像	CF カードに記録されている COOLPIX8800 で撮影した画像から、オープニング画面を選択することができます（165）。

オープニング画面の設定方法

1

マルチセレクターの △ または ▽ を押して、「撮影した画像」を選択します。

2

▷ を押すと、「画像の選択」画面が表示されます。

3

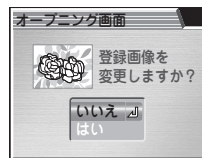
◁ または ▷ を押して、オープニング画面に使用する画像を選択します。

- 選択した画像が画面の中央に表示されます。
- 画像を選択せずに終了する場合は、MENU ボタンを押します。

4

決定ボタンを押すと、選択した画像がオープニング画面に設定されます。

「撮影した画像」でオープニング画面を選択した場合

「**オープニング画面**」の「**撮影した画像**」ですでに画像を登録している場合、画像を変更するかどうかを確認する画面が表示されます。変更する場合は「**はい**」を選択し、手順 2、3 に従って再度設定してください。変更しない場合は「**いいえ**」を選択してください。

オープニング画面に設定した画像について

「**設定クリア**」(172) で「**クリアする**」を選択すると、オープニング画面は「**Nikon**」(初期設定) に戻りますが、「**撮影した画像**」でオープニング画面に登録している画像はリセットされません。

連番モード

SET UP ➔ ON 連番モード

COOLPIX8800 で撮影した画像ファイルや動画ファイルには、いずれも DSCN と 4 桁の番号が付けられます（例：DSCN0001.JPG ～ DSCN9999.JPG）。これらのファイルが保存されるフォルダは 3 桁のフォルダ番号が付けられます（例：100NIKON）。

ファイル名とフォルダ名については、「撮影の基本ステップ」の「ファイル名とフォルダ名」（39）をご覧ください。

設　定	内　容
ON	CF カードを交換したり、記録フォルダを変更した場合にも、画像ファイルには撮影順に連続した番号が付けられます。このため、同じ名前のファイルが作成されず、画像をパソコンに転送して管理する場合などに便利です。CF カードを初期化（フォーマット）しても、連番はリセットされずに継続して付けられます。
OFF	画像ファイルの番号は、フォルダごとに撮影順に 0001 から 9999 まで自動的に付けられます。複数の CF カード、フォルダを使うと、例えば DSCN0001.JPG という同名のファイルが複数存在する状態になります。CF カードを初期化すると、連番はリセットされ、0001 から付けられます。
リセット	連番モードをいったん解除し、次回の撮影以降再び 0001 から連番を付けます。すでに画像がある場合は、CF カード内にある一番大きいファイル番号の次の番号から連番を付けます。

操作音

SET UP ➔ ON 操作音

カメラの状態を知らせる操作音の ON ／ OFF を設定することができます。

設　定	内　容
ON	次の場合にはカメラの操作音が 1 回鳴ります。 • 撮影モードでカメラが撮影可能な状態になったとき • マニュアルフォーカスをセットしたとき •「**コンバータ**」を「**OFF**」以外に設定したとき（コンバータモードが設定されたとき） • 画像が削除されたとき • CF カードが初期化（フォーマット）されたとき • プロテクト設定、非表示設定、プリント指定、または転送マーク設定を行ったとき • 画像ファイルを別フォルダに移動したとき • スライドショーのエンドレスのチェックボックスを □ から ☑ または、☑ から □ に切り換えたとき •「**日時設定**」で夏時間の □ を ☑ に切り換えたとき •「**操作音**」が「**ON**」に設定されたとき 次の場合にはカメラの操作音が 2 回鳴ります。 • シャッターボタンを深く押し込んで、シャッターがきれたとき※ 次の場合にはカメラの操作音が 3 回鳴ります。 • CF カードの記憶容量が不足している、または撮影モード時に CF カードが装着されていない状態でシャッターボタンが押されたとき • 電池の残量がない状態でシャッターボタンが押されたとき 次の場合にはシャッターがきれるまで、操作音が鳴り続けます。 • セルフタイマー作動中（約 10 秒間または約 3 秒間） • リモコン撮影中（約 2 秒間）
OFF	操作音は鳴りません。動画、音声メモに記録された音声は再生できます。

※「**モニタ設定**：**レリーズ応答速度**」を「**クイックレスポンス**」(162）に設定している場合、シャッターがきれたときの操作音は鳴りません。

オートパワーオフ

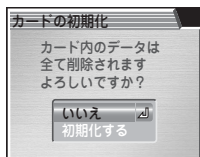
SET UP ➔ 1m オートパワーオフ

カメラの操作が何も行われない場合、オートパワーオフ機能が作動するまでの時間を「**30 秒**」、「**1 分**」(初期設定)、「**5 分**」、「**30 分**」のいずれかに設定できます。
オートパワーオフ状態では、カメラの各機能が停止して、実質的に電源 OFF 状態になり、電力がほとんど消費されません。シャッターボタンを半押しするか、モードダイヤルを切り換えるか、MENU、QUICK、DISP のいずれかのボタンを押すと、オートパワーオフ状態は解除されます。
内容については、「オートパワーオフ機能(節電モード)」(☞ 26)をご覧ください。

カードの初期化

SET UP ➔ カードの初期化

CF カードの初期化(フォーマット)を行います。内容については、撮影メニューの「カードの初期化」(☞ 137)をご覧ください。

セットアップメニュー

ACアダプタ使用時のご注意

AC アダプタ EH-54(別売)使用時は、オートパワーオフの設定内容にかかわらずオートパワーオフ機能の作動時間は 30 分に固定されます。ただし、AV ケーブルが接続されている場合、液晶モニタ(または電子ビューファインダー)は消灯しますが、オートパワーオフは機能しません。

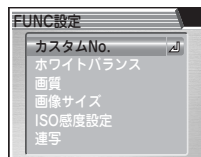
ボタン設定

SET UP ➔ FUNC ボタン設定

FUNC ボタンに別の機能を割り当てたり、AE/AF-L ボタンの設定を変更できます。

設 定	内 容
FUNC	FUNC ボタンに別の機能を割り当てます。
AE-L、AF-L	AE/AF-L ボタンの設定を変更します。

FUNC

FUNC ボタンに割り当てる機能を選択します。モードダイヤルを **P**、**S**、**A**、**M** のいずれかに合わせた場合に、FUNC ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ここで割り当てた機能をセットできます。メニュー画面を表示しなくてもよいので、よく使う機能を割り当てておくと便利です。

FUNC ボタンには、次の 6 種類の機能を割り当てることができます。

設 定	内 容
カスタム No.	FUNC ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すことにより、カスタム No.（No,1、No.2）が切り換わります (119)。
ホワイトバランス	FUNC ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すことにより、ホワイトバランスをセットすることができます (71)。 • FUNC ボタンでは、ホワイトバランスの微調整を行うことはできません。 • FUNC ボタンを押し続けると、プリセットホワイトバランス値を取得します。
画質	FUNC ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すことにより、画質をセットすることができます (48)。
画像サイズ	FUNC ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すことにより、画像サイズをセットすることができます (49)。
ISO 感度設定	FUNC ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すことにより、撮像感度をセットすることができます (69)。
連写	FUNC ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すことにより、連写モードをセットすることができます (111)。

AE-L、AF-L

初期設定では、AE/AF-L ボタンを押すと露出 (AE) とフォーカス (AF) の両方がロックされます。**AE-L**、**AF-L** では露出 (AE) とフォーカス (AF) いずれか一方のみをロックするようにセットできます。

設　定	内　容
AE-L & AF-L	AE/AF-L ボタンを押すと露出とフォーカスの両方がロックされます。
AE-L	AE/AF-L ボタンを押すと露出のみがロックされます。フォーカスはシャッターボタンを半押しするとロックされます。
AF-L	AE/AF-L ボタンを押すとフォーカスのみがロックされます。露出はシャッターボタンを半押しするとロックされます。

撮影確認 LED

SET UP ➔ OFF 撮影確認LED

セルフタイマーランプを撮影完了時の確認用ランプとして点灯するように設定できます。

設　定	内　容
ON	撮影が完了したときに、セルフタイマーランプが点灯してお知らせします。連写モードが「**マルチ連写**」または「**サーキュラー連写**」に設定されている場合は連続撮影が終了したときに点灯します。ただし、スピードライトが発光した場合や、連写モードが「**UH 連写**」に設定されている場合は、撮影完了時にセルフタイマーランプは点灯しません。
OFF	セルフタイマーランプは撮影完了時に点灯しません。

info.txt

SET UP ➔ OFF info.txt

「**info.txt**」を「**ON**」に設定すると、撮影時の各種データがテキストファイル（info.txt）として画像記録フォルダに保存されます。保存された info.txt はパソコン上で、Notepad（メモ帳）や SimpleText などで開くことができます。「**info.txt**」を「**OFF**」に設定した場合（初期設定では「**OFF**」になっています）、撮影時のデータがテキストファイルとして保存されることはなくなりますが、画像情報表示画面（87）で見ることができます。

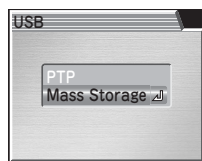
「**info.txt**」を「**ON**」に設定すると下記のような画像ごとの撮影データがテキストファイルとして保存されます。

- 画像ファイル名／種類
- カメラ機種名／ファームウェアバージョン
- 測光方式
- 露出モード
- シャッタースピード
- 絞り値
- 露出補正値
- 焦点距離と電子ズーム
- 階調補正モード
- ISO 撮像感度
- ホワイトバランス
- 輪郭強調
- 撮影日時
- 画像サイズと画質
- 彩度調整
- フォーカスエリア

画像が撮影された順に一覧表示され、画像と画像の間は一行分空白となります。

USB

SET UP ➔ USB

パソコンとの USB 通信方式を選択します。内容については「パソコンで再生する」（98）をご覧ください。

info.txt の転送について

info.txt は、PictureProject ではパソコンに転送することはできません。info.txt は、USB 通信方式（98）を「**Mass Storage**」に設定して、直接パソコンにコピーしてください。

ビデオ出力

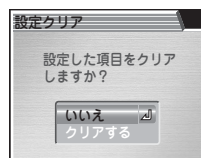
SET UP ➔ NTSC ビデオ出力

ビデオの出力方式を設定します。テレビやビデオデッキなど、接続する機器に合わせて選択してください(97)。

設　定	内　容
NTSC NTSC	NTSC 方式に設定します。通常、日本国内で使われている方式です。
PAL PAL	PAL 方式に設定します。通常、欧州で使われている方式です。

設定クリア

SET UP ➔ C 設定クリア

カメラの各項目の設定やメニューの設定をご購入時の状態にリセットします。

設　定	内　容
いいえ	設定をリセットしません。
クリアする	各項目の設定を初期設定の状態にリセットします。ただし、日時設定、ビデオ出力、表示言語、USB はリセットされません。

デート写し込み

SET UP ➜ デート写し込み

撮影画像に直接日付や時刻を写し込みます。

設定	内容
OFF	日付、時刻のどちらも写し込みません。
DATE 年、月、日	画像上に日付のみを写し込みます。
DATE 年、月、日、時刻	画像上に日付と時刻を写し込みます。

バージョン情報

SET UP ➜ Ver. バージョン情報

カメラのファームウェアバージョン情報を表示します。マルチセレクターの ◁ を押すと、セットアップメニューに戻ります。

「デート写し込み」について

- 撮影済みの画像に後から日付を写し込むことはできません。
- 一度写し込まれた日付を画像から消すことはできません。
- 画像サイズ（49）が「TV (640 × 480)」、「PC (1024 × 768)」、または「1M (1280 × 960)」の場合、写し込まれた日付データが読みづらい場合があります。
- 「**日時設定**」（158）で日付を設定していない場合、「**デート写し込み**」は「**OFF**」以外選択できません。
- 年、月、日の表示順序は、「**日時設定**」で選択した表示順序と同じになります。
- 再生メニューの「**プリント指定**」（150）の設定にかかわらず、写し込まれた日付や時刻はプリントされます。DPOF の日付機能に対応していないプリンタでもプリントされます。
- シーンモードが（パノラマアシスト）の場合（45）、画質が「**RAW**」の場合（48）、連写モードが「**連写 H**」、「**サーキュラー連写**」または「**UH 連写**」（111）の場合、動画（77）の場合には、「**デート写し込み**」を「**OFF**」以外に設定しても画像に日付は写し込まれません。
- 「**デート写し込み**」を、「**年、月、日**」または「**年、月、日、時刻**」に設定すると、撮影画面にデート写し込みのアイコンが表示されます。

付録

別売アクセサリー

COOLPIX8800 には次の別売アクセサリーを使用できます。詳しくは販売店にお問い合わせください。

リチャージャブルバッテリー	• Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL7 • Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL7e（バッテリー残量表示ランプ付き）
AC アダプタ	AC アダプタ EH-54
バッテリーパック	バッテリーパック MB-CP11
ソフトケース	ソフトケース CS-CP21
PC カードアダプタ	PC カードアダプタ EC-AD1
コンバータレンズ （TC-E17ED および FC-E9 の場合にはアダプタリングを使用します）	• ワイドコンバータアタッチメント WM-E80（0.8 倍） • テレコンバータ TC-E17ED（1.7 倍） • フィッシュアイコンバータ FC-E9（0.2 倍）
アダプタリング	• アダプタリング UR-E17（TC-E17ED 用） • アダプタリング UR-E18（FC-E9 用）
レンズフード	レンズフード HN-CP14
フィルター	COOLPIX 用ニコンフィルター • ニュートラルカラー（NC）FF-CP11 NC • 円偏光（Circular Polar）FF-CP11 CPL • ニュートラルデンシティ（ND）FF-CP11 ND4
スピードライト／ スピードライトアクセサリー	ニコンスピードライト SB-800・SB-600 調光コード SC-29・SC-28

コンバータ／ COOLPIX 用ニコンフィルター／レンズフード使用時のご注意

- コンバータと COOLPIX 用ニコンフィルターは同時に使用することはできません。カメラに COOLPIX 用ニコンフィルターを装着している場合は、コンバータを取り付ける前に、かならず COOLPIX 用ニコンフィルターを取り外してください。
- コンバータとレンズフードは同時に使用することはできません。レンズフードを使用する場合は、レンズフードを取り付ける前に、かならずコンバータを取り外してください。
- COOLPIX 用ニコンフィルターとレンズフードは同時に使用することはできません。レンズフードを使用する場合は、レンズフードを取り付ける前に、かならず COOLPIX 用ニコンフィルターを取り外してください。

他社製のスピードライトについてのご注意

他社製スピードライト（カメラのアクセサリーシューにマイナス電圧や 250V 以上の電圧がかかるものや小さな接点が触れてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびスピードライトのシンクロ回路を破損することがあります。

使用可能な CF カード

ニコン CF カード EC-CF シリーズの他に、次の他社製 CF カードおよびマイクロドライブが使用可能です。

SanDisk 社製 CF カード：

コンパクトフラッシュシリーズ（SDCFB）
32MB、64MB、128MB、256MB、512MB

Ultra コンパクトフラッシュシリーズ（SDCFH）
128MB、256MB、512MB

Ultra II コンパクトフラッシュシリーズ（SDCFH）
256MB

LEXAR MEDIA 社製 CF カード：

4X USB シリーズ	16MB、32MB、64MB、128MB、256MB、512MB
8X USB シリーズ	16MB、32MB、64MB、128MB、256MB、512MB
12X USB シリーズ	64MB、128MB、256MB、512MB
16X USB シリーズ	64MB、128MB、256MB、512MB
24X USB シリーズ	64MB、128MB、256MB、512MB
24X WA USB シリーズ	64MB、128MB、256MB、512MB

ルネサステクノロジ（日立）社製：

HB28BxxxC8x シリーズ　128MB、256MB、512MB

マイクロドライブ：

1GB、2GB、4GB

上記 CF カードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、CF カードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製の CF カードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

✔ CF カード使用上の注意

- カメラの使用直後には CF カードが熱くなっている場合がありますので、ご注意ください。
- CF カードをはじめてご使用になるときは、必ず初期化（フォーマット）してください。
- CF カードの初期化中は、絶対にカメラからカードを取り出さないでください。カードが使用できなくなることがあります。
- CF カードへ記録・削除が行われているときや、パソコンとの通信時には、以下のことは行わないでください。記録されているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - ・カードの着脱をする　・カメラの電源を OFF にする
  - ・バッテリーを取り出す　・AC アダプタを抜く
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- CF カードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

レンズ／ファインダー	レンズやファインダーのガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないように注意してください。ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布などでガラス部分の中央から外側にゆっくりと円を描くように拭き取ってください。汚れが取れない場合は、乾いた柔らかい布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭いてください。硬いもので拭くと傷が付くことがありますので注意してください。
液晶モニタ	ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。強く拭くと破損や故障の原因となることがありますので注意してください。
カメラ本体	ゴミやホコリをブロアーで吹き払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品は使用しないでください。

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源が OFF になっていることを確認してください。

カメラを保管する場合は、下記のような場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が 50℃以上、または−10℃以下の場所
- 湿度が 60%を超える場所

カメラの取り扱い上のご注意

●強いショックを与えないでください
カメラを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。故障の原因となります。また、レンズに触れたり、レンズおよびカバーに無理な力を加えたりしないでください。

●水に濡らさないでください
カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

●液晶モニタを無理に回さないでください
液晶モニタは回転範囲内でゆっくりと回してください。無理な力がかかると、カメラと接続しているヒンジ部の故障の原因となります。

●急激な温度変化を与えないでください
極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバックやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

●強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しない場合があります。

●長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください
太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は CCD の褪色・焼きつきを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

●保管する際には
カメラを長期間使用しないときは、バッテリーを必ず取り出しておいてください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってご使用いただけるように、月に一度を目安にバッテリーを入れカメラを操作することをおすすめします。

●バッテリーや AC アダプタを取り外すときは必ず電源スイッチが OFF の状態で行ってください
電源スイッチが ON の状態で、バッテリーの取り出し、AC アダプタの取り外しを行うと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中の前記操作には、充分注意してください。

●液晶モニタについて
- 液晶モニタの特性上、一部の画素に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。あらかじめご了承ください。また記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニタが見えにくい場合があります。
- 液晶モニタ表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニタが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので充分ご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

●スミアについて
明るい被写体を写すと、液晶モニタ画像に縦に尾を引いたような（上下が帯状に白く明るくなる）現象が発生することがあります。この現象をスミア現象といい、故障ではありません。また撮影された画像には影響はありません。

●AF 補助光について
AF 補助光（35）に使用されている LED（発光ダイオード）は以下の IEC 規格に準拠しています。

クラス1 LED製品

IEC60825-1 Edition 1.2-2001

付録

バッテリーの取り扱いについて

バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品を腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

●バッテリー使用上のご注意

- バッテリーを電源として長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがありますので注意してください。
- 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止して、販売店またはニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

●撮影の前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影する前に、バッテリーを充電してください。付属のリチャージャブルバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりませんのでご注意ください。

- 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しないでください。バッテリー性能が劣化します。
- 充電直後にバッテリーの温度が上がる場合がありますが、性能その他に異常はありません。
- 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止して、販売店またはニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

●予備のバッテリーを用意する

撮影の際は、予備バッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合がありますので、ご注意ください。

●低温時のバッテリーについて

バッテリーは一般的な特性として、低温時には性能が低下します。低温時に使用する場合は、バッテリーおよびカメラを冷やさないようにしてください。

●低温時には容量の充分なバッテリーを使い、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しない場合があります。低温時に撮影する場合は、充分に充電されたバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

●バッテリーの接点について

バッテリーの接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなる場合がありますのでご注意ください。

●バッテリーの残量について

電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON／OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してご使用ください。

●バッテリーの保管について

- バッテリーをしばらく使用しない場合は、使い切った状態で保管してください。
- 長期間保管する場合は、年に1回程度充電した後、使い切った状態で保管してください。
- 付属の端子カバーを付けて、涼しい場所で保管してください。周囲の温度が15～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。

●バッテリーの寿命について

充分に充電したにもかかわらず、バッテリーの使用期間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお求めください。

●リチャージャブルバッテリー EN-EL7 のリサイクルについて

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは、再利用しますので廃棄しないでリサイクルにご協力ください。端子部にテープなどを貼り付けて絶縁させてから、ニコンサービスセンターやリサイクル協力店へご持参ください。

Li-ion

付録

警告メッセージについて

液晶モニタに下記の警告メッセージおよびその他の警告が表示された場合は、修理やアフターサービスをお申し付けになる前に下記の対処法をご確認ください。

表　示	原　因	対処法	参照ページ
（時計アイコン）（点滅）	カメラの時計が設定されていません。	日付と時刻を設定してください。	27
自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	ワールドタイムの設定で、自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しようとしました。	自宅と訪問先のタイムゾーンを再度確認してください。自宅と訪問先のタイムゾーンが同じであれば設定する必要はありません。	158
電池残量がありません	バッテリーが消耗しています。	カメラの電源を OFF にしてバッテリーを交換してください。	31
この電池は使用できません ※表示パネルには Err が表示されます	EN-EL7 以外のバッテリーがカメラに入っています。	EN-EL7 を使用してください。	22
電池に異常があります ※表示パネルには Err が表示されます	バッテリーに異常があります。	使用を中止して、販売店またはニコンサービスセンターに修理を依頼して下さい。	21
電池が劣化しています	バッテリーの寿命です。	バッテリーの寿命です。新しい EN-EL7 をお求めください。	–
（カードアイコン） カードが入っていません	カメラが CF カードを認識できません。	カメラの電源を OFF にして CF カードが正しく挿入されていることを確認してください。	24
（カードアイコン） このカードは使用できません （カードアイコン） カードに異常があります	CF カードへのアクセス異常です。	• 動作確認済みの CF カードをご使用ください。 • 端子部が汚れていないかどうか確認してください。 • カメラの電源を入れ直してみてください。	175 – 26

表　示	原　因	対処法	👁
初期化されていません いいえ 初期化する	COOLPIX8800 用に CF カードが初期化されていません。	マルチセレクターの ▽ を押して、「**初期化する**」を選択し、↵ を押してカードを初期化するか、カメラの電源を OFF にして適切に初期化されたカードと交換してください。	24 137
メモリ残量がありません	撮影中： 画像を記録する空き容量がありません。	• 画質または画像サイズを変更してください。 • 不要な画像を削除してください。 • 新しいカードを挿入してください。	48 139 24
	画像をパソコンに転送中： 画像を転送するための通信情報を書き込む空き容量がありません。	カメラとパソコンの接続を外し、不要な画像を削除して再度転送してください。	100 139
画像を登録できません	• カードのフォーマットが異なります。 • 画像の保存中にエラーが発生しました。 • フォルダ、またはファイル番号のオーバーフローです。	• CF カードを初期化してください。 • 新しいカードを挿入してください。	137 24
	トリミングや D- ライティングができない、またはスモールピクチャーを作成できない画像です。	トリミングや D- ライティングができる画像、スモールピクチャーを作成できる画像をご確認ください。	90 93 94
撮影画像がありません	• CF カードに撮影された画像が入っていません。 • レビュー再生または再生モード時、選択されているフォルダに画像が入っていません。 • 「**フォルダ設定**」でフォルダを新規作成しました。 • 「**フォルダ設定**」で名称変更したフォルダに画像が入っていません。	画像を再生するために、「**フォルダ設定**」で画像が入ったフォルダを選択してください。	141

表　示	原　因	対処法	👁
表示可能な画像がありません	選択されているフォルダ内の画像がすべて非表示設定されています。	他のフォルダを選択するか、「**非表示設定**」でフォルダ内の画像の非表示設定を解除してください。	145 149
モニタ OFF します ※表示パネルには Err が表示されます	長時間使用したため、内部回路保護が働きました。	カメラの電源を OFF にして、しばらく放置した後ご使用ください。	26
	周囲の温度がバッテリーの指定温度範囲を超えています。	バッテリーの指定温度範囲（0 ～ 40℃）内でご使用ください。バッテリーが高温になっている場合は、バッテリーの温度が下がってからご使用ください。	21
このファイルは表示できません	パソコンまたは他のカメラで作成したファイル（画像）です。	撮影したカメラまたはパソコンで再生してください。	–
このファイルは削除できません	プロテクト設定された画像です。	「**プロテクト設定**」で画像のプロテクト設定を解除してから画像を削除してください。	148
フォルダの削除ができません	フォルダ内に、非表示設定またはプロテクト設定された画像があるか、もしくはニコンデジタルカメラ以外で撮影された画像が入っています。	• 非表示設定またはプロテクト設定された画像がある場合、設定を解除してください。 • ニコンデジタルカメラ以外で撮影した画像がある場合、フォルダの削除はできません。	148 149 –
モードダイヤル位置がずれています ※表示パネルには Err が表示されます	カメラの指標にセットされているモードがありません。	モードダイヤルを回して、カメラの指標にいずれかのモードを合わせてください。	18
AUTO では設定可能なメニューはありません	📷（オート撮影モード）時に MENU（メニュー）ボタンが押されました。	モードダイヤルが 📷（オート撮影モード）の場合、表示可能なメニュー画面はありません。	–

付録

表　示	原　因	対処法	👁
スピードライトがポップアップしていません	被写体が暗いと自動的に上がるスピードライトを押さえています。	スピードライトを押さえていないことを確認して、再度シャッターボタンを半押ししてください。	32
レンズエラー ※表示パネルには Err が表示されます	• レンズの作動不良です。 • カメラのボディとレンズの間に指などがはさまっています。	カメラのボディとレンズの間に指などがはさまっていないことを確認して、カメラの電源を OFF にしてください。レンズエラー表示が続く場合は、ニコンサービスセンターまでご連絡ください。	26
通信エラー ※表示パネルには Err が表示されます	パソコンに画像を転送中、またはプリンタに画像を転送中にインターフェースケーブルの接続が外れたか、CF カードが取り出されました。	パソコンのモニタに警告メッセージが表示された場合、「OK」をクリックして PictureProject を終了してください（パソコンに画像を転送中の場合）。カメラの電源を OFF にした後、ケーブルを再接続するか、もう一度電源を ON にして転送してください。	98
プリンタエラー	プリンタに異常があります。	エラーの原因を処理した後、マルチセレクターの △ または ▽ を押して「**継続**」を選択し、Ⓔ を押すと、プリントを再開します。「**キャンセル**」を選択すると、その時点でプリントを中止します。	107
システムエラー ※表示パネルには Err が表示されます	カメラの内部回路にエラーが発生しました。	カメラの電源を OFF にして、AC アダプタを使用している場合は AC アダプタを外し、バッテリーを取り出します。再度バッテリーを入れてカメラの電源を ON にします。システムエラー表示が続く場合はニコンサービスセンターまでご連絡ください。	23 26

故障かな？と思ったら

カメラがうまく作動しないときは、お買い上げの販売店やニコンサービスセンターへお問い合わせいただく前に、下記の症状と原因をご確認ください。

●デジタルカメラの特性について

きわめて希なケースとして、液晶モニタに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、電源をOFFにして電池を入れ直し、電源をONにしてカメラを作動させてみてください。その際、カメラを長時間使用していますと電池が熱くなっていることがありますので、取り扱いには充分にご注意ください。ACアダプタのご使用時は、いったんカメラから取り外して再度カメラに取り付け、電源をONにしてカメラを作動させてみてください。また、この操作を行うことでカメラが作動しなくなった状態のときのデータは、失われるおそれがありますが、すでにCFカードに記録されているデータは失われることはありません。この操作を行ってもカメラに不具合が続く場合は、ニコンサービスセンターにお問い合わせください。

症　状	原　因	参照ページ
電源が入ってもすぐ切れる	• バッテリーの残量が少なくなっています。 • 低温下で使用しています。	31 178
表示パネルに何も映らない	• カメラの電源が入っていません。 • バッテリーが正しい向きで入っていません。またはバッテリーカバーがしっかりと閉まっていません。 • バッテリーの残量がありません。 • ACアダプタが正しく接続されていません。 • オートパワーオフ機能が作動しています。MENU、QUICK、DISP のいずれかのボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、モードダイヤルを他のモードに切り換えてください。 • インターバル撮影、または微速度撮影を行っています。	26 22 31 23 26 81 113
液晶モニタに何も映らない	• 撮影画像は電子ビューファインダーに表示され、液晶モニタが消灯しています。(液晶モニタ)ボタンを押して液晶モニタを点灯してください。 • レンズキャップが装着されています。レンズキャップを取り外してください。 • USBケーブルが接続されています。 • AVケーブルが接続されています。 • インターバル撮影、または微速度撮影を行っています。	15 11 99 97 81 113
液晶モニタにカメラの撮影情報、画像情報が表示されない	• 撮影情報、画像情報を非表示にセットしている可能性があります。設定内容の情報が表示されるまで DISP ボタンを押してください。 • スライドショーが行われています。	19 87 146

症　状	原　因	👁
液晶モニタの画面がよく見えない	• 周囲が明るすぎます。電子ビューファインダーを使用することをおすすめします。 • 液晶モニタが汚れています。 • 液晶モニタの明るさを調整してください。	15 176 163
シャッターボタンを押し込んでも撮影できない	• カメラが再生モードになっています。 • バッテリーの残量がありません。 • 撮影可能コマ数が 0 になっています。CF カードに空き容量がありません。 • スピードライト表示が点滅しています。スピードライトの充電中です。 • 液晶モニタ（または電子ビューファインダー）に「初期化されていません」というメッセージが表示されます。CF カードが COOLPIX8800 用に初期化されていません。 • 液晶モニタ（または電子ビューファインダー）に「カードが入っていません」というメッセージが表示されます。CF カードがカメラに挿入されていません。	84 31 30 34 137 24
撮影した画像が暗すぎる（露出不足）	• スピードライトが発光禁止になっています。 • スピードライトが指などでさえぎられています。 • 被写体がスピードライトの調光範囲外にあります。 • 露出補正がマイナス側にかかりすぎています。 • 液晶モニタ（または電子ビューファインダー）のシャッタースピード表示が点滅しています。シャッタースピードが速すぎます。 • 液晶モニタ（または電子ビューファインダー）の絞り値表示が点滅しています。絞りを絞りすぎ（数値が大きすぎ）ています。	52 32 53 59 64 65
撮影した画像が明るすぎる（露出過度）	• 露出補正がプラス側にかかりすぎています。 • 液晶モニタ（または電子ビューファインダー）のシャッタースピード表示が点滅しています。シャッタースピードが遅すぎます。 • 液晶モニタ（または電子ビューファインダー）の絞り値表示が点滅しています。絞りを開きすぎ（数値が小さすぎ）ています。	59 64 65
ピントが合わない	• シャッターボタンを半押ししたときや AE/AF-L ボタンを押したときに、被写体が AF エリア内に入っていません。 • オートフォーカスが苦手な被写体です。AF ロックを使用して撮影してください。 • 撮影距離が近すぎます。被写体から離れるか、マクロモードにするか、ズームを広角側にしてください。	124 36 55 187
スピードライト撮影時に、画像に白い点が写り込む	• スピードライトの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。スピードライトモードを発光禁止にして撮影するか、ズームの望遠側で撮影してください。	33 52

症　状	原　因	👁
画像がブレる	• 撮影中にカメラが動きました。手ブレ補正（VR）スイッチをオンにするか、高速シャッタースピードにしてください。 高速シャッタースピードにすると露出不足のおそれがある場合は： ・スピードライトを使用してください。 ・撮像感度を上げてください。 ・絞りを開放側（小さい数値）にセットしてください。 低速シャッタースピードでブレを抑えるには： ・セルフタイマーまたはリモコンを使用してください。 ・三脚を使用してください。 • カメラに装着したコンバータと「**コンバータ**」の設定が異なっています。撮影の前にかならず「**コンバータ**」の設定を確認してください。	60 64 52 69 65 56 57 – 121
画像にノイズが発生する	• 撮像感度が高感度側にセットされています。 • シャッタースピードが遅すぎます。1/4 秒以下の低速シャッタースピードで長時間露出撮影を行う場合は「**ノイズ除去**」を **ON**」に設定してください。	69 64 133
内蔵スピードライトが発光しない	• スピードライトが発光禁止になっています。 • 次の場合、スピードライトは自動的に発光禁止になりますのでご注意ください： ・シーンモードの（風景）、（夕やけ）、（夜景）、（ミュージアム）、（打ち上げ花火）、（クローズアップ）、（モノクロコピー）、（パノラマアシスト）、（スポーツ）、（トワイライト）がセットされている場合 ・フォーカスモードが（遠景モード）にセットされている場合 ・動画モードの場合（「**微速度撮影**」を除く） ・連写モードが「**連写 H**」、「**連写 L**」、「**マルチ連写**」、「**UH 連写**」または「**サーキュラー連写**」に設定されている場合 ・「**BSS**」が「**OFF**」以外に設定されている場合 ・「**スピードライト**：**発光切替**」が「**内蔵発光禁止**」に設定されている場合 ・外付けスピードライトが接続されている状態で、「**スピードライト**：**発光切替**」が「**オート**」に設定されている場合 ・「**コンバータ**」が「**OFF**」以外に設定されている場合	52 40 55 77 111 115 129 129 121
リモコン ML-L3 で撮影できない	• セルフタイマーがセットされていません。 • シーンモードが（ミュージアム）、（打ち上げ花火）、（スポーツ）の場合、リモコンは使用できません。 • 動画撮影時にはリモコンは使用できません。	56 43 45 80

付録

症　状	原　因	👁
電子ズームが使用できない	• 画質が「**RAW**」、「**HI**」にセットされています。 • 連写モードが「**マルチ連写**」、「**UH 連写**」に設定されています。 • 「**コンバータ**」が「**ワイドコンバータ**」または「**フィッシュアイ**」に設定されています。 • 「**ズーム**：**電子ズーム**」が「**OFF**」に設定されています。	48 111 121 126
画像が自然な色合いにならない	• ホワイトバランスが光源と合っていません。 • 彩度調整が適切にセットされていません。	71 118
画像が再生できない	• パソコンや他社製のカメラで画像が上書きされたか、名前が変更されました。	–
トリミングができない	• レビュー再生モードまたは簡易再生モードになっています。 • トリミングができない画像です。 • CF カードの空き容量が少なくなっています。画像の削除などを行って、空き容量を確保してから作成してください。	37 90 139
スモールピクチャーを作成できない	• レビュー再生モードまたは簡易再生モードになっています。 • スモールピクチャーが作成できない画像です。 • CF カードの空き容量が少なくなっています。画像の削除などを行って、空き容量を確保してから作成してください。	37 93 139
D- ライティングができない	• レビュー再生モードまたは簡易再生モードになっています。 • D- ライティングができない画像です。 • CF カードの空き容量が少なくなっています。画像の削除などを行って、空き容量を確保してから作成してください。	37 95 139
再生時に画像の拡大表示ができない	• 表示画像が動画です。 • 表示画像がスモールピクチャーです。 • 表示画像が 320 × 240 以下にトリミングされています。	77 92 90
テレビに液晶モニタの画面が映らない	• AV ケーブルが正しく接続されていません。 • テレビの入力切換が「ビデオ」になっていません。 • ビデオ出力方式が正しく設定されていません。	97 – 172
カメラをパソコンに接続したとき、またはCFカードをカードリーダやカードスロットに挿入したときに、PictureProject が 自動的に起動しない	• カメラの電源が入っていません。 • AC アダプタ（別売）が正しく接続されていません。またはバッテリーの残量がありません。 • USB ケーブルが正しく接続されていません。 またはカードがカードリーダ、PC カードアダプタ、またはカードスロットに正しく挿入されていません。 PictureProject については PictureProject リファレンスマニュアル（CD-ROM）をご参照ください。	26 23 31 99

付録

主な仕様

COOLPIX8800

型式	ニコンデジタルカメラ E8800
有効画素数	8.0 メガピクセル
撮像素子	2/3 型原色 CCD 総画素数：8.31 メガピクセル
記録画素数（pixel）	• 3264 × 2448（8M） • 3264 × 2176(3：2) • 2592 × 1944（5M） • 2048 × 1536（3M） • 1600 × 1200（2M） • 1280 × 960（1M） • 1024 × 768（PC） • 640 × 480（TV）
レンズ	10 倍ズーム ED ニッコールレンズ、 f=8.9 ～ 89mm（35mm 判 換 算 35 ～ 350mm）、 F2.8 ～ F5.2（10 群 16 枚）、ED レンズ 2 枚使用
手ブレ補正	レンズシフト方式
電子ズーム	最大 4 倍（35mm 判換算で約 1400mm 相当）
オートフォーカス	コントラスト検出方式 TTL AF、マルチエリアオートフォーカス可能
撮影距離	50cm ～∞（もっとも広角側）、1m ～∞（もっとも望遠側） （マクロモード・マニュアルフォーカス時はレンズ前約 3cm ～∞ [もっとも広角側]、レンズ前約 1m ～∞ [もっとも望遠側]）
AF エリア	中央、5 ヶ所（自動選択）、9 ヶ所（手動選択）
AF 補助光	クラス 1 LED 製品 (IEC60825-1 Edition 1.2^{-2001}) 最大出力値 1700 μ W
ファインダー	カラー液晶ビューファインダー、0.44 型高温ポリシリコン TFT 液晶、235,000 画素、視度調節機能付き
倍率	約 0.3 ～約 3
視野率	上下左右とも約 97%
視度調節	$-3 \sim +1\,\mathrm{m}^{-1}$

液晶モニタ	1.8 型　高透過アドバンスト液晶、134,000 画素、輝度調整・色調調整機能付き
視野率（撮影時）	上下左右とも約 97%（対実画面）

記録形式	
記録媒体	コンパクトフラッシュカード（Type I/II)、 マイクロドライブ対応
画像ファイル	Design rule for Camera File system (DCF)、Exif 2.2 準拠、Digital Print Order Format (DPOF) 準拠
ファイル形式	圧縮：JPEG-baseline 準拠 EXTRA（約 1/2）、FINE（約 1/4）、 NORMAL（約 1/8）、BASIC（約 1/16） 非圧縮：RAW（NEF）、HI（TIFF-RGB） 動画：QuickTime 音声：WAV

露出	
測光方式	4 モード TTL 測光方式 • 256 分割マルチ測光　• スポット測光 • 中央部重点測光　• AF スポット測光
露出制御	プログラムオート（プログラムシフト可能）、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出、露出補正（－ 2.0 ～＋ 2.0 EV、1/3 EV ステップ）可能、ブラケティング、AE-BSS
露出連動範囲	広角側：EV 0.0 ～＋ 18.5 望遠側：EV ＋ 1.8 ～＋ 18.5

Design rule for Camera File system（DCF）について

COOLPIX8800 は、Design rule for Camera File system（DCF）に準拠しています。DCF は、各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。

Exif ※ Version 2.2 について

COOLPIX8800 は、Exif Version2.2 に対応しています。Exif Version 2.2 は、デジタルカメラとプリンタの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。Exif Version 2.2 対応のプリンタを使用することで、撮影時のカメラ情報を活かし、プリンタが最適なプリント出力を提供することができます。プリンタの使用説明書を読んでご使用ください。

※ Exif = Exchangeable image file format

シャッター	メカニカルシャッターとCCD電子シャッターの併用
シャッタースピード	2～1/3000秒※（プログラムオート、オート撮影モード）、8～1/3000秒※（シャッタースピード優先オート、絞り優先オート）、10分までの長時間露出および8～1/3000秒※（マニュアル露出）、UH連写時は1/30～1/8000秒 ※ 絞り値により高速側のシャッタースピードは1/1500秒に制限されます。
絞り	7枚羽根虹彩絞り
制御段数	10（1/3 EVステップ〈但し最小絞りF8.0まで〉）
撮像感度	ISO50相当、感度切り換え可能（オート、ISO50、ISO100、ISO200、ISO400相当）
セルフタイマー	約10秒、約3秒 付属のリモコンML-L3使用可能
内蔵スピードライト	
調光範囲	約0.5～6m（広角側）、約1～3m（望遠側）（ISO AUTO時）
調光方式	i-TTL調光制御（スタンダードi-TTL調光）制御
アクセサリーシュー	ホットシュー接点、セーフティロック機構（ロック穴）付き
シンクロ接点	X接点のみ
インターフェース	USB2.0 High-Speed
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
入出力端子	• DC入力端子 • デジタル端子（USB）／オーディオビデオ（AV）出力端子
表示言語	ドイツ語、英語、スペイン語、フランス語、イタリア語、オランダ語、スウェーデン語、日本語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語から選択可能
電源	• Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL7（付属） • バッテリーパックMB-CP11（別売）［単3形アルカリ、リチウム、ニッケル水素電池各6本使用］ • ACアダプタEH-54（別売）

連続撮影コマ数	約 240 コマ　CIPA 規格による※ ※ CIPA 規格は、カメラ映像機器工業会による電池寿命測定方法を定めた規格です。測定条件は、25℃、撮影毎にズーム、2 回に 1 回の割合でスピードライト撮影、画質「NORMAL」、画像サイズ「8M」です。

外形寸法	約 116（W）×約 85（H）×約 121（D）mm

質量（重さ）	約 600g（バッテリー、メモリカードを除く）

動作環境	
温度	0 ～ 40℃
湿度	85% 以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは、すべて常温（25℃）、付属の専用リチャージャブルバッテリー EN-EL7 をフル充電で使用時のものです。

バッテリーチャージャー MH-56

電源	AC 100 － 240 V　50/60Hz　0.19 － 0.12A
定格入力容量	16 － 12VA
充電出力	DC 8.4 V/800 mA
適応電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL7
充電時間	約 2 時間 30 分 ※残量のない状態からの充電時間
使用温度	0 ～＋ 40℃
寸法	約 75 mm（W）× 30 mm（H）× 85 mm（D）
コード長	約 1800 mm
質量（重さ）	約 94 g（電源コードを除く）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL7

形式	充電式リチウムイオン電池
定格容量	7.4 V/1100 mAh
外形寸法（突起部除く）	約 36 mm（W）× 56 mm（H）× 16 mm（D）
質量（重さ）	約 70 g（端子カバーを除く）

使用説明書について

- 使用説明書の誤りになどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

索引

記号

A

B

C

D

E

F

H

I

J

M

N

O

付録

付録

付録

へ

ほ

ま

み

む

め

も

や

ゆ

り

れ

ろ

わ

アフターサービスについて

■この製品の操作方法についてのお問い合わせは

この製品の操作方法について、さらにご質問がございましたらニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAX または郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■製品の修理に関するお問い合わせは

ニコンカメラ販売株式会社　サービス部
〒 140－0015　東京都品川区西大井 1－6－3
TEL 03－3773－2221　受付時間：祝日を除く月～金（9：00 ～ 17：45）
＊ このほか年末年始、夏期休暇など、都合により休業する場合があります。

◆当サービス部では、修理品の直接受け付けならびに受け渡しに関する業務は行っておりません。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービスセンターにご依頼ください。

- ニコンサービスセンターにつきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービスセンターにご相談ください。
- 修理に出されるときに、CF カードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後 7 年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店、またはニコンサービスセンターへお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービスセンターにお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社ホームページでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/ei_cs/index.htm

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行
TEL:0570-02-8000　　FAX:03-5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：　　　　年　　月　　日
お買い上げ日：　　　　年　　月　　日
製品名：　　　　シリアル番号：
フリガナ お名前：
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL: FAX:
ご使用のパソコンの機種名： メモリ容量：　　　　ハードディスクの空き容量： OS のバージョン：　　　　ご使用のインターフェースカード名： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：
問題が発生したときの症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

技術的なお問い合わせのご案内

製品の操作に関する技術的なお問い合わせは、下記のニコンカスタマーサポートセンターをご利用ください。

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

☎ **0570-02-8000**
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30〜18:00（年末年始、夏期休暇等を除く毎日）
携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033** におかけください。
FAXでのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。

ニコン宅配修理サービスのご案内

修理品梱包資材のお届けから修理品のお引き取り、修理後の製品のお届けまでのサービスは下記をご利用ください。（有料サービス）

＜ニコン宅配修理サービスお申し込み専用窓口＞

0120 FreeDial ☎ **0120-868-545**

携帯電話やPHS等からのご利用はできません。
営業時間：9:30〜17:30（土・日・祝日を除く毎日）年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

なお、上記フリーダイヤルでは宅配修理サービス関連以外のご案内は行っておりません。

株式会社 ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

Printed in Japan
SB4L00100301(10)
6MA04210--